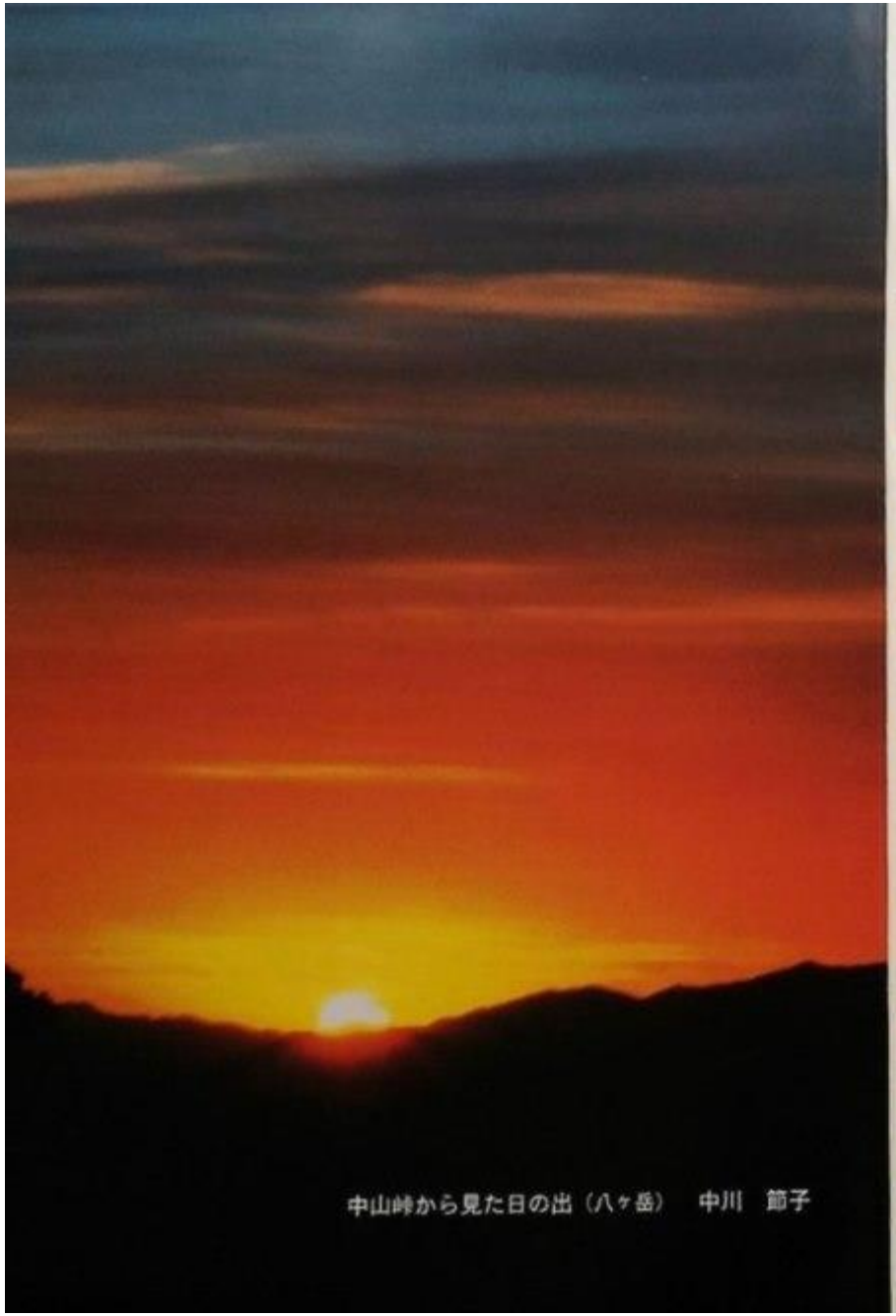


中山峠から見た日の出（八ヶ岳）　中川　節子

世界の山旅
辺境の旅

35 ANNIVERSARY

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

ツアーカタログをご請求ください

（A4変型88頁）　（A4変型28頁）　（A4変型32頁）

山岳エキスパートTL同行の人気コース

NZ「アルプス街道」日帰りハイキング満喫 8日間

出発地 大阪・東京

- ●2/26発 ¥426,000
- ●1/17●3/8発 ¥432,000
- ●1/31●2/24発 ¥438,000

グリーンストーンとルートバーンを満喫する！

グランド・トラバースとマウントクック 11日間

出発地 大阪・東京

- ●2/21発 ¥548,000
- ●3/14発 ¥514,000

連続4日間のオーロラチャンス！

アビスコ王様の散歩道 オーロラとスノーシューハイキング 6日間

出発地 大阪

- ●1/24発 ¥298,000
- ●3/7発 ¥328,000

山小屋泊まりの人気コース

ミルフォード・トラックとマウントクック 10日間

出発地 大阪・名古屋・福岡

- ●1/9●2/17発 ¥429,000

ニュージーランド随一の山岳展望

ルートバーン・トラックとマウントクック 9日間

出発地 大阪・名古屋・福岡

- ●2/15発 ¥388,000
- ●1/1発 ¥458,000

ニュージーランド・ベスト・トレッキング

ミルフォードとルートバーンとマウントクック 15日間

出発地 大阪・名古屋・福岡

- ●2/13●3/6発 ¥568,000
- ●1/2発 ¥598,000

高所順応しながら世界最高峰に迫る！

エベレスト・カラパタール登頂トレッキング 19日間

出発地 大阪・東京・名古屋・福岡

- ●2/27●3/13●4/3●4/17発 ¥398,000

アンナプルナとダウラギリの麓部を展望（ロッジ泊まり）

アンナプルナ・ダウラギリパノラマ・トレッキング 9日間

出発地 大阪・東京・名古屋・福岡

- ●1/25●2/26●3/8●3/19発 ¥298,000

エベレスト山麓の人気コース（ロッジ泊まり）

エベレスト・パノラマトレッキング 12日間

出発地 大阪

- ●3/9●3/23●4/13●5/11発 ¥325,000
- ●4/27発 ¥398,000

マレーシア航空コタキナバル直行便で行く

Mt.キナバル登頂とジャングルクルーズ 6日間

出発地 大阪

- ●1/18発 ¥176,000
- ●2/8発 ¥181,000
- ●3/22発 ¥183,000

ビクトリアの滝、喜望峰、ケープ半島

南アフリカ周遊ハイキングとテーブルマウンテン縦走 8日間

出発地 大阪・東京・名古屋・福岡

- ●2/5●3/19発 ¥398,000

アフリカ大陸最高峰に登頂

キリマンジャロ ゆったり登頂 10日間

出発地 大阪

- ●2/16●3/16発 ¥478,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。　http://www.alpine-tour.com

国土交通大臣登録旅行業第490号／社団法人旅行業協会正会員 ⓐ エンゼル保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

本社 〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F
東京／☎03(3503)1911　大阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福岡／☎092(715)1557
札幌／☎011(711)7106　仙台／☎022(265)4611(転送)
(㈱)りんゆう観光　広島／☎082(542)1680(転送)
e-mail:info@alpine-tour.com

山仲間でオリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで
企画ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

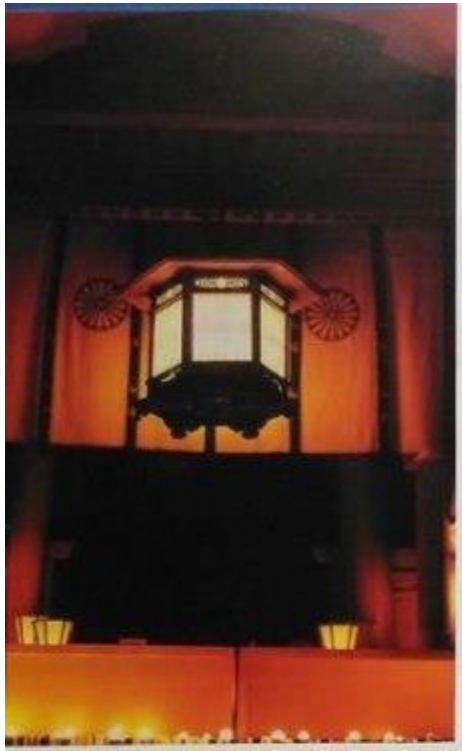
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい、いつもの山仲間で海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会　山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。

Photo essay

立春

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永惠一

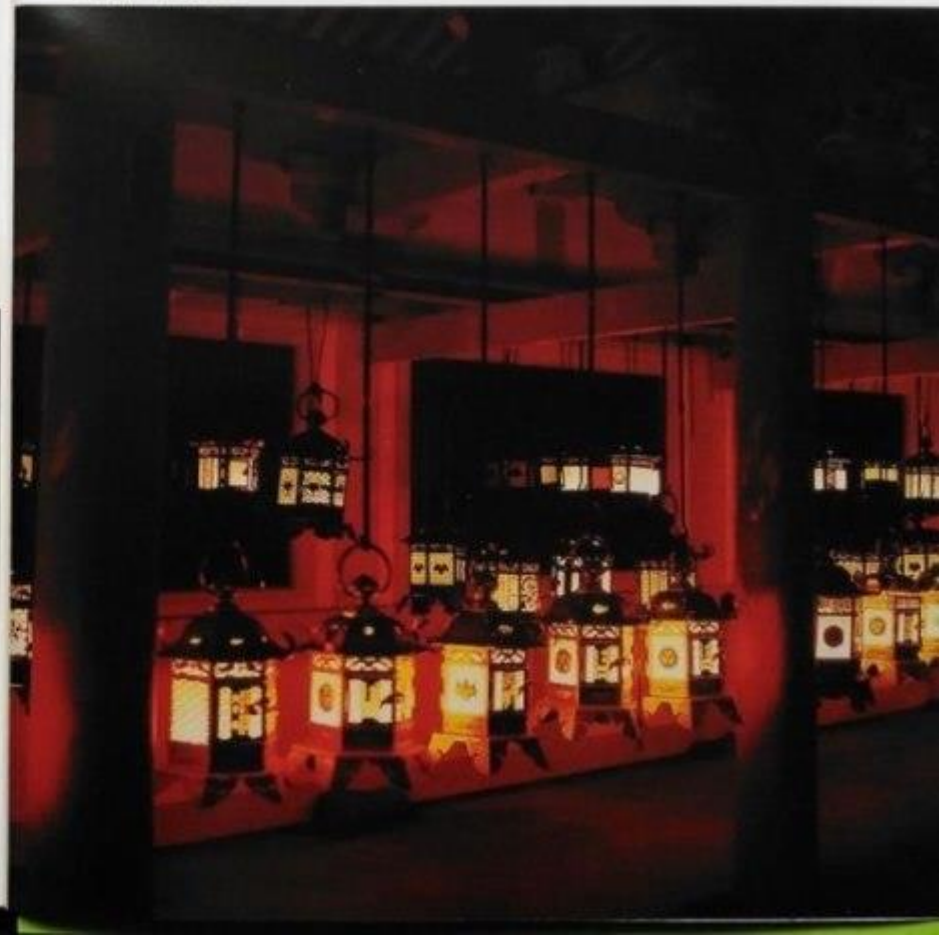


拝殿（春日大社）

節分　立春の前日　冬の最後の日
豆まき　太巻き　鰯　立春大吉
元興寺柴燈大護摩会　12時～
二月堂節分豆まき　14時～
興福寺鬼追式（追儺）18時～
春日大社節分万燈籠　18時～
境内の燈籠三千基に火が燈される
大社がぼやっと夜空に浮び上がる
回廊沿いの御手洗川に映る灯影
幻想的な世界に包まれる
武運長久　五穀豊穣　無病息災
所願成就　家内安全　商売繁盛
神に願い神と語らう
燈籠のひとつひとつに
切実なる思いが込められている

若草山焼（朱雀門より望む）

万燈籠（春日大社）



季節の実景

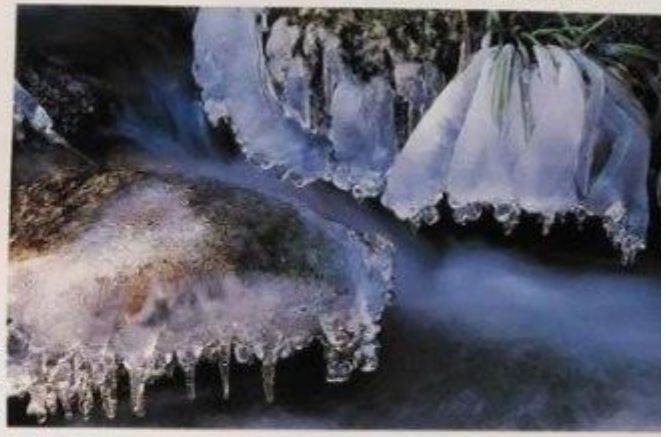
冬の滝

新春

撮影　武市通治

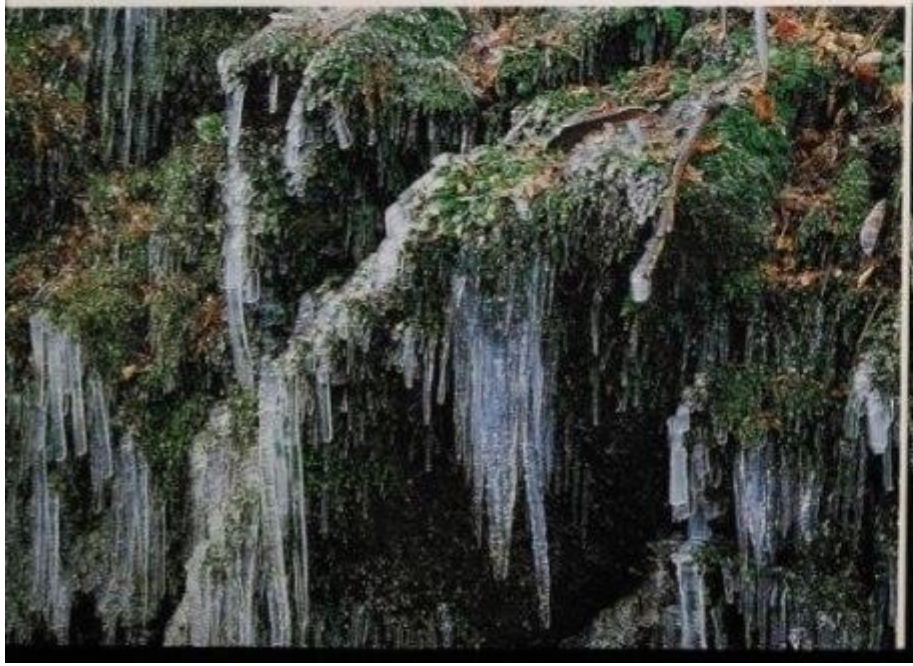
淡雪

凍る野草



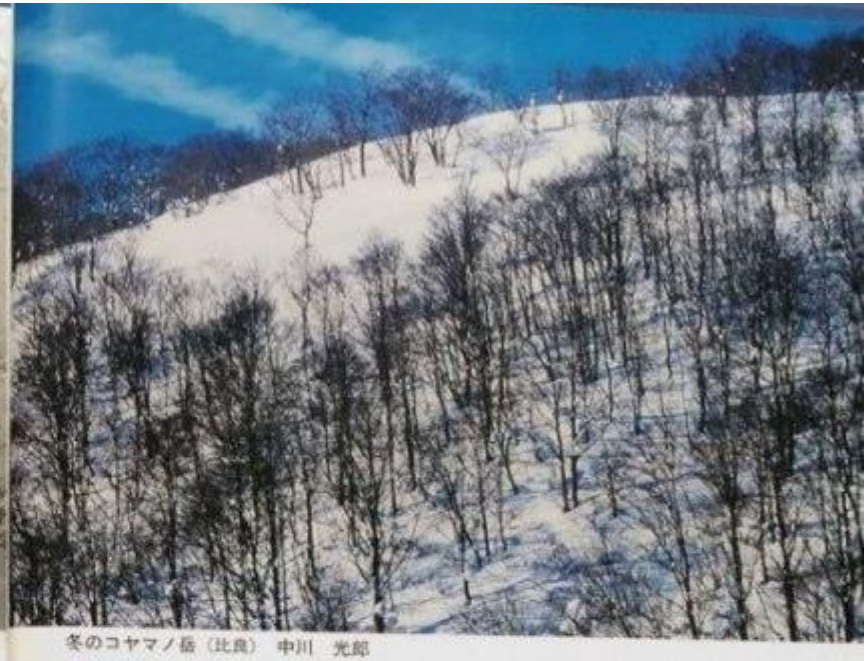
冬の流れ

氷柱



鶏鳴の滝

大又から明神平へ凍てる山道（台高） 一芝 義雄



冬のコヤマノ岳（比良） 中川 光郎

明神平の樹氷（台高） 一芝 義雄

冬のコヤマノ岳（比良） 中川 光郎

新ハイキング 別冊 関西の山
'05年1・2月 新春 第80号

●目次

表紙：松田敏男「薬沢ノ頭中腹より夕焼けの甲斐駒ヶ岳」（南アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳絵画、山岳画の個展多数開催。（金沢平家物語、南アルプス生物小屋、東京キャラリー百号、他）
京都山と絵に親しむ会代表、日本山岳会会員

●グラビア　立春……撮影　由井　収
季節の実景（新春）「冬の滝」……武市　遥治　4
（口絵）中川節子　中川光郎　一芝義雄　奥田英一郎

随想（山のエッセイ）
鮭の遡上……松永　恵一　2
南アルプスの花……生駒　巽峰　10
1等三角点磯妙山に行く……鷲見　守康　11
湯浅　康夫　12

紀行
伊吹山・比良山そして蔵王の樹氷……生駒　巽峰　14
葛ノ山・仏ノ尾（関田国境）……篠山　誠峰　18
桟敷ヶ岳（京都北山）……木村　太郎　22
頂仙岳・八経ヶ岳・明星ヶ岳（大峰）……島田浩一郎　26

連載　標高による山の紹介シリーズ 20　△△80㍍の山
別山・大笠賢岳・若狭駒ヶ岳……松田　敏男　30
根子岳・美ヶ原（上・中信）……鷲見　守康　32
カラ岳北方尾根を下山（北信）……小山　誠次　36
カラコラム街道を走る（パキスタン）……金谷　昭　41

連載　三角点を訪ねて㉜
奥美濃入門の山、小島山からムネ山へ（岐阜県）……磯部　純　50

●エリア別徹底研究　伊能ウォーク　INやまと
①駿部川～能田神社　②能田神社～王寺（奈良）……上田　伸弘　54
●長尾（中山）連峰縦走（兵庫）……中村　敏文　58
●文学歴史探訪ハイク㊱
極楽橋から高野山へ（奈良）……松永　恵一　62
●〈山のレポート〉山の地名を歩く㊲「坪ヶ岳」……西尾　寿一　66
●〈山のレポート〉酉年の山……生駒　巽峰　70

コースガイド
①鎌刃城跡とその周辺（滋賀）……長宗　清司　72
②魚谷山から貴船山（京都北山）……山形　政之　74
③恵田谷を経て大比叡（比叡）……松尾　一郎　76
④左門岳（関西）……金谷　昭　80
⑤白荊ヶ岳から鬼ヶ牙（鈴鹿）……磯部　純　83

せせらぎ……86
サービスチェーン……86
新ハイ関西山行計画……92
新ハイ関西山行報告……101
編集後記・広告案内……112

巻頭言

山歩きの解放感、反省会と称して有志を募り、居酒屋でビールや日本酒を飲めば楽しい一日がより充実してきます。うまい料理を注文してもワリカンで1人3000円まで。山ではあまり話ができなかった人とでもこの場では会話がはずみ、これが情報源となり、参考意見や提案も多く聞こえます。

「新ハイキング」関西版を始めてから既に14年目。第1号から比べてページ数は増えましたが、底に流れる山に対する考え方は本質的に変わっていないと思います。日頃の山行例会を重視する。山は理屈ではない、まずは登って汗を流して楽しむのが一番とやってきました。高い山に挑戦するでもなく、技術的指導もしていません。講演会・定例会議・懇親会・何々展・何周年記念行事などもしていません。今後の課題とします。

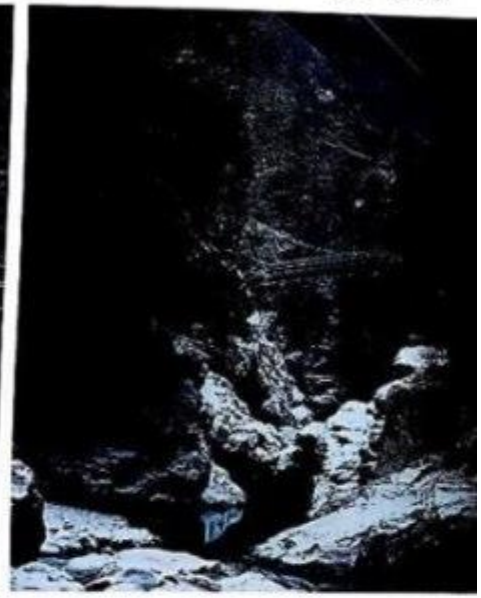
さて、今年の干支は酉、私は酉年生まれで年男。酉の字義は「お酒をかもす瓶」で、酒・醸・酌・酎・酔・酵の字をみればおわかりでしょう。まさにお酒の年、今年は特に山歩き後の反省会を大切にしたいと思います。

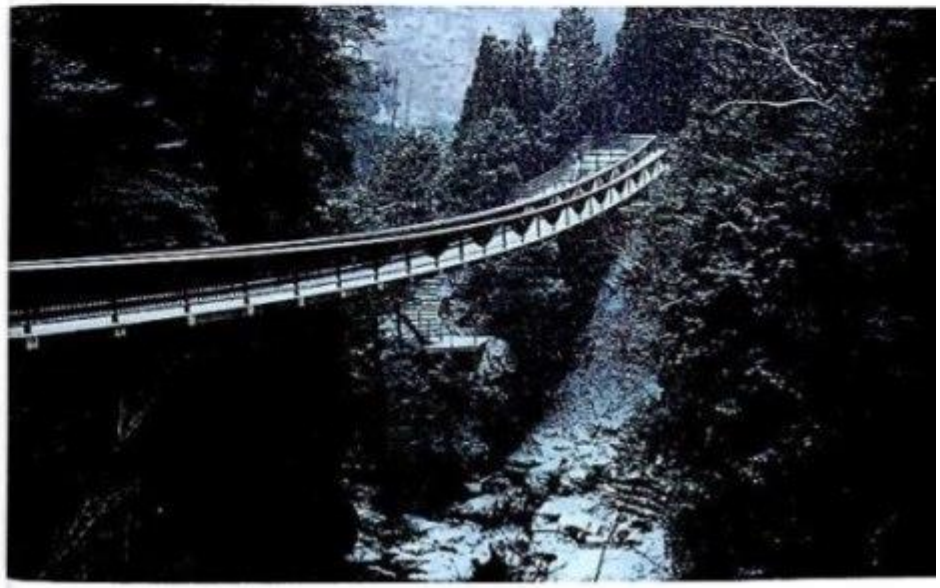
今年もよろしくお願い申し上げます。

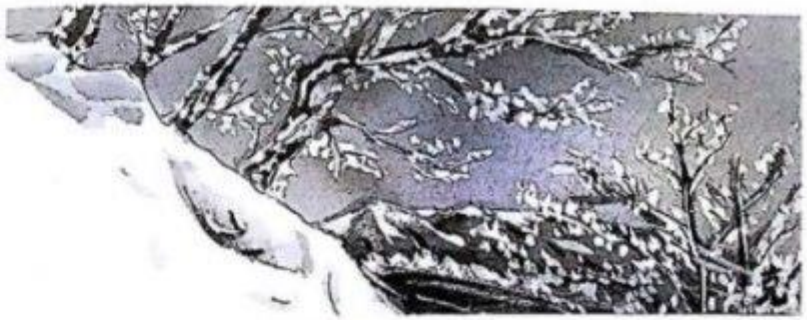
新ハイキング関西（代表）村田　智優

1月のみたらい渓谷（大峰）－吊橋三題－

奥田　英一郎







鮭の遡上

生駒　豊峰

10月の初め、黄葉を見たいと北海道に車を走らせた。夏の北海道は何回も訪れているが、秋は初めてである。ところが黄葉は終わり、山はすでに冬枯れであった。しかし、鮭の遡上が最盛期で、遡上見物となった。

北海道を周遊していると、各所に鮭の養殖場が見られる。シーズン以外でも見学できるが、鮭の遡上はこの時期にしか見られない。

鮭の遡上は9月から始まるが、その時期でも常時見られるわけではなく、ある日突然遡上が始まり、終わると姿が見えなくなる。いつ遡上するかはわからないそうである。

案内所で尋ねても、「きのうはたくさん見られたのだが」と言う話になる。「しかし、道北に行けば条件がよいので、常に見られるだろう」と言う。

知床に走り、斜里町の役場で尋ねると、「遠音別川なら見られます」との話。有名なオシンコシンの滝手前の駐車場には、観光バスまで停まっていた。

橋の上流50㍍くらいの所に簗（梁止め）があり、十数匹の鮭の姿が見える。簗のために遡上できずに停滞している。簗が無ければ見られないことになる。もっとも簗の先は養殖場で一網打尽になってしまう。

淵上する魚は傷つき錆びて哀れな姿で、見ていても痛々しい。とても食欲が起こるような姿ではない。鮭の遡上する川には養殖場があり、自然に産卵できるのは知床半島の一部の川だけと思われる。

知床峠を越えて羅臼にくだる。ビジターセンターで鮭の様子を尋ねると、「羅臼川の河口でも見られるが、先日相泊川でたくさん見られた。今はどうかな」と話していた。その日によって違うらしい。

羅臼川の河口には網が張られ、止められた鮭が数匹、哀れな姿を晒していた。折から漁港では、沖捕りの鮭が多く水揚げされており、銀鱗も鮮やかに跳ね上がり、遡上の鮭とは全く違った姿を見せていた。

道の駅の売店では、一匹2～3000円で売られている。いかにもおいしそうで、欲しいと言ったら、旅行中なのにどうして食べるの、と妻に断られた。

標津に向かう途中にも、鮭の遡上が見られる蘂別川があり、覗いてみたが、雨の増水で何も見えなかった。鮭を釣らせる忠類川も、やはり増水で釣れないとのことだったが、予約無しでもよく、1日5匹まで釣れる。もっとも滅多に5匹も釣れないそうだ。遡上日には、1日で1万数千匹も釣れたと話していた。ルアーとフライで釣るらしい。標津の鮭センターなら、いつでも遡上の鮭が見られると聞いて標津に走る。

ここは立派な観光施設があり、裏の標津川では鮭の遡上が見学できる。幅100㍍程の川に分流がつくられ小さい堰がある。その堰下に何万という鮭が群がり、堰を越そうと次々と飛び上がる。横の石垣にも飛び上がりそこねた魚が跳ねる。広い本流には続々と遡上する鮭が背びれを見せ、いつかテレビで見た映像そのままであった。これを見て初めて鮭の遡上を見たと思った。

センター内の庭園には細流がつくられ、鮭が遡上してくる。一匹を妻が手掴みで引き上げる。重さ7～8㌔の鮭は一瞬跳ねると、妻の手を離れて流れに戻っていった。カメラを手にする間もなかったが、生きた鮭を手掴みして、妻は興奮していた。

随想（山のエッセイ）

南アルプスの花

鷲見　守康

札幌郊外では千歳の鮭センターが有名で、シーズンでもあり、大勢の観光客が押し寄せている。しかし、カラカラと廻るインデアン水車には一匹の鮭の姿もなく、もちろん大勢の人が覗き込む川にも全く鮭の姿はない。標津の鮭を一目見せてやりたいと思った。

3000㍍級の峰々が続く日本アルプスに登る大きな楽しみの一つは、色とりどりに咲く高山植物との出会いでしょう。世界でも最も厳しいというわが国の高山の気候に耐え抜いて、短い夏に一斉に花開く姿は、可憐という言葉がぴったりです。

高山植物といえば、北アルプスを思い起こす登山者が多いのでしょうが、実は、お花畑の規模などは南アルプスのほうが大きいようです。

最高峰の北岳は、本州では北アルプスの白馬岳に匹敵するほどの種類数を誇り、北岳にしかないという固有種も存在します。北岳のほか、仙丈ヶ岳や塩見岳、そして荒川三山や赤石岳を歩けば、南アルプスの花の見事さが納得できるのではないでしょうか。

昨夏、新ハイ例会山行で荒川三山と赤石岳を歩き、花の種類数やお花畑の規模と密度に圧倒される思いでした。

南アルプスの高山の花は、冬期の積雪量と地質の違いから、北アルプスとは少し種類を異にします。

高山の植生は、クルマユリ・コバイケイソウ・クロトウヒレン・ミヤマキンポウゲ・オニシモツケ・ハクサンフウロなどに代表される高茎草原群落、ハイマツ・キバナシャクナゲ・ハク

サンシャクナゲ・ウラジロナナカマド・リンネソウ・コケモモなどに代表されるハイマツ群落、クロマメノキ・ミネズオウ・ウラシマツツジ・ガンコウラン・トウヤクリンドウ・ミヤマダイコンソウなどに代表される高山風衝わい性低木群落、オヤマノエンドウ・ウルップソウ・タカネツメクサ・ミヤマシオガマ・チョウノスケソウ・イワギキョウなどに代表される高山風衝草原群落、コマクサ・タカネスミレ・オヤマソバなどに代表される高山荒原草原、イワウメ・イワヒゲ・シコタンソウ・ムカゴユキノシタなどに代表される高山岩壁植生、そして、クロユリ・ハクサンコザクラ・アオノツガザクラ・ミヤマリンドウ・ハクサンイチゲ・チングルマなどに代表される雪田植生に分けることができます。

積雪量が少なく、堆積岩が多い南アルプスは、このうち高山荒原草原と雪田植生の発達が悪く、ハクサンコザクラ・ミヤマリンドウ・コマクサ・タカネスミレなどは分布していません。

一方、タカネビランジ・タカネマンテマ・キタダケヨモギ・ハハコヨモギなど、北アルプスには分布しない花があります。今回、千枚岳から悪沢岳にかけて、シロバナタカネビランジとハハコヨモギを見ることができました。

また、南アルプスの花は、種類によって分布が偏っているような気がします。そのことは、高山性のヨモギ類やセリ科の花でかなりはっきりとわかりました。

千枚岳から赤石岳のいくつかのお花畑に、ヨモギ類では、ミヤマオトコヨモギの斜面、アサギリソウの斜面、タカネヨモギのお花畑と移り変わり、セリ科の花では、ミヤマシシウドが目立つお花畑、タカネイブキボウフウとミヤマウイキョウのお花畑、赤石岳ではミヤマゼンコーの色のお花畑へと移り変わっていったのです。

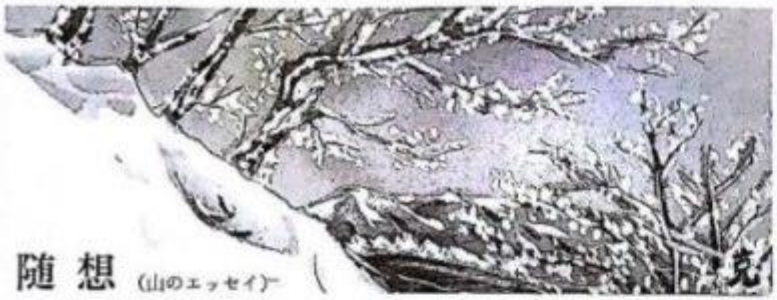
この変化は、おそらく地質の違いに起因しているのでしょう。千枚岳から荒川三山を歩いた一日は、風雨に悩まされ、ゆっくりと花を観察するゆとりに乏しかったのですが、それでも印象に残る変化でした。

1等三角点 磯砂山に行く

湯浅　康夫

京都府に八つある1等三角点のうち、丹後の磯砂山を歩いた。無駄を承知で八つを列記すれば高度順に、地蔵山・長老ヶ岳・大比叡・烏ヶ岳・太鼓山・鷲峰山と、この磯砂山と多禰寺山である。

天女が天空から舞い降りて水



随想（山のエッセイ）

浴したという羽衣伝説は、日本には数多く伝承されているが、この磯砂山の天女伝承は日本最古のものといわれている。「丹後国風土記」やテレビ番組の日本昔話に詳しいのでここではふれない。ただ羽衣をまとった天女が舞い降りたという女池の現実は想像するだにむなしい。

なぜならば天女達は18歳からせいぜい22～23歳くらいでなくてはならない。彼女達はその薄物をハラリと脱ぎ木の枝に掛けたのに相違ない。ほほえみながら健康的に水をかけ合ったりしたのに相違ない。また泳いだり、もぐったりして魚達と語らい、ひなたぼっこをしたり、くすぐり合ったりして遊んだのに相違ない。

ところが、目の前の女池は植林の中で薄日すらささないほどの暗色で、さらに池にはホオやササの葉が沈殿し、水浴すれば泥でかえって汚れるような水質の小さな池だ。

さて、大成コースを東へ歩き出そうと駐車場で軍備をしつつ、ふと後ろを見るとイワナシがぴっしりと蕾を付け春を告げている。フキノトウやツクシが頭を出しているので、昼の鍋の食材に採取する。

林道ではミソサザイがチルチルとさえずりの練習中だ。残雪もある。スギ・ヒノキ・竹林を過ぎ、大路からの出合いにトイレ付きの小屋がある。S字にカーブし百数十㍍行くと林道終点だ。少し行くと階段が1010段あり、「てんてん階段」と洒落ている。

峠に着くと常吉コースとの出合いで、南に冒頭の女池へ小さなアップダウンを往復する。峠に戻り木材チップの敷かれた登山道を行くと「南無妙法蓮華経」と彫られた石塔に出合う。直登の階段を登りつめれば広い山頂（661・0㍍）で、四方をしっかりと石で守られ真南を向いた1等三角点に挨拶をする。

うっすらとガスがかかり展望不良。大江山らしい、高竜寺ヶ岳らしい、依遅ヶ尾山らしい、太鼓山らしい山々が見られた。山頂広場にはいくつも椅子やテーブルもあり、宴は至福のひとときどころか1時間半も続いた。

下山は北西に破線の道を探索する。破線の切れた所から西にくだろうとルートファインディングしたが約600㍍地点で踏み跡に引きずられ、北に尾根を間違ってくだってしまった。踏み跡がなくなり、先は垂直に落ち込んでいた。

あきらめて山頂に戻る。途中間違った西向きの道を見つけ、少しくだると倒木と濃い下生えで道は死んでいて、決行すると相当な難渋をするところだった。

往復コースをとり、マンサクを愛でながらご機嫌で帰路についた。

雪・雪・雪山に遊ぶ

伊吹山・比良山そして蔵王の樹氷

生駒聳峰

三角点のある山ばかりを追いかけている私は、雪の山には縁がない。なぜならば、雪の山に登っても三角点標石は雪の下で見ることができないからだ。クラブなどの山行で雪山に行くことはあるけれど、自分が計画して出かけたことは全くない。

北海道などのやぶ山は、夏には登頂不可能でも、積雪の時期なら簡単に登頂できる所もあるが、前述のような理由から、今まで雪山に出かけたことがない。1等三角点登頂の先輩坂井久光氏は、標石が確認できなくても標石のある山に登れば良しとしているが、私は標石を確認するまでは完登とはしない。もっとも人それぞれで、何も言うことはない。

それはさておき、雪山の魅力は承知しているので、機会があれば登りたいと思っていた。しかし、三角点に追われてなかなか機会がなかった。

1等三角点の制覇も完了に近づき、少し山行に余裕ができ、今冬は雪山に食指が動いてきた。もともと単独行が多い私だが、雪山での単独行は好ましくないし、雪の技術も用具の持ち合わせもない。そのうえ年も年だと自重していた。

伊吹山登山

ある日配布された市報を見ると、伊吹山の雪山ハイキングの案内が目についた。市の山岳会主催で市民を連れて行くという。1人では行き難いが、団体に参加すれば面倒がみてもらえる。危険も少ないだろうと参加した。私としては、団体登山に参加することなど、海外山行以外にはないことである。

2月中旬の休日、天候はあまり良くなかったがバスで登山口に向かう。団体登山のよいところは交通の利便にある。

バスは伊吹山の登山口、上野のゴンドラのりばの下まで運んでくれた。スキーは雪が少なくて出来ないらしく、人の姿は少なかった。ゴンドラに乗り5分ばかりで三合目に到着する。小雨が降り雪はまばらで、スキー客の姿はなかった。見上げる伊吹山頂は雲に包まれていて姿を現さない。

五合目あたりから雪が増え出し、アイゼンを着ける。旅行にしてもそうだが、今回も女性のほうが断然多く、しかも立派な装備を持っていて、スタイルひとつ比べても、私などは見劣りする。いつものやぶ漕ぎスタイル然なので、そばにも寄れない。アイゼンひとつ取り上げても、私は四本爪の軽アイゼンしか持参していないが、彼女らは少なくとも六本爪以上のものを持参していて、私よりよほど雪山に慣れているようだ。

登るにしたがって雪は多くなり、雨はみぞれから雪となる。山頂近くでは吹雪となった。

全員が一列となって登るのだが、息が切れてついて行くのが苦しい。雪も深くなり周囲の視界も狭まり、全くの雪中登山となった。

山頂の小屋に到着する頃には、一段と風も強まり周囲の視界もない。仕方がないので、建物の影で立ったままおにぎりをかじる。カップラーメン一つつくることさえできなかった。

雪にけむる山頂の日本武尊像をカメラに収めたが、シャッターの動きもぎこちない。体感温度は風のせいもあり、マイナス10度くらいに思えた。急いで下山にかかる。40～50人もが歩いたトレースが短時間にすっかり吹き消され、ホワイトアウトになっていた。

九合目までくだると、風も収まり視界も開け、山頂の嵐がうそのようである。やはり冬山は恐ろしい。とても1人では無理だろう。軽アイゼンでは滑って難渋した。

夏山シーズンは何回か登っている伊吹山も、冬はすっかり様子が違っていた。

久し振りで雪山を楽しんだが、靴もアイゼンもヤッケも、手袋も帽子も全て買い換えが必要だろうと思った。

雪山は天候次第で、全く状況が違うことを改めて実感した。

比良山スノーハイキング

雪山づいてくると、今度は旅行社のツアーで、スノーハイクの文字が目に入った。先の伊吹山登山は少しきつかったので、スノーハイキングならおもしろそうだと参加を決める。以前から登山よりスノーハイクのほうが楽に雪山が楽しめそうだと思っていたが、これも全く知識がないので、スノーシューにしても勝手に買うことができない。最初は誰かに指導してもらおうと思っていたので、都合がよかった。

バスの日帰りツアーで初心者向き。スノーシューも貸してくれる。場所も手近な比良山である。出発地に集合すると、三峰山・高見山・和佐又山行きなど懐かしい山々の名が並んでいた。参加者の大半は中高年の女性で、私の参加するグループも、50名のうち男性はわずか6名と、ここでも女性パワーに驚いた。

比良リフトの駐車場には天気の良い休日とて、たくさんのマイカーが停まっていた。のりば付近には全く雪は無いが、見上げる山々は白く輝いている。リフトも長蛇の列だが、このリフトも上部のロープウェイも、今期限り（'06 3月末）で廃止とのこと。休日はともかく、平日は人も少なく、経営できないらしい。

山上駅には多くのスノーシューがリースされていて、1日2500円で貸してくれる。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

スノーシューを履いて比良山にて

スノーシューにもいろいろな種類があり、平地走行用・登山用、そして中間用とあり、高級品・普及品などで値段にも差がある。装着のやり方もいろいろだ。おかげでよい勉強になった。

初めての歩行でも難しいことはなく、楽に雪の上を歩けておもしろい。休日とて大勢が歩行するので、道はすっかり踏み固められ、スノーシューの必要もなかったが、わざと道をはずして新雪の上を歩いたりと、大変楽しかった。

指導員が雪原に付いた動物の足跡を説明してくれる。ウサギの足跡は後ろ足の大きな跡が前になり、前足の小さい跡が後になっているのがおもしろかった。

休憩も入れて3時間程の雪遊びであったが、天候にも恵まれ楽しい1日であった。どうやら病みつきになりそう。スノーシューも買わねばならないようだ。

同じ雪山といっても、登山とハイキングでは全く違っている。

蔵王の樹氷

蔵王の樹氷は有名で、一度は見てみたいとかねがね思っていたが、スキーを止めて久しい私にはなかなか行く機会がなかった。限られたスキーシーズンのある一時期しか樹氷が見られないし、その時期の蔵王は、個人で行くとなると交通費も高いし、ホテルもとりづらい。そこで今回もツアーを探して参加した。

山には関係ない単なる観光ツアーなので、最上川の雪見船や松島観光がセットされているが、私は蔵王の樹氷見学が目的である。

伊丹空港から仙台空港に飛ぶ。厳冬の折だが仙台には雪のかけらもない。本来蔵王なら山形空港が近いのだが、便数は全く少なく、仙台のほうが便利がよい。それにハイウェイの発達で、バスは仙台・山形間をわずか1時間半くらいで走る。逆に考えると、山形空港など必要ないことになる。

仙台には雪のかけらもなかったのに、奥羽山脈に入ると一面真っ白。ほんの1時間程の走行でこんなにも気象が違うものだろうか。

先ず最上川の観光を済ませ、蔵王温泉に向かう。蔵王はスキー場で標高も高いから、深い雪に埋もれていた。折から冬の国体が開催中で、大勢の人だ。私達のホテルは先高原にある。高原に登るロープウェイから見下ろすスキーゲレンデには、色とりどりのスキーヤーが入り乱れ、その人達と100㍍も離れてない雪原に、丸々と太ったカモシカがうずくまっていた。彼らはゴンドラやスキーヤーにはあまり驚かないようである。

頂上駅からホテルまでは宿の雪上車に15人くらいずつ分乗して行く。さすがに高原は雪も深く風もあり、雪山に来た実感がわいてくる。蔵王温泉といっても上の高原には温泉が出ないが、食事はおいしかった。

夕食後の19時、雪上車に分乗して樹氷見学に出発する。ゴトゴトと暗い雪上を20分ばかりで、見学会場に到着する。

会場広場はすっかり踏み固められ、短靴でも歩行可能である。周囲にはライトアップされた樹氷原が広がる。しかし昨夜来の雨と10度を超す高温で、樹木は半分雪を落として黒々と枝葉を現していた。周辺はベタ雪状態で、せっかく高い費用をかけてはるばるとやって来たのに空振りもよいところ、モンスターは一つも見られなかった。

会場の上をゴンドラが通過して行く。ここより高い山頂を目指している。その山頂にもライトアップされた樹氷群が見え、ここよりは立派に残っているらしい。しかし、ここからは行くことができない。私達にはよくわからないが、樹氷の見学会場は何ヶ所もあるようで、ここは山頂より低い所の団体さん専用の会場らしい。個人参加なら自由に動けただろうに、ツアーでは勝手に動くことができない。自然現象だから仕方がないが、旅行社は事前に説明すべきであろう。

一夜明けると今度は猛吹雪。昨夜は10度が、今朝はマイナス10度になっている。下山のゴンドラが強風で運転休止となり、雪上車で山を降りなければとスタッフは大騒ぎ。ほんとうに自然には勝てない。先発の他のツアーが出発した後、ゴンドラの運転が再開され、私達は予定通り下山できたが、ゴンドラで数分のところを、雪上車では1時間もかかるそうである。もっとも100人乗りのゴンドラも、強風に揺れて少し怖かった。

公衆浴場「新佐衛門」の湯に入る。少し熱めの温泉で、露天風呂で雪の舞うのを眺めるのも、雪山に付随した楽しみの一つである。

寒波が戻ってきて今日ならモンスターが見られたかも知れない。今回は空振りの樹氷見物になってしまったが、いつの日か再度訪れてみたいものである。

今冬は雪・雪・雪にアタックしたが、来年はのんびりと雪山を見たいものである。

（平成16年冬歩く）

因但国境の山々へ

扇ノ山・仏ノ尾

篠山誠峰

因但国境

旧但馬・因幡国境の稜線（兵庫・鳥取の県境尾根）とその周辺の山々は、昔から関西の岳人にとって憧れの山域であった。

積雪期を中心に、四季を通じて楽しめるが、人を寄せつけない厳しい面も併せもっている。起点の兵庫県の最高峰、氷ノ山とそれに続く県境尾根上にある青が丸は昨年紹介した（74・75号参照）ので、今回は扇ノ山と仏ノ尾について書いてみよう。

① 残雪期に氷ノ山と扇ノ山に登る

最初に扇ノ山に登ったのは昭和47年3月末のことになる。

学校を卒業し4月からの就職を前に事前研修があり、少しの日当と旅費を手にした私は、但馬山行に出かけることにした。

神戸から姫路まで電車に乗り、姫路からバスで戸倉に着いたが、これから先は交通手段がなかった。仕方なく、車に便乗させてもらいどうにか若桜に入ることができた。当時は国鉄の若桜駅前から若桜谷まではバスに乗り、そこから春米の氷ノ山ユースホステルまで40分歩いた。

全国に数少ない協会直営のユースに宿泊した。翌日はワサビ谷をつめて氷ノ山を目指す。雪はかなり締まっていて、快適に谷を通行できた。ワサビ谷の頭から氷ノ山頂上に着いた。今期最後の雪にみな思い思いの滑りをしていた。上旬に来たときより雪はかなり少ない。

下山時にこしき岩を廻り込むのだが、斜面はそこから下の谷まで切れ落ちていて少し怖かった。氷ノ山越を経由し、ユースホステルまで戻った。

翌朝はバスで若桜へ向かい、諸鹿へのバスに乗った。集落のはずれから取り付き、急登して広留野の入口に出た。広留野は冬を除き開拓農家が高原大根を栽培しているが、まだ農家の人は上がって来ていなかった。

青が丸から見た扇ノ山（中央）、右の白っぽいドームが大ズッコ

輪カンジキをはき、ブナの林道を進むと雪は深くなってきた。トレースはまったくなく今期まだ登山者は入山していないようだ。

シブキ山を横目に通り過ぎ、扇ノ山を目指す。雪の斜面を登り、大ズッコと扇ノ山のコルに出て荷を置き、山頂に向かう。

頂上にはブロック造りの避難小屋が建っていた。土間に炉が据えてあり、三方は板間で、数人が寝ることができた。四面はガラス窓で梯子で扇上に上がると展望台になっていた。

コルに戻り、暗くなるのを覚悟して歩き出したが、小ズッコ小屋には明るいうちに着けた。小屋には同志社大VW部のパーティが8人程いたので、挨拶をして二階に上がった。

翌朝は天候が下り坂になってきているので4時起床、6時前には出発する。上山高原から青下に出て、田中のバス停に着いたが、少しの差で逃して浜坂行きの次のバスまで3時間半も待つはめになった。

（昭和47年3月26日～29日歩く）

② 年末に青下から扇ノ山に入山する（正月単独行）

扇ノ山の冬山山行の場合、浜坂側の温泉町から入山するしかなかった。12月30日に浜坂から田中までバスで入り、青下の小幡さん宅に無理をお願いし、泊めさせてもらった。登山者に限らず客を泊めることを業としていないので、民泊とでもいうのだろうか。暮れの忙しい時期にもかかわらず、気持ちよく泊めてくださった。

大晦日の朝、青下の集落からまだ暗い歩いていない斜面を輪カンジキをはき、上山高原に出た。ショーブ池から雪が深くなってきたが、小ズッコ小屋に14時には到着できた。

小屋の入口は雪に埋もれていたので、ピッケルにスコップを取り付け、戸の周りを掘り出した。小屋は無人だがストーブに薪を入れ、火を付けると暖かくなった。

夕食の準備にかかった。水は雪を解かしてつくらないといけない。コンロはスウェーデンのスベア社製の石油コンロ121を愛用している。重いが故障知らずで、信頼感がある。

メタで予熱し、ポンピングすると、小気味よい音を立てはじめた。冬の無人小屋でこの音を聞くと元気づけられる。たった1人の大晦日の夜は静かに暮れていっ

た。

翌朝は元旦登頂を目指し、扇ノ山に向かう。主尾根をはずさなければよいので、ルートはわかりやすい。

たいしたラッセルもなく山頂に着いた。頂上小屋で登頂を祝い、コーヒーをわかした。

低気圧が接近中なので、小ズッコ小屋まで早々にくだった。小屋でもう一泊し、翌朝青下の小幡さん宅に下山のあいさつに立ち寄った。

帰りに七釜温泉に入って、浜坂に出た。

（昭和49年12月30日～1月2日歩く）

③ 夏のブナ林を扇ノ山へ登る

8月3日（日）午前6時、神戸を車で出発。姫路から国道29号線を経て、鳥取県の若桜方面へと向かう。若桜からまだ先の郡家で29号線と分かれ、雨滝集落を目指す。雨滝は名瀑百選にも選ばれている。道はやがて河合谷牧場を通過し、水の豊富な「水とのふれあい広場」に着いた。

文字通り斜面から冷たい湧き水があふれ、数秒しか手をつけていられないほどだ。ここに駐車し、車道を少し進むと、左に登山口がある。少し斜面を登っていくとそこからは山頂までブナ林が続いている。左から小ズッコ小屋からの道が合流し、ゆるやかなブナ林の道がどこまでものびている。下界は真夏日だというのにさわやかな風を感じながら歩ける。大ズッコの前後に登り下りがあるだけで快適な登高を楽しみ、扇ノ山山頂に着いた。

山頂の避難小屋は真新しく建て替えられている。

木をふんだんに使い、ログハウス風の二階建だ。明るいガラス戸を入ると、土間があり、右奥は板間になっていて、4、5名は寝ることができる。二階は全体が板間でかなりの人数でも泊まることができる。積雪期は外壁に取り付けた梯子を利用するが、入口の床は格子状で雪が下に落ちるようになっていて、室内に雪を持ち込まないための工夫がされている。また、外には玉砂利が敷かれている所があり、マンホールを開けると湧された雨水が溜まるようになっていて、洗い物ぐらいは利用できそうだ。

下山は駐車地点まで戻り、林道を河合谷牧場には向かわず、扇ノ山の山麓を捲く林道をくだり、姫路集落を経由して国道29号線に出た。ふるさとの森へのルート途中に合流するので、相当な時間短縮になった。（平成15年8月3日歩く）

扇ノ山登山道のブナ林

④ 残雪期の仏ノ尾に登る

仏ノ尾は相当に変わった山名だが、その名前を聞いた人は少ないだろうし、まして登山しようという人などあまりいないだろう。

県境尾根は氷ノ山から赤倉山を経て林道にくだり、陣鉢山（1207㍍）への分岐を右に曲がり、途中に悪谷の頭（1057・0㍍）を経て青が丸（1239・3㍍）と続いている。仏ノ尾はその先の県境尾根から少しはずれた所の、兵庫県美方町と温泉町の町境尾根にある。

県境尾根にはもちろん登山道はなく、積雪期でないと通過できない。仏ノ尾へは美方町の秋岡から登山ルートがあると聞いたが、判然としないし、地図を見ても破線しかない。昨年の青が丸と同様に残雪期の登頂を試みることにした。

仏ノ尾頂上

4月10日早朝に神戸を車で出発。姫路から国道29号線を経由し、鳥取県の若桜町を目指す。小休止の後、さらに西の八東町まで走る。ふるさとの森へ標識が出ており、ここを右折する。車道をかなり入った所で、広留野牧場への林道を上がって行く。ブルの除雪のおかげで最奥の地点まで入れた。

昨年は前日にここまで上がりテント泊したので、体を休めることができた。

昨年より1時間遅れで出発。シブキ山は雪が少ないので、雪のたっぷりある通過できそうなルートを選んで登る。ブナ林のなかを進み、畑の一角に出る。ここで昼食のため大休止。ここを登り切ると馬の背状の尾根に出た。正面に青が丸がそびえている。ここから主尾根をはずれ、左に雪の斜面をくだり、大きく登り返すともう仏ノ尾の領域である。青が丸のように上部で傾斜がきつくかぶさってくる感じはしない。ゆったりとした雪の尾根を登って行くと、仏ノ尾（1227㍍）の頂上に着いた。

山頂は但馬の山にしてはめずらしく平坦で広い。仕事の疲れからか完全に疲労困憊して雪の上に寝そべって動けなかった。

しかし昨年に続き、憧れていた但馬の峰に登ることができたという満足感でいっぱいだった。（平成16年4月10日歩く）

〈参考タイム〉

② 扇ノ山を登る（正月単独行）

（1日目）青下8・00―シャーブ池12・50―小ズッコ小屋14・10

（2日目）小ズッコ小屋8・20―大ズッコ9・50―扇ノ山10・30～12・00―小ズッコ小屋13・40

（3日目）小ズッコ小屋8・20―青下11・50

③ 扇ノ山を登る（夏山）

駐車地点（水とのふれあい広場）9・00―扇ノ山11・10～12・40―駐車地点14・40

④ 仏ノ尾を登る（残雪期）

駐車地点8・00―林道分岐9・30―シブキ山11・00―仏ノ尾13・10～13・40―シブキ山入口15・20―林道分岐16・05―駐車地点17・30

〈地形図〉

2万5千＝扇ノ山

昭文社＝「氷ノ山・鉢伏・神鍋」

惟喬親王伝承の山を歩く

桟敷ヶ岳

木村太郎

京都北山

四条大橋の上から見た京都北山は、前夜の雪で化粧をほどこしていた。京阪出町柳駅へ出て、寒風のなかで京都バスの岩屋橋行きを待つ。きょうの目的地は京都北山の桟敷ヶ岳。同行者は北山を本拠地に歩いている、職場が同じの鈴木さん。芦生の森を探訪した時でもいっしょに歩いてくれた仲間である。四方山話をしながら車中の人となった。

車窓をへだてた谷の向こうに北山杉が行儀よく立ち並び、山里らしい風景が見えてきて、バスは雲ヶ畑の集落へ入る。洛北雲ヶ畑は、平安京建都の折に御用材を伐り出した地で都には縁が深い。集落を流れる雲ヶ畑川は賀茂川に合わさり、御所をはじめとする京都の水源になっている。

中津川、中畑、出谷と川上へ雲ヶ畑三地区をさかのぼり、バス終点の岩屋橋で降りる。鮎料理を供する料亭の角にかかる橋の上に立ち、京の川を創る清冽な水流を眺める。いまから登る桟敷ヶ岳は、賀茂川や清滝川源流の山である。桟敷ヶ岳を潤した冬の雪や夏の雨が、千年の古都のみやびを伝えつづけてきたのだ。

岩屋橋を離れて岩屋山志明院に向かって歩き出すとすぐに、高台に惟喬神社がある。惟喬親王が愛した麝を埋めたことで雌鳥社の別名がある。

登山口の志明院金光寺は、歌舞伎十八番「鳴神」の舞台になった行場である。

薬師峠

龍神を滝壺に封じ込めた鳴神上人は、朝廷が遣わした雲の絶間姫の色香に迷い法力を失う。龍神は天に昇り、旱の都に慈雨を降らせる、という筋書きである。

巨大な鍾乳洞と飛龍の滝を蔵する志明院のある岩屋山は、シャクナゲの名所として知られている。寺の楼門を見下ろしながら山道に取り付くと、うっすらと雪に染まり清浄な雰囲気がただよう。岩屋谷沿いの道だと得心しながら歩いて行くと、細い谷道と尾根にかかる小道との二筋に分かれている。

鈴木さんはカラーコピーした地形図を取り出し、時間を書き込み方角を確かめて西寄りの道を選ぶ。枝先の雪が落ちてくる雑木林の山腹を捲くように進んで行くと、東西に道がのびた三叉路に出た。薬師峠に行き着くはずが、峠らしくない普通の山道のようなので本道を踏みはずし、薬師峠を行き過ぎた地点に出たのかと話し合う。

東向きに道を転じてから少しで予想に反して薬師峠に出合った。岩屋山からの峠道にのっていて、峠下に六地蔵を見つけたのだった。この薬師峠を西に下れば、北山杉が美しい大森の集落に通じている。これから登ろうとしている桟敷ヶ岳をはじめ、雲ヶ畑から大森にかけての昔の小野郷一帯には、惟喬親王の伝承が広く流布している。

バスで通過した中畑地区の高雲寺は、寺伝によれば惟喬親王が落飾されて住いした耕雲宮であるという。親王が書写した大般若経が寺宝として伝わっている。親王は出家後に素覚と号し、薬師峠を越えて大森に移り、終生住むことになる安楽寺を建てた。波多野家古文書が伝える親王にまつわる伝承は、京都市史編纂室に写しが保管されている。

世が世であれば帝位につくべき身でありながら、親王一行が峠越えした落魄の旅を思いやりつつ薬師峠を後にする。木標を見直しテープを確かめ歩き出し、日溜りに気分をはずませて進む。西谷への分岐を過ぎたあたりから道は落ち葉をおおいかくし、雪は深みを増してくる。冬は終わりかけているのに、山は夜来にしぐれたのだろう。

岩茸山付近から大森集落とおぼしき小盆地が見える。さらに進むうちに、行く手に桟敷ヶ岳が見えるよ、と鈴木さんが弾む声で教えてくれた。鈴木さんが指さす高みを見上げると、桟敷ヶ岳の丸みを帯びた頂が青空に押し上がっている。見とれて細道の道を踏らないよう立ち止まってから、桟敷ヶ岳までの道程を推し計ってみた。

広葉樹林が落葉してオブジェ風に立つ明るい雪原に目を見張り、ゆるやかに稜線部へ登りつめ、気持ちのいい尾根歩き

惟高神社

を続ける。頂上部にかなり近づいていると感じた頃、展望が開けた伐採地にいたる。まもなく送電線の通る広場に出るが、そこよりもここが風も少ないという鈴木さんの言葉で、絶好のロケーションの下で昼食タイムにする。

地図にある「都ながめの岩」はどの岩を指すのかわからないが、何かの遺跡があったような石群が散見できる。一番広い石畳状の大岩に敷き物を広げ、眺めのいい東向きに腰を下ろした。鈴木さんはザックから使いこなしたコンロとコッヘルを取り出して支度にかかる。山歩きに年季が入っていることをうかがわせる山道具にみえる。

雪の花をつけた樹木越しに比叡山、歩いて来た南方向に愛宕山が見え、惟喬親王が都をしのんだという伝承がうなづける眺めである。いまは上辺部を白くしている都の北の山々も、やがて春のおとずれに合わせて花に埋まることであろう。六歌仙の一人で出家した先達の僧正遍照へ贈られた、惟喬親王の歌が『古今集』に載せられている。

桜花ちらばちらなむちらずとて
ふるさと人のきても見なくに
（『巻二一春歌下』）

美しい桜の花も散るときには散り果ててしまうもの、まだ散らずに私の身辺に咲いている桜を見に来ませんか。ふるさとを捨てた親王がふるさとに住む僧正にあてて、ふるさとを懐かしみ詠んだ歌と思われる。

文徳天皇の第一皇子として出生した惟喬親王は、父君の扇御や紀氏出身の母静子のみまかった後、藤原氏血筋の惟仁第四皇子に皇位継承を奪われる。悲運の惟喬親王の片影は『伊勢物語』や『三代実録』、そのほかの古書によって今日に伝わる。親王の人柄を愛した人々の口の端にのり、親王伝承が北山の奥深い山里に根づいたのであろう。

交野山麓の諸の院で在原業平らを供にして花見の宴で歌会をした日のこと。都外れの水無瀬の森で狩猟に興じた日のこと。都ながめの岩から親王が眺めたものは、景観に呼びさまされる都の日々ではなかったか。華やかな元服式をおえた御所の暮らし、生涯女御となれず更衣で終わった母君の涙に濡れた面影をしのんでいたのであろうか。

すばらしい風景に見とれて長居したので、送電線下のピークを急ぎ足で越える。北斜面の下りで積雪景が多くなり、雪を踏み抜いて下降して行く。息急き切って登り返せば、そこが桟敷ヶ岳（895・9㍍）の山頂であった。雪に埋まらず存在を誇示する2等三角点の頭にタッチし、登ってきた雪上の足跡を振り返る。

ササ原が広大な雪原に様変わりした山頂の周りを隅々まで歩き、桟敷ヶ岳の感触を楽しんだ。この山上に桟敷をしつらえ、相撲をとらせ、惟喬親王は無聊を慰めたのだろうか。遠い昔を思いやりながら山の頂を私が歩いている時、鈴木さんはひとりで比良の山並を見つめていた。

蓬莱山は白く輝き、武奈ヶ岳はさらに雪化粧の濃度を深めている。2万5千の

地形図と広域地図とを両手にして、鈴木さんは比良山の前に広がる北山の同定に余念がない。霊取山や皆子山などそれぞれの山が、鈴木さんが指摘する通りの名であることは確かであった。いつの日か

桟敷ヶ岳山頂と鈴木さん

登りたいですねと、私は鈴木さんに声をかけていた。

琵琶法師の語り『平家物語』にも、惟喬親王と後の清和天皇惟仁親王との皇位争いが語られている。いずれが皇位につくかに人意の選定が難しく、相撲による勝負で決着をはかるために、紀州の僧と叡山の僧で祈祷が競わされる。敗色濃い叡山の恵亮和尚が、独鈷で自らの脳味噌をえぐりだし炉壇に投じて祈り、相撲の形勢を逆転させ惟仁側が勝つ。

惟喬親王伝承はさまざまに俗説をからませて、浄瑠璃や歌舞伎の演目にも取り上げられ、悲運の皇子は人々に判官贔屓の人情を育ててきた。演劇作家は物語性を求める観衆に対して、惟喬親王を在原業平らと謀反を企み、皇位を狙う悪人にまで仕立て上げることもあった。だが、この桟敷ヶ岳の大自然のなかで、景色を愛でた惟喬親王が悪人でありえたはずはないと思われるのである。

都ながめの岩と桟敷ヶ岳山頂と、思いのほか長目の休憩をとってしまった。初めの予定では桟敷ヶ岳から祖父谷峠へ北上し、祖父谷沿いの林道を岩屋橋まで戻ることにしていた。しかし、桟敷ヶ岳の北斜面はかなり積雪があり歩きにくそうだった。帰りのバスの時間も考え、鈴木さんから往路を引き返そうという提案があった。帰路の林道が凍結していないかと内心案じていた私にも異論はなく、食べ物と飲み物を体に移して軽くなったザックに腕を通した。

岩屋橋へ帰り着きバスを待つ間、北山のエリアマップを見ている私に、鈴木さんは「祖父谷川をさかのぼり、祖父谷峠から城丹国境尾根を周山か大森へ抜けるのもおもしろそうですよ」と言った。

かなりの長丁場の道程なのでどれだけの時間がかかるのか、私にも歩けるのかと興味がふくらんだ。実現できるかどうかもわからないが、未知の北山を歩いている自分を想像してみた。その時の胸が揺り動かされる捉えようのないものが、山への憧憬と言い表せる特別の感情なのかも知れない。（平成16年2月24日歩く）

〈コースタイム〉
岩屋橋（1時間）薬師峠（1時間）都ながめの岩（20分）桟敷ヶ岳（20分）都ながめの岩（50分）薬師峠（50分）岩屋橋
〈地形図〉2万5千＝周山・上弓削

八剣谷遡行と高崎横手新道を下山

頂仙岳・八経ヶ岳・明星ヶ岳

大峰

島田浩一郎

9月下旬の連休、友人の加藤君と大峰に行くことにした。弥山小屋の主人が、頂仙岳から明星ヶ岳の、かつて地元民に使われていて今は廃道になっている「高崎横手道」を、今年整備すると雑誌で読んだからだ。

川合を10時に出発した。15時頃、ナメリ坂を過ぎたあたりから、弥山川の河原小屋へくだる廃道の在りようを探ってみた。当初の計画では、河原小屋まで下降しそこで一泊し、翌日弥山川を遡ろうと考えていたからだ。どの案内書を読んでも、通る人がいないためブッシュがひどく、とてもこの道はたどれないと書いてあった。何とか行ってやろうと決めていたので、一ヶ所人の入ったと思われる谷へ降りる道らしき所を発見し、少しくだってみた。しかし、10㍍ほどくだった所で30年前の日付の桃の空き缶を発見しただけで引き返した。

16時頃、高崎横手から明星ヶ岳への真新しい表示板を発見した。新道が出来ているのが確認できたので、頂仙岳の頂上に登ってみることにした。

学生時代から、大峰には30年近く通っているが、いつもは川合からのロングロードで気力が沸かないためこの頂上は登らず、脇を素通りだった。今回はここ2年ほどの筋力アップで余力があった。そしてバリエーションルートの発見を山行の主目的にしていることにより、頂上へ登ってみることにしたのだ。高崎横手より50㍍ほど川合寄りの登山道から斜面に少し入った所の老木の幹に、頂上への目印の赤い二重テープが巻かれている。表示板は無く、またこのテープも色あせているので注意していないと見落としてしまう。苔むした斜面の所どころにあるテープを目印に、現在地を見失わないように慎重に登る。ザックを置いた所までの帰路を見失わないように、ヘンゼルとグレーテルよろしく木の枝を所どころに並べて置いていった。頂上付近には大きな岩があり、木の根っこをつかんで強引によじ登る。

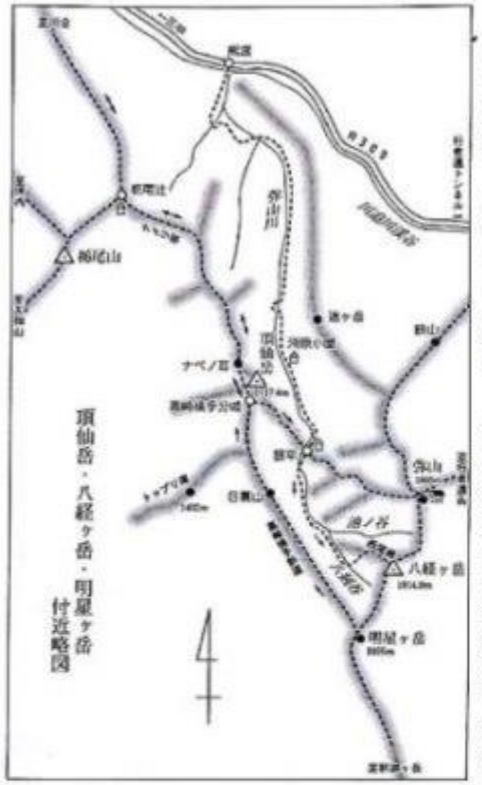
頂上は頂仙岳の名にふさわしく、まさに頂点という感じである。頂上の少し西奥にかろうじて一人用テントが二張り張れそうなスペースがあった。我々は、念願の1717㍍の絶頂に立つことができた。

その夜は狼平にてテントを張り、雲の切れ目から見える星を眺めながら持参の魚・つくね・きのこなどを愛快に投入した寄せ鍋（闇鍋）といったほうがふさわしいか。なにせ、きのこなど手でむしって土がついたような状態）をたらふく食べ、持参の純米酒を飲み、熟睡した。

翌日、明け方から降り続いていた雨がようやくあがり、7時に出発。弥山川を遡行する。5月にはコバイケイソウが咲き乱れる伐採の飯場小屋跡を過ぎたあたりに、池ノ谷と八剣谷の分岐がある。我々は池ノ谷から弥山へは過去数回遡行しているので、今回は上流へ向かって右側の八剣谷へ入った。

大きな滝は無く、軽快にナメ、小滝を越えて行く。流壺の澄み切ったコバルトブルーが本当に美しい。朝方雨が2時間ばかり降ったが、思いのほか水量は少なく、渡渉で靴が濡れることもない。8時40分、巨岩がゴロゴロしている左右に大きく開けた所に出た。霧が立ち込めた高山と流水、まるで水墨画の一風景だ。ここを過ぎて、10分ほど行った所から、八経ヶ岳の西に張り出した尾根に取り付いた。

しばらくは草の斜面を鹿の足跡を見ながら獣道をたどって登り続けた。だんだ



◆ウォーキング W◆
2気室切替式超軽量走モデル
☆32ℓ☆
•カラー　ミントグリン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ
•重　量　1580g
•素　材　高密度ナイロン
•価　格　¥15,000
☆28ℓ☆
•カラー　マゼンタ×モノクロ
ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
•重　量　1400g
•素　材　高密度ナイロン
•価　格　¥13,000
★ザックのカタログ改正版が出来ました。
オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac
・雨蓋内ジッパー付きポケット
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの型くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
・内部の仕切りフラップの開閉により1〜2気室に切り替えて使い分けを可能に。
・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。
イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、シーズンを気にせず
鈴山、砥山、名山を訪ねます。
詳細はお問い合わせ下さい。
イモックが待んでます!
IMOCK.
KOBE
〒650-0033 神戸市長田区浜添通3丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL (078) 621−5851
FAX (078) 621−3528
★営業時間／10:00〜20:00　■日曜日不定休

八剣谷・池ノ谷分岐付近

んと、さっきまでつめていた八剣谷が小さくなり、ぐんぐんと高度を上げる。やがて、苦むした倒木や灌木の小枝が錯綜し、太古の森とも言ってよいような地帯を突っ切らなければならなくなった。

このあたりは至る所に鹿や熊の糞らしきものが散乱し、まさに獣の楽園といった風情だ。先は見えない。いつまで続くのかと少々不安になってきていたが、谷から上がって約30分、頂上で憩う人たちの談笑する声や、熊避けの鈴の音が聞こえてきたかと思うと、ひょっこりと八経ヶ岳頂上に飛び出した。7～8人の登山者がいたが、あらぬ所から顔を出した鉢巻姿のおっさん2人を見て、きょとんとしていたようだ。

頂上ではタバコを二本喫んで、早々と明星ヶ岳へ向かった。20分で明星ヶ岳（1895㍍）に到着。

弥山と標高はほぼ同じなのに、ここへは一般道が無いためか、訪れる人も無く、ひっそりとしている。明るく広い所で、山小屋でも建てれば良い憩いの場となりそうな感じだ。

いよいよ高崎横手への新道をたどる。標識も出来たてのほやほや。真っ白なボードに黒く鮮明な文字が書かれている。ここから約1時間ほどで高崎横手へ出るが、しばらく人が入っていなかっただけあって、苔の上をふわふわと歩いて行く。道の両側には、鮮やかなピンク色をしたドクベニタケが幻想的雰囲気をつくりだしている。高低差はほとんど無く、まさに遊歩道と呼べるほど快適であった。道の片側にロープが張ってあり、初めての人でも迷うことはないだろう。

所どころで、八経ヶ岳や弥山の稜線、我々が辿い上がったどっしりとした西尾根が一望でき、すばらしいパノラマだ。道の真ん中に、鹿や何かわからない生き物の糞が転がっているが、これも自然のすばらしさを味わえる喜び。40分ほどして日裏山への軽い登りがあり、そこを越えてしばらく行くと、頂仙岳の高崎横手分岐に到着した。

川合への帰路、門前山乗越から急に大雨に降られ、急斜面の道が氾濫した沢のようになり全身ずぶ濡れ。おまけに財布の中の千円札が濡れてしまい、川合でビールの自販機に千円札が詰まってしまった。思わず引き出そうとしたら破れてしまい、ビールも飲めずに踏んだりけったりである。

今回のコースは、大変密度が濃く、大峰のすばらしさを改めて感じた充実した山行であった。

（平成16年9月18日～19日歩く）

Aコースタイム

近鉄下市口駅（バス1時間）川合（1時間10分）門前山乗越（2時間）栃尾辻（1時間30分）高崎横手分岐（20分）狼平（30分）八剣谷分岐（1時間）八経ヶ岳西尾根（30分）八経ヶ岳（20分）明星ヶ岳（1時間）高崎横手分岐（3時間30分）川合

＜地形図＞ 2万5千＝南日裏・弥山

＜問い合わせ先＞

奈良交通バス ☎0742（20）3100

＜宿泊＞

狼平避難小屋（20人収容、無人、通年）

おかげさまで 大好評

冬の北欧 雪遊びとオーロラの旅7日間

北極圏の町に5連泊。昼間は美しい冬景色の中、
スノーシューハイクや犬ぞり等を楽しみ、夜はもちろん
オーロラチャンス！

ツアーのポイント！

★スノーシューハイク
静寂な雪原に自分たちだけの足跡を残して歩きませんか
★オーロラ
2月3月はｵｰﾛﾗが出現しやすい時期です。気温も高めで気候も安定
★ドゥンドレット5連泊
5連泊もするから毎晩がオーロラチャンス！
★幻想的な冬景色
オーロラ以外にも樹氷やダイヤモンドダストの自然現象の期待大！
★氷のホテル見学
建物すべてが雪と氷でできた「アイスホテル」を見学
★添乗員同行
日本から添乗員が同行し、皆様のお世話をいたします

パンフレットをご請求ください。説明会も随時実施中！

ご自宅・ご希望の場所にご説明にお伺いすることも可能です。お気軽にお問い合わせください。

スイスアルプスハイキング 25周年記念コース発表

旅行期間：2005年9月3日（土）～12日（月）8泊10日間

●予定訪問地・宿泊地（日程等は変更となる場合もございます）
①スイスの首都ベルンに1泊（世界遺産登録の古都）
②ミューレンに2泊（ﾍﾞﾙﾅｰｵｰﾊﾞｰﾗﾝﾄ三山が真正面に望える山里）
③リッフェルアルプに2泊（ﾏｯﾀｰﾎﾙﾝの雄姿を眺めながらの記念ﾊﾟｰﾃｨ(歓迎会)
④ツェルマットに1泊（高級ホテル「モンセルヴァン」に宿泊）
⑤ルガノに2泊（南スイスの湖畔リゾート地）
●25周年ツアーの特色
★当社のハイキングガイドが全員集合！
★各地でのハイキングはいくつかのコースからお好みのコースを選択

郵船トラベル株式会社 フリーダイヤル：0120-819-215（ハイク にんこう）

■大阪 〒541-0053 大阪市中央区本町3-2-6 ﾌｰﾊﾞｰ本町ﾋﾞﾙ7階
TEL：06-6251-9143 FAX：06-6251-9190 e-mail：kog@ytk.co.jp
■神戸 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル
TEL：078-251-7611 FAX：078-230-6488 e-mail：kkc@ytk.co.jp
ホームページ：http//www.ytk.co.jp

標高による山の紹介シリーズ 20

松田敏男

新ハイ関西80号

標高△△80mの山

別山（2880㍍ 北アルプス）
大普賢岳（1780㍍ 大峰山脈）
若狭駒ヶ岳（780㍍ 若狭）

別山

鹿島槍の絵を描くことを第一の目的として鹿沢にテントを張り、別山に登った。期待が大きすぎると実際にその場に立った時にあまり感動しない場合があるが、この時は想像をはるかに超える壮観に、息が止まって身動きができなくなる程だった。蒼い岩の重なりと谷を埋める雪渓と濃い緑の這松で構成された鹿島槍の威厳ある気高い姿は、日本の山岳景観のなかで、超一級の美しさではないだろうか。その日は快晴で夏の日差しが強く鹿島槍を照らしていたから、なおのことだったのだろう。

私にとっての別山は特別に印象深い山となった。

なお2880㍍は別山の最高点で北峰と呼ばれている山頂である。

（平成11年8月18日歩く）

Aコースタイム▽

鹿沢キャンプ場（1時間30分）別山（1時間）鹿沢キャンプ場

△地図▽昭文社＝「鹿・立山」

大普賢岳

大普賢岳は10月初旬の紅葉真っ只中の時季と、5月下旬の新緑とシャクナゲが陽光に照り輝く麗しい頃に、どちらも単独で既に登っていた。そして今回の三回目は新雪が降った直後の、冬到来の寂寞感いっぱいの山頂でやはり単独で一夜を味わう山行をした。だから三回目といえども非常に強烈な印象が残っている。

笙ノ窟あたりから雪が強く舞い始め、大きな岩壁に囲まれた何か曰くのありそうな暗い雰囲気のなかで、この先を進むことに挫けそうになりながら、気持ちを強くもって岩場まじりの斜面を登った。

山頂は1人用のテントが一張なら張れる広さがあり、雪が積もっているので平らにできた。風が強かったが、灌木に紐引を引っ張って過ごしやすくした。

テントは、入口を開けると八経ヶ岳などが見える方向に張ったが、結局は翌朝もホワイトアウトだった。それでも、冬を呼ぶ風の音が次第に収まって雪もやみ、シーンと静まり返ったなか、大峰の頂で樹々に助けられながら一夜を過ごす充足感を味わうことができた。

山上ヶ岳に近づくにつれて日が差し始め、急に余裕のある気持ちになれた。鐘掛岩の迂回路付近は凍っていて緊張したが、非常用に持ってきたピッケルとアイゼンのおかげで無事に通過することができた。（平成14年11月3日～4日歩く）

Aコースタイム▽

和佐又口（5時間）大普賢岳（8時間）山上ヶ岳経由洞川

△地図▽昭文社＝「大峰山脈」

若狭駒ヶ岳

山スキーの日帰り山行として手頃な山である。といえば余裕のある表現だが、私は駒ヶ岳で山スキーの苦しかった思い出深い山行を二度経験している。

一度目は16年前、山スキーを教えてもらった須藤さんに連れてもらった山行。須藤さんは私も所属している会のリーダー的存在で、現在は日本プロガイド協会の会員だ。

リフトに乗ることさえ儘ならなかったほど、スキーそのものが初心者だった頃に、河内鉱泉から林道をシールをつけて登った。初心者でも緩斜面の林道歩きは、歩く山行とは全く別世界の楽しさが味わえた。しかし林道をはずれて自然林のなかの楽しいはずの登高に四苦八苦し、滑走にいたっては、ほとんど木の根元で転んでは雪のなかでもがいて這い上がるという、これまでの登山で培った体力を消耗しつくす山行だった。

二度目のスキー山行は、それから8年後。やはり須藤さんに連れてもらったが、長いブランクがあり、全く上達していなかった。新しいブーツの履き方が悪くて、一度目とはまた違った苦行を味わい、同行の方々に多大な迷惑をかけた。

その二回の経験があればこそ、今やっと何とか滑れるようになれた思い出深い山が、若狭駒ヶ岳だ。

なお山頂より南方向の尾根上には、地形図に記載のない意外なほど大きな池があって、自然林のなかの佇まいは情緒豊かであった。

（三度目の山スキー・平成13年3月3日歩く）

Aコースタイム▽

河内鉱泉（3時間30分）若狭駒ヶ岳（1時間30分）河内鉱泉（ただし下山はスキー滑走）

△地形図▽

2万5千＝古屋・饗庭野・熊川

大普賢岳山頂にて

新ハイ例会・スノーハイキング

根子岳・美ヶ原

上・中信

鷲見守康

2003年から、冬の例会山行はほとんどスノーハイキングとなり、2004年の冬も1月と2月に上信越の根子岳、中信の美ヶ原を歩いた。それぞれの山で、様々な初体験があり、思い出に残る山行となった。

根子岳

根子岳は前年6月の例会山行で四阿山から縦走している。ダケカンバの林にレンゲツツジの群落という彩りのあざやかな景観を堪能し、初夏の華やかさを楽しみながら、ワイワイガヤガヤとくだった。今回は、逆にその道を登ろうというものだ。

バスで菅平牧場の管理舎付近まで入る。無雪期の大駐車場までは除雪されている。除雪が終わった所でバスを降り、身支度してスノーシューを履いた。天候は曇り。ガスで根子岳は見えない。

8時過ぎ出発。積雪で夏道は消え、本日はトレースもない。しかし、しばらくは牧場柵に沿って歩くので迷うことはない。牧場柵から離れると時々現れる標識、そして赤テープを目印にする。

登るにつれ標識も赤テープも見当たらなくなり、ルートファインディングに気を遣うこととなった。尾根筋は山頂に向かって収斂されていくので、登りの場合は比較的わかりやすいけれど、やはり夏道をたどったほうが歩きやすい。四方八方を眺めながら、全体の雰囲気から道を判断して登って行く。

菅原高原から望む根子岳

ダケカンバ林が終わると森林限界を超えた。夏にはクロマメノキなどツツジ科低木が花を咲かせる風衝地帯で、厳冬のこの時期には雪が吹き飛ばされている。

すごい強風だ。厳しい寒冷帯での風は

根子岳付近略図

文字通り刺すように冷たい。森川さんの形見の手袋をしていても指先がジンジンと冷たい。こんな寒さと冷たさは初めての体験で、帽子で耳を覆っていてもちぎれるような痛さだ。尋常でない状況であり、ただならぬものを感じる。

振り返ると、メンバーは離れ離れで黙々と歩いている。メンバーもかなり不安な気持ちだろうと推測し、撤退するかどうかを迷いつつ歩く。が、ガスが薄くなったとき、山頂の気配を感じた。「よし、あそこまで。そこが山頂でなければ撤退だ」と心に決める。やがて標識が目に入ってきた。祠も見えた。山頂だった。すぐ後についていたK・Yさんと思わず握手をした。

下山のとき、風衝地帯の私たちのトレースは風に消されていた。幸い、風によって雪も飛ばされていたので、夏道のかすかな痕跡をたどった。積雪帯に出ると、私たちのトレースがある。下山ルートがはっきりと確認できた所で強風を避け、全員固まって昼食をとった。

樹林帯に入れば風も収まり、雪も豊富だ。当然のことだが、スノーシューの場合でも登りは先行者のトレースをたどったほうが楽だ。けれど、下りでトレースをたどるのはスノーシューのおもしろ味に欠ける。スノーシューを深雪に潜らせながら雪の斜面に乗り込んでいく浮遊感こそがスノーシューの醍醐味ともいえるのだ。自分たちのつくった幅の広いトレースを視野にいれ、大きく離れることのないよう心がけて、各自楽しみながら思い

新刊

近江 湖西の山を歩く

草川 啓三著　A5判並製　一九九五円

若狭へとつづくいくつもの詩趣、壮快な気分で歩ける高原状の山、巨木の残る山深い山、山スキーの出来る山稜など、関西の奥座敷的な山域を美しいカラー写真とエッセイで紹介する。

—— 好評発売中 ——

新刊

おれ にんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——

岡本武司著　四六判上製　一八九〇円

黒澤 明も感動したウスリーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民デルスーとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111　〒606-8161

思いに真っ新な雪の斜面をくだった。

今回、厳冬期の風衝地帯の厳しさのため、3～4人のメンバーは軽度とはいえ指先や耳などに凍傷を負った。S・Tさんは意識が朦朧としてきたと言い、山のベテランのS・Mさんでさえ、こんな厳しい寒さは初めてのことだと言った。

私はあくまでもスノーハイキングの領域として捉えていたのだが、天候によっては、根子岳はスノーハイキングの限界を超えるということなのだろう。

この夜の「反省会」では、雪山の初めての厳しいけれど貴重な体験をして、本格的な雪山登山はどんなにすごいものだろうか、と話し合った。

（平成16年1月11日歩く）

美ヶ原

冬、美ヶ原は純白の台地となり、マイカーなどでアプローチはできない。けれど、美ヶ原で営業するホテルの送迎により入山は可能であり、宿泊して美ヶ原の冬を楽しむハイカーや観光客はけっこう多いという。

冬の上高地に続き、冬の美ヶ原を味わってみたいと思っていた。特に、ホテルの送迎では雪上車が使われ、その雪上車は南極大陸で走っているものと同じだと言われては、一生に一度はそんな雪上車に乗りたいという子供のような心にもなる。何せ話のタネにもなろうというものだ。

いつものように疲行のバスで岐阜を発った。一般国道をゆっくり走っても、翌午前3時過ぎには松本に到着した。松本温泉に寄って仮眠休憩とする。王ヶ頭ホテルとの待合せ時刻は11時。もっと早く迎えにきてほしいところだが、一晩で2㍍も雪が積もることもある2月には、ラッセルして道を確保するのに数時間も要することがあり、早朝の迎えは困難だと言う。

ならばと、午前中は松本の市内観光とする。まずバスでアルプス公園へ行く。せっかくだから山岳館の展望台に登りたいと思ったが、運悪く冬期休館中。しかし、わが新ハイは「転んでもただは起きぬ」明日からの開館に向けて準備作業中の係のおじさんを見つけるや、女性陣が柔和な笑顔で交渉し、即刻交渉は成立した。晴れ上がった空の下、北アルプスの展望はすばらしかった。後ろ髪を引かれる思いでアルプス公園をあとにしたが、

美ヶ原王ヶ頭

その後はすっかり観光客に成り果て、1時間余り国宝の松本城を見学した。

11時、松本市の入山辺でホテルのマイクロバスに乗り換える。バスは冬しか使用しない林道を走る。一般車は通行禁止で、特別に通行許可を受けたホテルは自ら除雪したり整備したりしているようだ。

饒舌なホテル従業員の漫談（？）に頭

を空っぽにして笑っていたが、何かおかしい？　いつまで走っても雪が見えないのだ。「例年の3分の1ほどの積雪です」とホテル従業員は言う。それでも、台地の上に出ればと私は期待をつないでいた。バスの中では、登るにつれ雄大になる360度の青空と、深田百名山が47座も見えるという山岳展望に繰り返し歓声があがる。

やがて台地の頂上部に出た。何てことだ！　私は愕然とした。あまりにも雪が少ない。

ホテルの駐場のレストランで待ち込んだ弁当を食べた後、それでも予定通り茶臼山を目指し、スノーシューで出発した。雪はあまりにも少ないし、新調した重登山靴は足に合わないしで、私はすっかり気落ちしていた。

茶臼山と塩くれ場の分岐点に来たとき、あくまでも茶臼山を目指すグループとショートカットするグループとに分かれた。私は後者のグループに入り、さらに、「みなさん、お気をつけて」などと単独になってショートカットコースを歩いた。心がうめいていた。

翌日、美ヶ原の天候は荒れた。ガスが激しく流れ、地吹雪が舞っている。そんな風景を眺めながら、私の心はなぜか活気づいていた。雪が少なく牧場柵が頭を出している。牧場柵さえ見失わなければ地吹雪のなかでも歩くのは可能だ。美しの塔まで歩き、雪上車に迎えに来てもらえばいい。絶好のチャンスだ！　……まさに「悪魔のささやき」である。

私の提案をメンバーの多くは冗談だと受けとり、ほとんど取り合ってくれなかったが、私は実は真剣だった。ホテルの担当者にも依頼し、当初は了解をもらっていた。しかし、他の観光客らの「雪上車ツアー」もあり、迎えの時刻の約束ができないという。地吹雪のなかで過ごすわけにもいかない。こうなればメンバーの判断のほうが適切といえるのだから、冗談だったことにしてごまかすしかない。「まあ、いいさ」と気を取り直し、雪上車で美しの塔まで往復することにした。

決して乗り心地はよくなかったが、雪上車の中のメンバーは子供のようにはしゃぎ、満面の笑顔だった。

（平成16年2月27日～29日歩く）

▲コースタイム▼

○根子岳

（1月11日　晴れ）菅平牧場8・05―根子岳10・40～50―ダケカンバ林11・15（昼食）12・05―菅平牧場13・20

○美ヶ原は省略（茶臼山を目指したグループは途中で撤退している。もう一つのグループは美しの塔まで）

▲地図▼

昭文社＝「志賀高原・草津」「美ヶ原・霧ヶ峰」

ガリバー旅行村を眼下に見据えて

カラ岳北方尾根を下山

比良

小山誠次

平成16年4月25日は降雨予報のない恵まれた日であった。かねてからの計画を実現しようと、JR京都駅8時14分発の湖西レジャー号で、一週間ぶりのカラ岳を目指した。

前月3月31日付けを以って比良山ロープウェイ・リフトが廃止となった関係上、堅田駅で降車する人が圧倒的に多くなった。その反面、志賀駅では10人程、比良駅では昨年同時期の5分の1程と、既にJRの乗降客に目立った変化が現れている。その分、北比良峠付近を革靴やサンダル穿きで蹋歩する人がいなくなったのは、一片の心地よさを感じる。

本日私は比良駅で降り、昨日予約していた近江タクシーに直ちに乗り継ぐ。旧リフト前まで1350円だった。タクシーの運転手さんに登山扇を託した後、準備を整えて8時57分、旧リフト前を出発した。

昨年は安曇川側から比良登山することがはるかに多かったので、ここから出発するコースは全く久し振りである。しばらく見忘れていた景色を思い出しながら、シャカ谷分岐を過ぎ、神爾谷分岐も過ぎ、リフト直下を三回潜り抜け、四回目の交叉のとき、こちらを見つめている白い小犬と目が合った。登山者が連れて来た犬なのだろうが、リフトの傾斜地を登るときに見失ってしまった。

（写真1）カラ岳北方尾根下山取付点

間もなくシャカ谷がよく見渡せる地点に到達した。将来の計画としてシャカ谷を通行するとき、どこから尾根に取り付いたらいいのかと思案したり、崖っ淵に咲く可愛らしいイワカガミを写真に撮ったりして10分間休憩した。その後は8分間登っただけであっさりと旧シャカ岳駅に到着した。

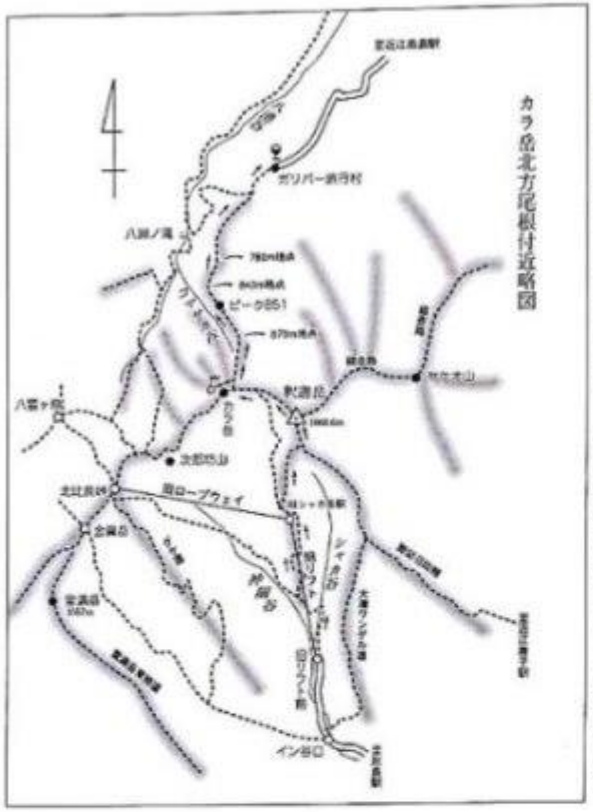
せっかくなので、誰もいない旧シャカ岳駅構内に入り、空席のまま動かないリフトをカメラに収め、昔日を少し偲んだ。果たしていつ撤去するのだろうか。リフト跡の傾斜地は一部新しい山道として有用だろう。ちょうど、八雲ヶ原のリフト直下を歩く感触かもしれない。

さて、本来の道に戻り、カラ岳を目指す。堂満岳の偉容を眼前にしかと感じながら登路をたどった。ここから眺めれば、堂満岳東稜道の最後の急登がよくわかる。まだ時間的余裕があるので釈迦岳道で分岐し、釈迦岳経由を選んだ。このコースはさらに久し振りである。途中、シャクナゲの群落を通過した。まだ花期には少々早いようだが、一枝だけ花が開いている木があり、カメラに収めた。その後、目前の大岩を迂回して、シャカ谷のつめを右手に見下ろしながら大津ワンゲル道と出合った。一週間前には近江舞子駅で降り、遠松山荘道を経てここまでたどって来たのだった。

10時56分、釈迦岳に到着した。昼食タイムにはまだ少々早い。本日のメインイベントであるカラ岳北方尾根下降のルート確認のため、すぐに山頂北面に寄り、支尾根を観察した。

10分後、縦走路北面の支尾根を注意深く観察しながら、カラ岳に向かった。しかし、ここからガリバー旅行村を眼下に見据えて、「本当にあそこまで道なき道を無事にたどることができるのだろうか」という、一抹の不安感は払拭できなかった。旧シャカ岳駅からの道と合流した後、最初の支尾根を同定したが、そのままカラ岳の関西電力比良無線中継所まで足をのばした。中継所の北側にはやや広い支尾根が北北西方向に走っている。

しかし、筆者が今回計画したのはやや狭いほうの支尾根である。地図によれば、これら両支尾根間にコマサカ谷が存在す



る。そこで、もう一度100㍍ほど来た道を東に向かった。ちょうど、中継所から二本目の電柱の地点（写真1）こそ、本日筆者が挑戦する支尾根の取付点であり、改めて地図上であれこれ検討し、下山を決意した。この間20分間ほどを要したが、自宅での机上計画では未だ最終判断ができていなかったためである。

こうと決定すれば、後は昼食である。11時45分開始の昼食は、今からの難路を目前にしていささか緊張を禁じえないなかでの、おにぎりとカップラーメンだった。何人かの行き交う人と挨拶しながら、何回も決定にいたった過程を反復していた。また、下山途中で漂場に遭遇した場合の対策、スズメバチやマムシからの防衛、さらにはそもそも下山路そのものが錯誤であった場合の対応、等々も脳裡を過ぎった。それでも昼食のカレーはカレー味だった。

さて、12時14分いよいよ下山開始である。かねての計画では、先ずここ標高1030㍍地点から磁北15度東にまっすぐ870㍍まで下降する。この尾根は中継所北側の支尾根と異なり、やせ尾根の傾向が非常に強い。おまけにさっそく取付点からホンシャクナゲが群落していて、地面の上を横にのびた枝がおおい、歩きづらいことこのうえなかった。シャクナゲの開花時期であれば、現在よりもっと視界が制限されるに違いない。また、傾斜は予想程度とはいえ、実際に歩くとやはり相当急で、もし引き返さなければならないときは甚だ困難を覚えることだろう。始めは未だ開花しないシャクナゲを掻き分けて、あるいは踏み越えて下山することだけに集中していたが、途中からアスナロも目に付くようになってきた。

首からシルバーⅢ型コンパスを懸け、絶えず方向を見据えていたが、傾斜の途中に相当期間放置された古道と思われる跡を発見した。これは角倉太郎著「比良登山図」（田中秀穂氏御提供による）にも掲載されていない。道は周囲より陥没し、下山方向に連続している。陥没の中心部よりシャクナゲが生えているのは、かなり長期間の放置を物語っているのであろう。ただ残念ながら、崩壊箇所もすでに多々あるので、やはりコンパスから目が離せなかった。筆者自身、歩きやすさを求めて、尾根の中心を左右に撓きながら、そこに古道があればそれを利用するという方針を立てた。

傾斜が急にゆるやかになった地点でリュックを下ろし、高度計を見ると870㍍を指していた。第一のステップはひとまず無事に通過したようだ。下山開始からここまで36分要したことになる。最初は躊躇しながら踏み出した第一歩も、これから先の踏破を何とか視界に収めることが可能となった。

次は、ここ標高870㍍地点から磁北28度西にまっすぐ840㍍まで緩下降する。ここでも最初のうちはシャクナゲに悩まされた。ここは第一のステップと比較してほとんど平坦で、二ヶ所ほど小さな隆起を通過する。最初の小さな隆起の頃よりシャクナゲはあまり見かけなくなり、その代りにアセビが目に付くようになった。新芽はまだ2㌢ほどの長さだが、越冬した葉は鮮やかな緑色である。

二つ目の小隆起はピーク851（写真2）で、例の古道の跡もピーク851の上に達している。ここで約10分間休憩した。ここから遠望するカラ岳山頂の中継所は、木々の枝葉に妨げられながらも、やはり大きな目印となる。ピーク851を通過すると、間もなく高度計は840㍍を指した。第二のステップは比較的楽にクリアできた。ここまで所要時間は27分である。

（写真2）ピーク851に達する古道の跡

さて次は、ここから磁北27度東に標高780㍍まで下降する。最初のうちは緩下降だったが、途中から少し大きな段差を踏み越えなければならなくなり、コンパスで方向を間違わないように見定めてくだって行った。この第三のステップは当初は緩傾斜だったが、途中からだんだんと急になった地点で780㍍に到達した。22分間を要した。

しかしながら、ここからがはるかに大変だった。第四のステップ開始は、徐々に急になっている傾斜の途中だったが、ちょっとした平坦な場所を見つけ、改めて磁北0度での下降を確認した。

予定通りに下山したが、間もなく第一のステップ以上の急傾斜となった。おまけにちょっとしたザレ場となり、持参してきた長さ20㍍のザイルの使用を決意せざるをえなくなった。もうこうなっては安全第一で、植物の観察などは吹っ飛んでしまう。しっかりした木の周囲にザイルを巻いて10㍍降り、また同様に10㍍降り、もう一度10㍍下降してから、改めて下山計画を検討しなおした。

とりあえず、このままでは展望が開けず、益々危険性を帯びる可能性があったので、左手上方15㍍ほどに見えている尾根筋をたどることにした。この時点では、もう方向は定めず、下山に容易なルートだけを選択することとした。この尾根は文字通り馬の背程度の狭さで、岩が所どころ剝き出しになってはいるものの、ザイルを使う必要はなさそうである。慎重に一歩一歩くだって行くが、支持となる幹や枝が生木か枯木かを十分確認しながら、時に滑りやすい地面ではストックを利用して安定性を保つように心がけた。

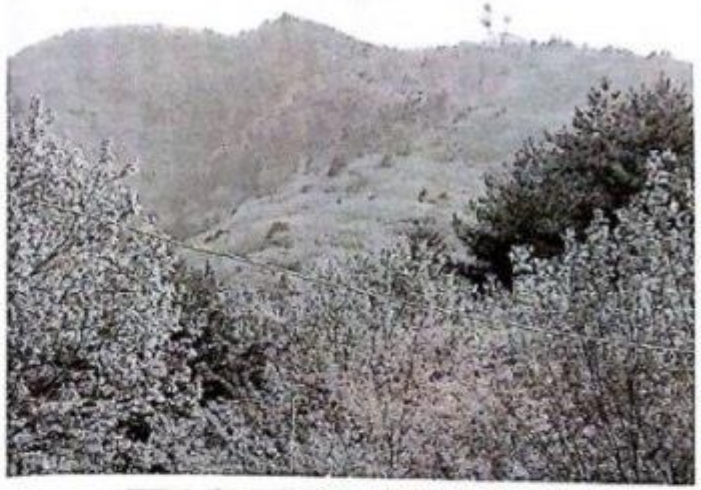
当初の計画では、標高590㍍で八淵の滝道に下山する予定であったが、先ほどのような経緯があって磁北から30度以上東にずれてしまっている。それでもようやく高度計が570㍍を指す位まで下山して来た。たまたま水音の聞こえる方向に道が開けているので、そちらに向かったところ、小さな谷に出合った。

暗を潤した後、渓谷に沿って少しくだった所で、今度は滝に行き当たった。といっても高さ4、5㍍ほどだが、両側は滑りやすくなっていて、とてもスムーズに下降できる地形ではない。高度計は550㍍を指している。

ここが最後の決断だった。もしいったん下降してから難渋すれば、今以上に困難だろう。しかし、標高550㍍ならば、ガリバー旅行村のバス停が480㍍なので、もう滝に出合う可能性は少ない。

そこで、休憩していた根元のしっかりした木にザイルを巻き、滝をくだった。

そのまま渓谷に沿ってなおも下山して行くと、前方遠くにアスファルト道が視認できるではないか！　ようやく安堵した。アスファルト道到着は14時32分である。



（写真3）ガリバー旅行村バス停より下山ルートを望む

このアスファルト道は掲示板によれば、八池山生活環境保全林内の遊歩道である。とすると、今下山して来た山は八池山ということになる。しばらくそのまま歩いて行くと、車で遊びにきた家族連れと出会った。バス停を尋ねたが、知らないとのことなので、とにもかくにも山とは反対の方向に歩いて行くと、益々多くの人と出会うことになった。

汚れたザイルを抱え、ナイフを腰にしてロングスパッツを装着し、土と木々の破片がほぼ全身に付着したリュックザック姿はどうも異様に見えたようだ。

自動販売機で清涼飲料水を一気に飲んだ後、ガリバー旅行村バス停に14時49分到着した。

バス停からは、カラ岳すぐ東の筆者が下山した支尾根が第二ステップのあたりまでよく遠望できた（写真3）。

15時46分発の江若バスに乗り、近江高島駅に16時06分到着後、16時23分発の新快速で京都に戻った。

カラ岳北方尾根下山をよくぞ決心したものだと思いながら、古道の跡が残っているのはやはり昔、人の行き交いがあったためであろう。最後の下降は、この古道の跡を追っていればもっとスマートに下山できたのではないかとも考えた、スリリングな単独行の一日であった。

（平成16年4月25日歩く）

Aコースタイム

比良山ロリフト山麓駅前（47分）旧シャカ岳駅（45分）釈迦岳（15分）カラ岳（36分）標高870㍍地点（19分）ピーク851（8分）標高840㍍地点（22分）標高780㍍地点（48分）八池山生活環境保全林内の遊歩道（17分）ガリバー旅行村バス停（バス10分）近江高島駅

〈地図〉

昭文社＝「比良山系」

山と渓谷社＝「比良・北山東部」

2万5千＝北小松

ローカルバスの旅

カラコラム街道を走る

金谷　昭

パキスタン

時々登山で訪れる外国での移動手段には安全と迅速を図るため、たいていは特別にチャーターした日本人団体専用バスを利用しているが、いつか機会があれば地元民の利用するローカルバスに乗り、彼らといっしょに旅をするのも一興かと思っていたところ、意外に早くその機会がやってきた。

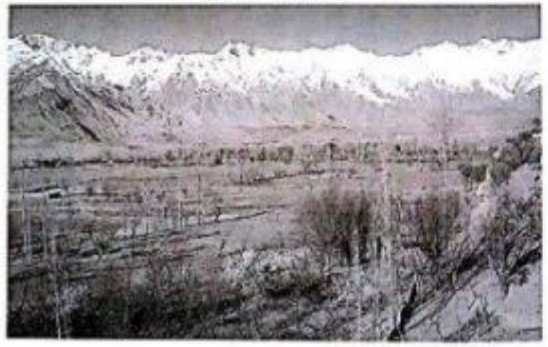
現役を引退する数年前より岳友が立ち上げたパキスタンの東北部辺境地（カラコラムヒマラヤ）での国際ボランティア活動に参加している。今回は9・11同時多発テロ以降、アフガニスタンの隣国パキスタンは外務省渡航情報では危険度4（家族等退避勧告）とされ、在留邦人は緊急要員を除き全員国外退去となり、我々ボランティア隊も例外ではなく全員引き揚げてしまった。

私の今回の活動目的は、スカルド県バハー小学校新築工事の完成確認が出来ないままとなっており、この建設資金には日本の各方面から寄せられた浄財の中に外務省民間援助資金の補助金もあり、その予算を年度内に支出するための完成確認と、以後の打ち合わせのためであった。そのため政情不安のなかを行かざるをえなかった。

3月に入ってパキスタンの首都イスラマバードではキリスト教会の爆破事件があったりして日本では当地の安全が危惧されたが、来てみればアフガニスタンとの交通の要衝ペシャワールやクエッタを除けば、日本での報道とは異なり以前と何ら変わりなく平穏であった。

例年3月頃から訪れる外国人観光客やトレッカーは皆無で、そのため普段利用し、楽しみの一つであるイスラマバードから地方都市スカルドへの、8000㍍峰ナンガパルバットの頂上付近をかすめ

スカルドにて



てゆく有視界飛行の航空便は好天にも拘わらず乗客が少なく、残念ながらフライトは無かった。やむをえずカラコラム街道の陸路670㌔をバスに揺らざるをえなかった。

カラコラム街道はパキスタンの首都イスラマバードから中国の北京までの5600㌔のハイウェイのうち、パキスタン側の世界四大文明の発祥地の一つインダス文明の由緒ある地域を経由するものである。

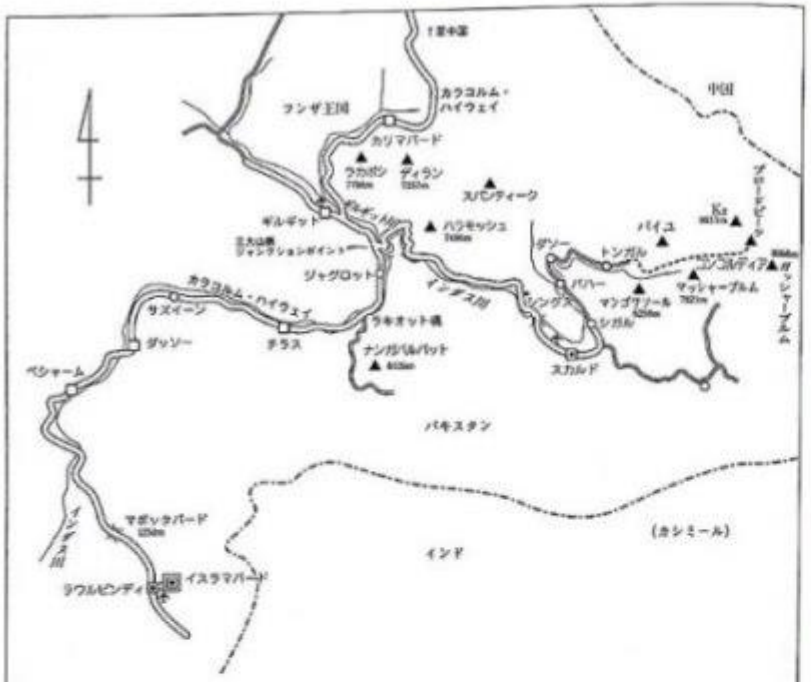
往路はボランティア隊のため特別にチャーターしたマイクロバスでカラコラム街道を2日間（途中チラス泊）かけて行ったが、復路は私用のため他隊員と別れ、私1人で地元ローカルバスでイスラマバードまで帰らざるをえなかった。乗車前には唯1人の外国人だけに乗客全員の注視を集めいささか心細かったが、パキスタン人の旅人に対する親切と人懐っこい民族性からか乗車中はほとんど不安を感ぜず、愉快なバス旅行を楽しむことができた。

我々のボランティア活動の拠点となっているスカルドは、周囲を白銀と氷河地形の山々に囲まれた盆地の中心にあり、K2を始めとするカラコラム・ヒマラヤの登山基地となっている。例年の今頃ならちらほらと見られる外国人登山客やトレッカーは皆無であった。バス発車まで時間があったので、冷やかしに中古登山道具店（外国登山客が帰途に不要となった登山道具を買い、それらを売る店）を覗くと、最近は商売にならず店主は手持ち無沙汰の様子で、カモ到来とばかりに執拗にいろいろな品物を薦める。特に買いたい物はなかったが、比較的新しいイタリア製の牛皮のウェストパックを言い値の10ドルを値切って2ドルで買った。この値段でもどうも高価で買ったようだ。当地での買物は正札がない。売手の言い値で買うのでなく、言い値の10分の1位から切り出す値引交渉が必要で、交渉が決裂し何度か店を出ようとすると、必ず呼び戻して値下げしてくるので適当なところで手を打つ。そのため時間と精力が必要となり結構疲れるが、これも慣れてしまえばおもしろいレクリエーションといえる。その点では日本人客はその慣習がなく一般に淡白なのか金持ちなのか、また日本円や日本の物価が高くて言い値でも安価に感じるのか、相手の言い値で買うので、被らにすれば上得意客のようである。

スカルドのバス待合所は間口一間程の商店が連なる長屋の一軒で看板もなく、人に尋ねてやっとわかった。店の奥のカウンターでイラクのフセイン大統領に似た口ひげの男が受付をしていた。

スカルドからイスラマバードの隣国都市ラワルピンディまで約670㌔を所要時間22時間で走り、バス料金は550ルピー（1ルピーは約2・3円）であった。この中には途中休憩の茶店の食事とお茶代も含まれているが、地元民には我々が雇う高所ポーター（ネパールのシェルパに当たる）が別格の日本人単価で一日350ルピー、それからすると大変高価らしい。なお私の乗るバスはエアコン付きである。エアコン無しのバス代は380ルピーであったが、寒暖の差の大きい乾燥地帯ではエアコンの生活に馴れた日本人には無しではとても無理である。

受付の男に渡した汚れた紙幣を口にくわえて切符番号を記入したのには我々日本人にすれば、彼らの衛生観念の無さに驚かされた。カウンター前の薄汚れた長椅子には民族服の男が3、4人坐っていたが、唯一の外国人で衆人の環視の的と



カラコルム街道（ハイウェイ）付近略図

なり、少し不安であった。

バスは11時、定刻通りにやって来た。日本のトヨタ製の25人乗りマイクロバスで、もちろんエアコン付きであった。現在パキスタンを走っているのはほとんどが日本車で、それもトヨタとスズキが圧倒的に多い。バス・トラックは以前には欧米車（ベンツ・フォード）が見られたが、日本車の頑丈さとメンテナンスの良さに駆逐されつつある。悪路の多い当地ではトヨタの四輪駆動車は絶対的な信頼を得ている。小型車に関してはスズキ車が多く、タクシーの代名詞として「スズキ」と名付けられ、地元民の足となっている。

私の指定席は中央付近の窓側であったが、運転手に車窓からの風景を写真を撮りたいから、今のところ空席の助手席に坐らせてくれるように頼むと、パキスタンの成人男子の常である髭を生やした強面の運転手は「構わない。ただし女性が乗って来るまではよい」と言う。イスラム教の国では乗り物でも男女の席が明確に分かれており、助手席が女性専用となることが多い。

最前列の助手席に坐れたので、私の一

挙一動が後方の乗客全員の熱視の的となってしまった。なお、もう1人、運転手の交替要員が後部座席に乗っており、時々大きな声で連絡しあっていた。

発車して間もなく河岸台地に発達したスカルドの市街地を抜け、河川敷の郊外に出ると眺望がよくなってきた。早速カメラを構えて付近の白銀のヒマラヤを撮ろうとしたら、例の強面の運転手はわざわざ車を停めて「写真をどうぞ」とサービスしてくれた。その間にカセットテープをセットしてパキスタン音楽をガンガン鳴らし始めた。このテープ音楽とは深夜ダリー近くまで付き合わねばならなかったが、時々テープの切替操作で両手がお留守になるのも構わずスピードを上げていく。横で見ていて冷汗ものだった。

スカルドからしばらくは、その中州に飛行場もあるとてつもなく広いインダス川の河原を通り抜け、スカルド盆地の末端を過ぎると両岸が迫ってきて激流のインダス川が蛇行する峡谷沿いの道となった。すぐに最初の星標が出てきた。パキスタンでは橋も重要な軍事施設の一つとして検問所が必ず併設されている。撮影は厳禁のため検問前にカメラをザックに仕舞い込んだ。地元民には検問はなく外国人の私だけがパスから降りてパスポートやビザのチェックを受けるはめとなった。これから始まる数回の検問のためパスポートやビザ番号、その他必要事項をコピーした用紙を何枚か用意しており、その都度手渡すことにしていたが、今回も受け取りだけで済み、検問帳にいちいち記入の手間が省けて正解であった。

ついでに岩陰で小用を足そうとしたら兵隊が建物の中に招き入れてくれた。用を足して出てくるとその兵隊から「どうだパキスタンは?」と尋ねてきたので「パキスタンの人達は皆親切で良い人達ばかりだ、景色もすばらしい」と答えると「また来いよ」と人懐っこく握手してきた。一般にパキスタンでは日本人・中国人に対して極めて友好的であり、英米人は嫌われているようである。

出発しようとすると橋は一車線のため、下流から燃料用の枯木を満載したトラックなど数台のトラックが渡ってくるのを待った。当地が乾燥地帯のため、わざわざ燃料用の木材を輸入しているのがよくわかった。その他、ゲージに鶏を満載して売りに行くトラックにもすれちがった。当地の食肉の優劣は日本と異なり、小羊、鶏、羊、山羊、牛、ロバの順で、小羊は高価なので鶏の需要が多い。日本と違って人工飼料でなく自然飼料（放し飼い）のためかコクがあっておいしい。なお日本人には一般に「羊の肉は特有の臭味がある」との潜在意識があるが、我々日本人が当地で初めて食べた小羊のシーシュ・ケバーブ（羊の焼肉）を大部分の人は「特別に味の良い牛肉」と間違えるほどで、なぜか羊肉は不思議と臭味はない。むしろ山羊には強烈な臭味があり、また牛肉は役務牛の肉で堅くてうまくなくあまり歓迎されない。

ここからはインダス川渓谷の両岸の岩壁を削り、一応二車線の道路が設けられているが、その両岸は切り立ち、そのはるか底にインダスの激流が渦巻いて流れていて、日本の黒部の下廊下をスケールアップしたような渓谷だ。ハイウェイといっても舗装はされているものの、日本の道路に比べると仮舗装程度で凹凸や穴、そして山崩れ・落石が多い。特にスカルドからギルギットへ分かれる三大山脈ジャンクションポイント間は一車線半程度しかなく、もちろんガードレールやカーブ

ミラー等の道路安全施設は一切なく、車が転落しようものなら間違いなく全員死亡であろう。その道路を時々我が物顔に放牧の羊・ヤク牛がのんびりと歩くのに出くわす。首都とを結ぶ大動脈でトラックの往来も多い。運転手はさすがプロだけに速度をそう落とさずに巧みにすれちがっていくが、最前列の助手席でたびたびシートベルトを思わず握り締める場面があった。

我々の活動エリアのスカルドより北の地域は、インド洋からの湿気を含む熱風がこれから抜けて行くナンガパルバット山塊で遮られ、雨を降らした後の乾燥した風によって乾燥地帯となるが、このあたりは雨が多く度々土砂崩れにより道路遮断が日常化しているようだ。道路の復旧にはインドとの関係で軍用道路として、軍隊が機動力を駆使して当たっており、落下した岩石の集積場があり、軍隊のブルドーザーが所どころに置かれていた。

この険しい渓谷にあって時々だが、山腹にわずかな平地と水流があれば、棚田のような耕作地をもつ桃源郷のような集落が出現した。この時期、アンズの花が満開で日本の桜の開花とそっくり、日本の山村の原風景を醸し出していた。

バスは道路脇で手を挙げている老人や子供を拾って行くが、彼らが降りる際にバス料金を取っている気配はない。また途中で拾った男性客は運転手の顔馴染なのか、カセットテープの音楽がガンガン鳴り響いている中で、2人で大声で話し合っていたが、彼も降りる時に料金を支払った様子はなく、乗客も別に気を留める様子はなかった。

正午過ぎにバス専用の昼食場所となっている寒村シングスの茶店に到着し、昼食休憩となった。すると運転手を始め乗客の一部はどこから

アンズの花が満開の集落

持ってきたのか、茶店の脇にカーペットを広げて、メッカに向かってのイスラム教の正午のお祈りとなった。その間私はカメラを持って付近を散策し、風景を写真に収めて茶店に戻って来ると、お祈りに参加しなかった乗客はすでに昼食をとっていた。彼らに「なぜお祈りに加わらなかったのか」問うと、彼らは「お祈り時間ではない」と言う。宗派によって時間が異なるらしいが、信仰の度合もまちまちである。

彼らと食事を共にすることにしたが、茶店（チャイネハーネ）のテーブルや椅子は土間に置かれて埃と油煙で暗黒色となっていて食欲はわかなかった。しかし、これからの長い道中を考えて腹に入れる。昼食はナン（全粒の大麦粉を練ってグゥをつくり適量にちぎって丸めてのばし、タンドール釜にペターンと張り付け、バーンという棒で焼けたパンをひょいと取り出す）・香辛料の強いダル（豆）スープ・野菜炒め・ミルクティ（チャイ＝大きなヤカンに大量の紅茶を入れてぐらぐらと煮た濃い原液にお湯と牛乳か山羊乳とスパイスを入れたベルシャ式の茶）といった当地の定番の昼食であった。ナンには胡麻が振ってあり、焼き立てで大変香ばしく、シコシコして特においしい。これに野菜炒めを挟んで食べる。香辛料の強いダルスープは苦手なため、ミルクティと共に味わったが、今までいろいろとナンを食べたなかで最もおいしかった。大皿に盛ったナンが無くなると、すぐお代わりを持ってきてくれた。そのうちお祈りをすませた連中も加わって賑やかな食事となった。昼食代はバス料金に含まれているが、今までの経験から、10ルピー（約23円）位であろうか。

昼食後、バスは快調に飛ばす。時々山羊・羊・ヤク牛の群に出合う。動物のほうでも慣れているのか道路脇に巧みに身を躱す。先日ボランティア活動中に我々のジープが飛び出してきた鶏を轢いて長い交渉の結果、200ルピーの弁償で済んだが、山羊・羊・ヤク牛なら多額の金を支払わねばならないであろう。

バスはサシの寒村を過ぎ、スカルドからのインダス川とフンザからのギルギット川との合流点（三大山脈ジャンクション）近くになると、右岸にすばらしい白銀の山が見えてきた。思わず「ナンガパルバットか」と叫ぶと、運転手や乗客の一部から一際に「違う、ハラモッシュだ」の声が上がり、すぐ後ろの席の他の乗客と違って民族服でなくスーツ姿のビジネスマン風の男が丁寧に「ハラモッシュ、高度7406㍍」と教えてくれた。神々しい山容に思わず「すばらしい」と言うと、運転手はどうだすばらしいだろうと言わんばかりににっこりと微笑んだ。

カラコラム山脈のすばらしい風景に浸っていたところ、突然バスは大きな音を発してパンクした。舗装道路といっても日本にすれば簡易舗装程度で落石も多くやむをえないであろう。すぐに運転手2人は下車して調べていたが、二重後輪の左の内側のタイヤであった。このまま次の町まで走ることになったが、我りのタイヤがそれまで持つだろうか、いささか不安であった。

長い急峻な山峡の道を走り、三大山脈ジャンクションポイントに達してギルギットからのカラコラム街道に入る。一車線の吊橋を渡るとやはり検問所があり検問を受ける。道はここからややゆるやかとなり、道幅も心もち広くなってきた。このカラコラム街道を逆上ると、フンザを経てカラコラム峠を越え、5200㍍走ると中国の北京に達する。この道がはるかチベットにつながっていると思うと感慨無量である。

しばらく走って16時20分、最初の町ジャグロットで停車し、運転手は車と共にタイヤの修理に町の中に入って行った。その間茶店でお茶にし、町をぶらつく、ここは交通の要衝だけに軍事施設が置かれ、十字路にはパキスタンの誇る核搭載可能なミサイル「ガウリ」のコピーが国威高揚のため置かれていた。

出発するとジャグロットからもわずかに白い頂が見えていたピークが、その白銀の威容を大きくして、ぐんぐんと迫ってきて街道の上部に仁王立ちとなった。「あれはナンガパルバットか」と叫ぶと、車内から一斉に「そうだ、ナンガパルバットだ」の声が上がった。走っている車の窓を開けカメラを向けると、横の運転手は「ちょっと待て、ビュウポイントで車を停めてやる」と親切に撮影に適した所でわざわざ停車してくれた。カラコラム・ヒマラヤ山脈の西端領域の雄峰「ナンガパルバット」、その白銀の偉容は、サンスクリット語で「裸の山」の意であり、またの名を「ディアミール」と言い「精霊の棲家」の意で、現地人には深い畏敬の念をもって崇められている。そのすばらしい偉容を写真に撮り「大変すばらしい」と叫ぶと、この時も運転手はどうだすばらしいだろうと言わんばかりに、その強面を緩ばせた。少し逆光であったが頂上付近は夕陽に輝いていた。往路では霧のため見られなかったナンガパルバットとその周辺のヒマラヤの峰々をしばらくの間車窓より楽しむことができた。

ハラモッシュ7406㍍

右岸を走っていたバスがラキオット橋で対岸に渡るとやはり軍隊の検問所があり検問を受けた。検問所の横に中国風のシャグリラ（桃源郷）ホテルがあり、ホテルの横からナンガパルバットへのジープ道路がのびている。この道は有名な人食い道路で、断崖絶壁に掘られた急峻な道路はジープがやっと通れる幅しかない。大概の人は二度と通りたくないと言い、人によっては下山時に車を降りて徒歩でくだるとのことである。またここから街道の町チラスまでは山崩れの多い所で、どこで崩れても不思議でない地形ばかり。一週間前の通行遮断の発生場所には、当時崩れた岩石・土砂といっしょに使用したブルドーザー等の重機が道端に置かれ、無事通過できたことの幸運を感謝した。ようやく日が傾き始めた頃、突然大きな破裂音を発して再びタイヤがパンクした。

先のパンクと同じタイヤであったが、運転手2人は協議して約7㌔先のチラス

ナンガパルバット8126㍍（ジャグロット付近から）

道路状況から二度のパンクは理解できるまでそのままの状態で走ることとなった。が、日本に比べて修理技術はかなり劣るかもしれない。運転手も乗客も毎度のことなのか、特に不安な様子もなく平静であった。

15分程走って18時15分、チラスに到着した。運転手がパンク修理に行く、ちょうど日没に差しかかり、乗客一同はバス停前のレストランの広場にカーペットを広げてメッカの方向にイスラム教の日没のお祈りが始まった。私はその間ここでお茶をいただく。往路ではここで一泊し、チラス手前のインダス川対岸の大きな岩壁に、チベットより渡来の古い仏教線刻画が描かれているのを見た。

修理を終えて出発となった。後でわかったがタイヤは応急修理のみらしく、最終停車地のペシャームで再度修理に出していたようであった。

日はとっぷりと暮れ、明かりはバスのライトだけとなり、険しいインダス川の流れも見えなくなった。スリルは感じなくなったがダッソーの町までは山崩れの特に激しい水流を何度も渡る。数日前に通行遮断された所だ。行き交う長距離便のトラック野郎の満艦飾は蛍光塗料によって異様に輝いて通り過ぎてゆく。深夜22時半、左岸を走っていたバスが再び右岸に渡るとダッソーの町であった。

往路ではここで遅い昼食をとったが、この付近はトライバルエリアとしてこの地方の部族支配の地で、パキスタン政府の支配のおよばない治外法権地帯である。特に治安は悪く、十分警戒を怠ってはならないと注意のあった所で、先に渡った橋に軍隊の検問所は置かれていなかった。

バスは停車することなく通過して行く。今夜は満月であるのか山の端をくっきりと現し、そのうち白い山が満月に照し出された。深夜0時15分、カラコラム街道では大きな町ペシャームに到着した。

町は不夜城のごとく街道両側の商店は開いており、深夜便のトラックやバス等の留まり場となっているため、乗降客でごった返している。パキスタンの他の町と同様、目にする人間は全て男性のみで異様な雰囲気がある。

ここでもたった1人の日本人だけに衆人の環視の的となった。子供の乞食が纏わりついてきたので、1ルピーを与えるとお礼も言わず人込みのなかに消えていった。イスラム教の五行（信仰告白・礼拝・喜捨・断食・巡礼）の一つである喜捨、即ち富める者は貧しき者に富を分け与えねばならないという行為だが、ボランティア活動中でも、そう裕福とも思えない若い男が道端の乞食に極めて平然かつ事務的に小銭を差し出している光景や、時には仕事の途中に車からわざわざ降りて老婆の乞食に恵んでいるのをたびたび目にしたが、信仰心の薄い我々日本人には少なからずカルチャーショックであった。

この喜捨はイスラム世界の各種業務、行為、商品に喜捨税として掛けられ貧者救済の一助ともなっている。またイスラム系銀行の貯金にはこの喜捨税は掛るが利子は一切付かない。これはイスラムの教えでは汗水垂して得た金は自分の報酬として認められるが、金を預けただけによる利子等不労所得は正式な報酬と認められず、従って銀行融資にも利息が付かない。銀行の運営は融資による事業収益を銀行と顧客が話合いで率を決めて喜捨税を含めて返済するシステムとなっている。このイスラム系銀行が今イスラム諸国で盛況を極めている事を知り、これもボランティア活動中に見聞した一大カルチャーショックであった。

他の乗客といっしょに茶店に夜食を食べに入った。茶店は暗い裸電球だけで昼間と違って一層汚さを照し出し、あまり食欲はわかなかったが先を考えて腹に入れることとした。

食事内容は昼食と変わりなかったが、味はやや落ちている。空腹を満たすには十分であったが、ナンは昼食時のほうがうまかった。私は何回かの来訪ですっかりナンが好きになった。全粒粉で見た目にはやや黒いが栄養価が高く、ナンとミルクティだけでも当地での生活に耐えられそうである。

最終停車地のペシャームを出発すると平野部に近づき、高度が低くなってきたためか樹木が多くなった。二ヶ所に道路遮断のポールがあったが共に開いたままであった。深夜のみ開放しているのか、それともトライバルエリアでパキスタン政府の力のおよばない所なのか、例のビン・ラディーンもこれなら難無くアフガニスタンからパキスタンに逃亡可能である。お国柄か水も漏らさぬ警戒とはいかないらしい。

やがて車はインダス川を離れてナンガパルバット山脈の西端の山越えに入る。街道沿いの小さな町をいくつか通り過ぎ、この山稜を越すあたりから東の空が明るくなってきた。峠を越えて平野部に向かってくだって行くと、乾燥地帯だけに雲一つない快晴の空に、真っ赤に燃えるような朝日がはるかかなたの地平線から昇ってきた。何とすばらしい夜明けであろうか。

平野部に降りると同時に道路を走る車は増えてきて、午前6時、すでに車でごった返すラワルピンディのバスセンターに予定より3時間早く到着した。

下車する前に横の運転手に「有り難う」とまず握手を交わすと、彼はにっこりと微笑んで「もう一度パキスタンに来いよ」と言ってくれた。そのあと乗客全員と握手を交わし、愉快なローカルバスの旅に終止符を打った。

ここからは朝の雑踏の始まった砂塵の多いラワルピンディの町を、イスラマバード空港に向かってタクシー「スズキ」を走らせた。

（2002年3月28日・29日）

連載

三角点を訪ねて ㉜

奥美濃入門の山、小島山からムネ山へ

奥美濃

礒部 純

前年に登った天狗山は奥美濃の山シリーズ最初の山。次に登る山を湧谷山と決めていたが、雪が多くのびのびになってしまい、山行実施はついに新年早々の11日になってしまった。しかし、山科の大兄が数日前に湧谷山の様子を見に行ったところ、山は雪が深いうえ道路も凍っていて、広瀬までノーマルタイヤで行くことは無理と判断して急きょ、目的の山を小島山へと変更した。

小島山は伊吹北尾根の虎子山や鷲ヶ先と共に、揖斐川支流である粕川水系に属する山の一つで、揖斐川町と春日村の境界に位置する。大兄に言わせると「奥美濃の山の入門編」に当たる山だと言うが、私はこれまで一度も登ったことがなかった。言うまでもなく、岐阜県は江戸時代まで飛騨と美濃の国に分かれていた。美濃の国とは現在の岐阜県南部の地域で、岐阜や大垣・関ヶ原周辺の西濃地方を除いた地域で、東は木曽山脈から西は伊吹山塊、北は両白山地に囲まれた地域を指す。その中で奥美濃と呼ばれている地域は揖斐川源流・長良川源流に向かって奥へ遡る地域を指している。この日登ろうとする小島山はその奥美濃の入口にある山といえる。

7時前にJR山科駅へ着く。山科での集合者は予定より1人多い8名。二台の車に分乗して一路関ヶ原インターを目指した。関ヶ原インターを出ると、守山と名古屋の彼が待っていた。これで総勢10名のパーティとなる。和邇の彼が言い出して、山科の大兄が美濃の山を案内してくれるようになって、初めての大人数である。ただ、この中に言いだしっぺの彼は仕事が入り、また、最近奥美濃の山に魅せられている鈴鹿の彼女は風邪を引いたとかで姿が見えない。さぞかし残念に

小島山の山名標識

ちがいないだろう。

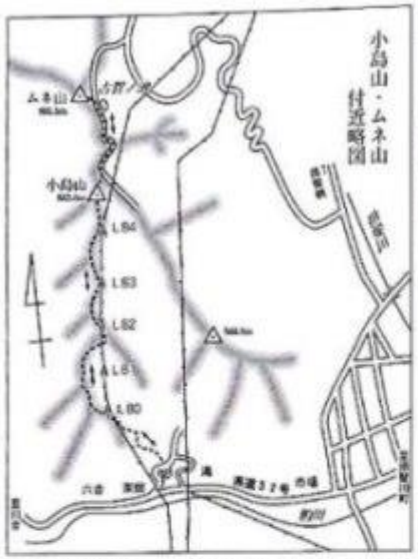
大兄の車の後について国道216号線を東へ走る。このあたりは初めて通る道なので地理が頭に入っておらず、前の車を見失わないようにひたすら走るだけ。揖斐川町の標識のある交差点を左折して、池田山を左に見て北上。行く手には遠く真っ白に雪を被った小津権現山の姿が見えていた。途中何回か曲がり、池田山の北端が近づくと、山頂に送電線鉄塔の立つ小島山が姿を現す。揖斐川支流の粕川を渡り、左岸の道を西へ。市場を過ぎて、二本の送電線を潜った先で右手の林道に入り、二度ターンして少し道の広くなった所へ車を置いた。ここがこの日の登山口である鼻子谷で、巡視路の取付でもある。谷入口には「火の用心 L80」と書かれた黄色い標識が立っていた。

9時10分、アイゼン・ワカンを持って出発。山頂付近に雪は積もっていないように見えるが、周りの山の様子では雪があると考えなければならない。空は抜けるような青さで陽も暖かく降り注いでいる。まず、古い小さなワサビ田のそばから谷へ入る。入口の竹やぶを過ぎると、大きな角石がゴロゴロしている谷。その谷を200㍍も登ると左に「火の用心 L80」と書かれた標識が立っている。ここから谷と分かれて尾根へ取り付く。最初から急登で周りは雑木の林。落ち葉の積もった道は雪解けで滑りやすい。斜面を登り左の尾根へのると、雑木の林から檜林の尾根へと変わる。斜面は相変わらず急で、斜面にジグザグに刻まれた巡視路は上へ上へとのびている。

35分も登り、L80送電線鉄塔の下で休憩。思わず腰を下ろしてしまう。冬の登山ではめずらしく汗が額から流れて止まらない。汗を拭い、水分補給をしただけでゆっくりする間もなく、すぐ出発となる。登り出すとそれまでの檜の林から出て、見晴らしのよい尾根になった。道はイノシシにでも掘られたのか荒れている。後を振り返ると、粕川の谷を挟んですぐ南に池田山の北端がそびえていた。

道が左へ巻き込むと、再び檜林の尾根へと入る。斜面は相変わらず急で、ものを言う元気もない。「ムトウドリ」が囀ればその話に気が紛れるのだが、彼女はおらず誰も一言もしゃべらないで黙々と登って行くだけ。やがて「L81 L82」の標識の立っている三叉路へ着くが、ここからL82の鉄塔を目指して急な斜面に付けられた踏段を登って行く。そこを登り切ると広い尾根で、傾斜も次第にゆるくなった。薄暗い檜林のなかに雪が姿を見せはじめた。上へ向かい檜林を抜け、雑木林に変わると右上にL82の鉄塔の姿を見る。その広場で二回目の休憩となっ

小島山・ムネ山付近略図



た。この下あたりに4等三角点・点名「桜村」があるはずだが、雪に覆われているうえに地形図を見る余裕がなく、位置も確認できなかった。

その先、再び檜林のゆるい尾根を登る。雪は斜面一面に積もり、ウサギやシカの足跡が点々と描かれていた。なかには熊の足跡を見たという人がいたが、後ろにいた人達にはその声が届かず、熊の足跡がどんな形なのか見ていない。

やがて、L83の鉄塔を潜る。ここに来て初めて前方に小島山の山頂を見る。一度くだり、左檜右雑木の尾根を登り、檜の林が無くなると、シロモジとリョウブの点在する林に変わる。それまでの暗さから開放され、明るい林だった。雪の張りついた道を登って行くとL84の鉄塔。ここまで来れば、山頂まではひと登り。

小島山山頂へは11時到着。予定より1時間も早かった。檜の植林が視界を遮っているが、北方だけ展望が開けている。大兄の解説により、遠くに雪を被り横たわっている山々を教えてもらうが、花房山・雷倉・能郷白山まではわかったが、その他の山は登ったことがないうえ、このあたりへ足を踏み入れたこともなかったので、全くと言ってよいほど位置関係が頭に入ってこない。ただただ、山の名を聞いているだけ。

三角点はといえば、雪の積もった広場の西端にあった。先に登った人が被っていた雪を掻き分け、標石を出してくれていたのだ。側面に赤いペンキが残っていたが、欠けた所もないきれいな標石だった。南を向いていて、20度西へ振っている。小島山三角点は点名を「市場」、標高は863・6㍍、3等三角点である。

ここで「やっと食事にありつける」と思ったのは早計で、私が北方の山に見とれている間に、他の人達がこの裏にあるムネ山まで行くことに決めていた。「ムネ山まで行きますよ」という声を聞いてガックリ。腹が空いてフラフラなのに、まだ昼食ではないとは……

聞くと、この小島山へは5人が登ったことがあり、今まで踏んだことがないムネ山へ登りたいと言う、食事は諦めるしかない。そっと甘納豆を食べて腹をごまかす。体力のある気の早いあの人など、もうワカンを履いて歩き出すのを待っている。

全員ワカンを着装して細い尾根を北へくだる。200㍍もくだると林道へ出た。雪が無ければ尾根をたどるのだが、ワカンを履いての歩行では小さなアップダウンでもこたえるので、単調ではあるが、ムネ山のすぐ下までのびている林道を歩くことにする。陽の当たる所では10㌢程の積雪だったが、北斜面では60㌢は積もっていた。山腹をぬうように続く林道を、先頭を順番に交代しながら進む。

初めてワカンを履いて歩くあの2人は、自分で自分のワカンを踏んで何回も転んでいた。右手斜面の下には養老平野が広がり、その中を揖斐川が蛇のようにうねっていた。ラッセルしながらの林道歩きは思った以上に時間がかかる。1時間20分も歩き、ムネ山の取付に着くと、そこには「古賀ノ池」と書かれた大きな看板が立っていた。趣のある池なのだろうが、この雪では池は見えない。とにもかくにも食事が先と、取付の鞍部から斜面を北へ登る。ムネ山山頂は細長いピークの北の外れだった。

ムネ山到着12時30分。山頂東の急斜面は檜の林だが、西斜面は美しい雑木の林。木の間から雪で白い伊吹山の頂を見る。近くの山の上には伊吹北尾根の山々が頭

を出していた。山頂には「西みの山楽会」と書かれた標識と山名標識が下がっていたが、三角点は雪の下。あたりを探すが見つからない。皆はまずは食事をしてから探そうと去ったが、その後も執念深く探していたのは茨木の彼女と私の2人。彼女のストックに触れた固い物を掘り起こしてみると、三角点標石があった。全員で記念写真を撮った時に踏み固められた所で、固まった雪を掘って標石の頭を出すのがやっとのこと。その頭だけを写真に残すしかなかったが、標石に会えただけで大満足。この三角点は点名「上野」で、2等三角点。標高は905・5㍍だった。

古賀の池からムネ山へ

頭だけのムネ山三角点

この陽だまりで、雪の上に坐って待望の昼食となる。ちくわ・はんぺん・じゃこ天・小魚といろんな物が揃ってくる。珍しいことにこの日の飲み物は、10人もいるのに守山の彼のチュウハイ一缶だけで、他に持ってきている人はいない。それを一口いただいて飲んだ時のおいしさは、何にも例えようがなかった。

13時15分、来た道を戻る。往きの1時間20分に比べ、帰りは小島山まで45分で戻ってきた。雪の量が少なくても、ラッセルしながらの歩きとトレースを歩いたのとの違いである。小島山から夏道をくだることも考えたが、登った道をくだることにした。登りには気にしていなかった雪道も、下りとなるとよく滑る。何人もの人がズボンに泥を付けていた。

途中、4等三角点を探してみたが、雪が深くて場所が特定できずに諦めた。順調にくだり、登りに休んだL80の鉄塔で最後の食料の整理を行う。きんつば・みかん・チョコレートと出てくる。ふと見ると、そばにあるシロモジはすでに蕾が息吹いていた。

15時30分、呉子谷登山口帰着。名古屋の彼とはここで別れる。他は池田温泉までいっしょに行くが、あまりの車の多さに私の車一台だけが風呂に入ることを諦め、帰途につく。初めて走る岐阜の道。ナビゲーターよろしく、関ヶ原インターへ何とかたどり着いたのだった。

（平成15年1月11日歩く）

＜コースタイム＞

呉子谷登山口（40分）鉄塔L80（1時間15分）小島山（1時間20分）ムネ山（45分）小島山（1時間）鉄塔L80（25分）呉子谷登山口

＜地形図＞2万5千＝池野・谷汲

＊ムネ山は、むね山と表記する書物もあるが、本誌はムネ山を採った。

エリア別徹底研究

伊能ウォーク ーNやまと①

服部川～十三峠～龍田神社

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年11月28日［＝1809・1・13］

暁［夜明け］聚［アラレ］降［ル］　朝曇る。六ッ半［7時頃］河内国高安郡神立［コウタチ］村［現在の大阪府八尾市］出立［ス］。同所より初［メテ］、十三峠迄［マデ］測［ル］。峠より大和国平群郡福貴畑［フキハタ］村（植村駿河守御預所）、越木塚村（同断［＝前ニ同ジ］。此村本村漸十六七軒）若井村（同）、西宮村（同）、椿井村（同）、龍田村（是迄植村御預所）迄測［リ］、八ツ後［15時過ぎ］に着す。止宿本陣、松屋孫三郎。別宿同人隠居。此日植村駿河守御預所同心森田八太夫、前川精太、松平甲斐守郷役人谷野三右衛門［挨拶ニ］出る。此夜晴天測量。

〈「伊能忠敬・測量日記」第二巻　佐久間達夫編著より引用〉

［　］は上田の注（以降も同）

●実施日　平成12年5月9日(火)　快晴

●参加人数　18名

9時30分、近鉄信貴線服部川駅前を出発（略図の○印）。車の通る道を注意しながら北上し、水越6丁目付近で右折し、都夫久美神社の境内に到着。ここで先生の挨拶と全員が自己紹介をする。道を再び東にとって玉祖神社で休憩10分。15分も歩くと山道になる。目指すは十三峠。西側の斜面は急で登りはきつい、50分程歩いて水呑地蔵で再び10分休憩後、十三峠到着はちょうど正午。この間服部川駅（30㍍）から十三峠（438㍍）まで410㍍登ったことになる。ここ十三塚で約1時間昼食と説明。

午後は東斜面をくだるが、こちらはなだらか。山道から舗装道へ出るが、車は時々来る程度。福貴畑から歩測を始める。この間、約半時間全員無言の行。距離約1・6㌔、高低差約120㍍の下り舗装道。この歩測が伊能ウォークのひとつのメインイベントであり、ウォーキングメジャー（量程車）との誤差1㌫以内を名人、1㌫～5㌫を達人、5㌫オーバーを凡人とすることにした。量程車は先生が

押して歩く（略図の太線区間）。

ここからは西宮を経て近鉄生駒線竜田川駅前を通り、線路を東へ渡って竜田川沿いにR168を南下し、R25との交差点で左折東進し龍田神社に至る（略図の◎印）。15時45分、ここで解散する。

一日中晴天で湿度も低くさわやかで、快適なウォーキングであった。

（記録・伊藤　晋）

〈地形図〉2万5千＝信貴山

十三峠～福貴畑間

服部川駅～十三峠～龍田神社　付近略図

〈本日の歩行距離　約13キロ〉

1:19m

エリア別徹底研究

伊能ウォーク ーNやまと②
龍田神社～勢野～信貴山～龍田大社～王寺

上田倖弘

伊能忠敬・測量日記

文化5［1808］年11月29日［＝1809・1・14］

朝より暗天。六ツ半前［7時頃］、龍田村（又立田村共）出立。同所橋際より初［メ］、楽人領物持寺村木村宗右衛門支配所、勢野村迄測印を残し、信貴山へ測量。（信貴山鶴喜院朝護孫子寺、除地十一石四斗三升、寺中あり）。それより引返し勢野村残印より初［メ］、植村駿河守御領所南畑村（木村惣右衛門支配所）、立野村龍田大明神（御朱印十二石法隆寺持）、葛表［トリイ］前迄測［ル］（此村に大和川支配　安村豊右衛門あり。当御代に由緒あり。大和川舟公事に付出府、代［リテ］奥野権蔵出る）。それより無測にて王寺村へ越す。（此村に遠磨寺あり。御朱印三十石）八ツ半頃［15時頃］王子村へ着。止宿百姓与治兵衛（一同宿）。此村に孝霊天皇陵あり。字馬ノ背という。即、片岡山馬坂なり。此夜曇天。

（『伊能忠敬・測量日記』第二巻　佐久間達夫編著より引用）

●実施日　平成12年6月13日(火)　曇・晴・小雨

●参加人数　14名

9時30分、前回解散の龍田神社を出発。旧街道の町並を通り竜田川を渡り、脂肪繊工場を過ぎ、正面に信貴山の雄山・雌山を見ながら勢野・信貴山の道標を右に、旧惣持寺村あたりを抜ける（このごろから天気が梅雨の晴れ間になり非常に暑い）。信貴山毘沙門天道（施主尾張屋太郎兵衛（尾太））の石標と鳥居、近鉄生駒線を潜り急な坂道を30分程歩いて、三郷町営水道貯水塔を過ぎ10分程休憩。また急な坂道を登ること15分、門前町を過って仁王門・張子の虎を見ながら（ちょうど本日は寅の日であった）朝護孫子寺本堂の霊宝館前に到着、ちょうど正午である。本堂に上がり説明を聞く、眺望よし。引き返し、門前町を経てバスターミナル（旧近鉄東信貴ケーブル駅跡）に12時30分着、昼食にする。

復路は坂をくだり（雨が降りだした）、信貴山毘沙門天道の石標まで戻り、ここより龍田大社まで歩測を開始する。皆さん前回より良い結果を出すため、午後の歩幅の測定に励まれた。私が最程度を押す。交通量も多く笛を吹き注意するのに忙しい。

途中、近鉄信貴山下駅あたりで金山さんがお腹の具合が悪くなり、駅で便所を借りたのち、行方がわからなくなった（後刻、先に王寺駅にて待つが出会わず、帰宅とのこと）。

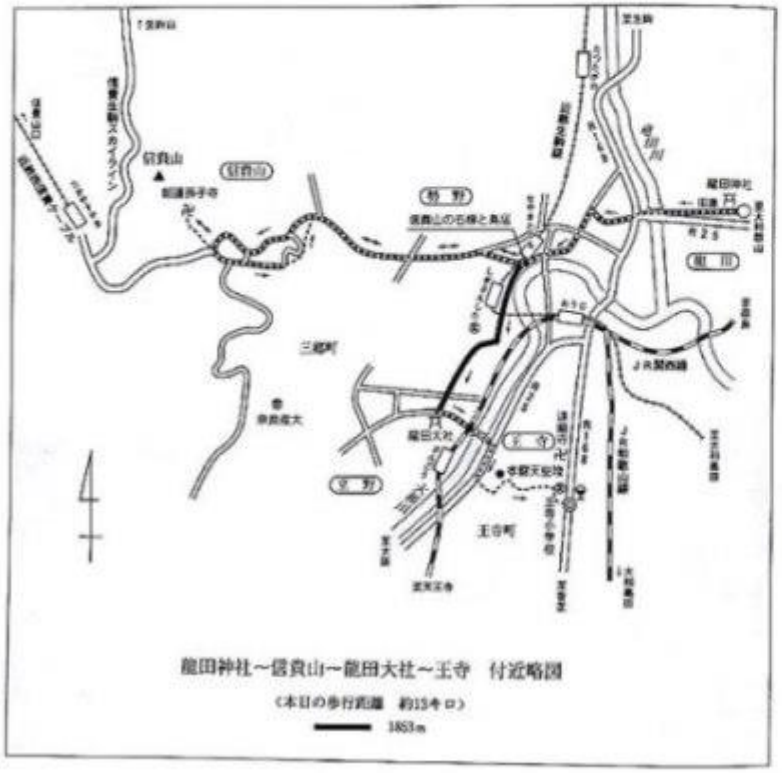
龍田大社（風神、台風よけ五穀豊穣の神）に15時着、説明あり。ここより大和川を渡り、孝霊天皇陵（片岡山の馬坂）を経てR168に出て、王寺小学校前バス停に16時40分着、ここで解散する。

暦通りに梅雨入りし、前日より雨模様で湿気が多く蒸し暑かったが、緊張感も少し味わった一日でした。

（記録・上村悠弟）

〈地形図〉2万5千＝信貴山

勢野の信貴山への分岐道標



龍田神社～信貴山～龍田大社～王寺　付近略図

（本日の歩行距離　約13キロ）

1853m

阪急山本駅から
長尾（中山）連峰縦走

コースとコースタイム　阪急山本駅（20分）—満願寺滝（30分）—満願寺（35分）—岩場（登り20分）・（一般40分）—満願寺西山（1時間20分）—中山最高峰（40分）—中山寺奥の院（25分）—夫婦岩（30分）—中山寺（35分）—阪急中山駅（徒歩・27分）梅田駅（徒歩約14㌔・うち平道3㌔）

中村敏文

山本駅から満願寺（宝塚市・川西市）

阪急宝塚線の山本駅で下車し、2㌔北の最明寺滝を目指す。駅西側の山本地区や駅東側の平井地区は、古代から室町時代の山本庄で、古代は摂関領、室町期は山城国松尾神社の荘園であった。

戦国の乱世が終わり豊臣秀吉から山本庄司頼泰が木接大夫の称を得たように、当地域は植木業が発展し、現在も植木造園関連の仕事に従事する人が多い。

山本地区東端、田村の森にある氏神の松尾神社は坂上田村麻呂が創祀したといわれ、山本西北の丘陵地、菅の森にある氏神で昭和三十七年までトントコ祭が宮座で継承され、神輿は松尾神社を出発し天満神社で御霊移しを行っていた。

山本駅北側は平井地区で氏神の八坂神社がある。江戸初期修補の春日造の本殿は素戔嗚命・白山姫命を祭る。

大聖不動明王参道が最明寺川沿いになると右岸段丘に宝教寺があって、少し歩いて山門をくぐると大聖不動明王の石標を見る。分岐道を右へ数分も歩くと高さ15㍍ほどの最明寺滝がある。

鎌倉幕府第五代執権の北条時頼（最明寺殿）が執権職を時宗に譲り、出家後、各地を遍歴修業中にこの滝に出合い庵を結んだ地ともいわれ、また時頼がこの地に一泊して滝を愛でたともいわれ、見事な景観の滝と清流に最明寺を冠したという。

満願寺西山への岩場を登る

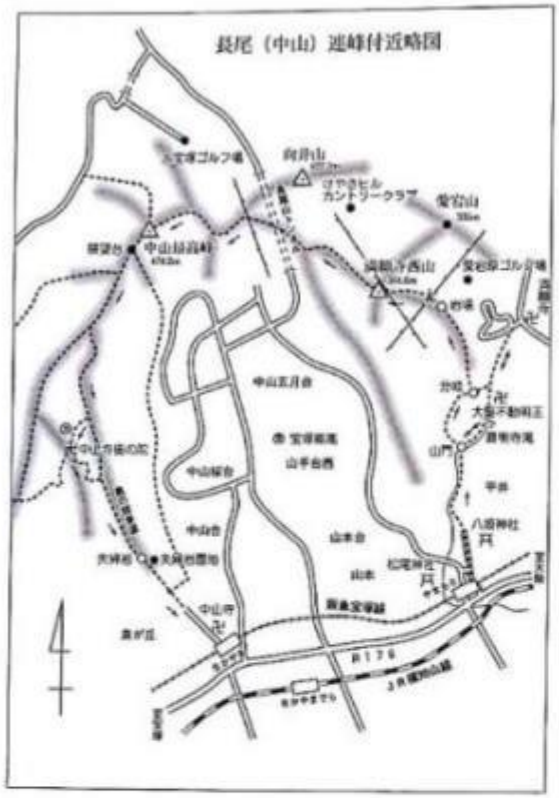
満願寺（川西市満願寺町）

山門のある辰巳橋まで戻り、不動明王石碑のある山腹を抜けて満願寺へ向かう。細い山道で歩きにくいが半時間ほどで川西市飛地に残る満願寺へ到着する。

神亀元年（724）勝道上人創建の古刹で千手観音立像を本尊とし、神秀山と号す。平安時代は天台宗だが現在は高野山真言宗で、正応六年（1293）3月と刻銘のある九重塔（重文指定）が現存する。

多田源氏の源満仲が深く帰依して天禄年間（970～73）に堂塔を建立した。満仲の末子の僧源賢が金堂・千手堂などを建立し、円覚院と改めた。その後満仲の孫、源頼国が寺領を寄進して多田源氏の菩提寺とし、一族の崇敬を集めた。

鎌倉幕府・室町幕府にも崇敬され寺運も栄えたが、室町末期に火災で焼失し、徳川四代将軍家綱の加護で再興された。明治の廃仏毀釈で衰弱するが、徐々に寺運を挽回し、明治三十一年に満願寺と復称した。



長尾連峰縦走（切畑—中山）

満願寺から最明寺滝への分岐へ戻り、縦走路を岩場へ向かう。急傾斜が90㍍ほど続く岩場は見上げると大変だが、適当に足をかける岩もあり、危険地帯にはロープもつけてある。

健脚者で15分、一般ハイカーでも30分で登れば標準タイムだと慎重に登る。油断も厳も許せない岩場登りは40分で終わった。

縦走路南下の山手台への分岐を過ぎ、エスケープルートへの分岐を経て、送電線鉄塔下の小広場で昼食休憩とする。鉄塔近辺の高度は300㍍前後の尾根道で、四方に展望が開け、伊丹空港の航空機の離発着もはっきりと見える。

愛宕山南麓に広がる愛宕原ゴルフ場を右下に見て尾根を西北へ歩くと満願寺西山で、ハゲ山の台地に送電線鉄塔がある。さらに西北へ尾根を進むと右下にけやきヒルカントリークラブが見え、422㍍の向井山を真北に見ると縦走路は西方へと向かい、大宝塚ゴルフ場が右下前方に広がる。昼食場の鉄塔下からピークを四つ越えると、縦走路は西方向から南へと半円形を描くようにくねり、478・2

中山奥の院

旨の中山最高峰が間近に迫り、山頂手前に広場がある。

中山（長尾）**連峰最高峰**

広場での休憩をやめ、一気に少し傾斜のきつい緩走路を登り切ると、緩走路の西上に2等三角点があり、30人程が休める広場に出る。北と東西の三方向は展望できるが、南方は樹木が茂っている。

最高峰から南東への分岐は中山桜台への山道で、中山寺奥の院への緩走路は南南東方向に、ピークへ登り返してくだっている。

中山寺奥の院（中山）

中山から半時間ほどでくだり着いた静かな奥の院は、本堂横に名水「大悲水」がある。最近なぜか生水は飲まぬようにと注意書きがある。人気のない白鳥の滝から落ちる山の水だと飲んでみたが大丈夫である。

奥の院から中山寺まで十八丁と道標がある参詣道をくだる。石段と人頭大の石が乱雑に敷かれた歩きにくい道で、奥の院まで十二丁とある夫婦岩まで20分もかかる。大石が二個並び立ち、付近はベンチ等を置いた夫婦岩園地となっている。

中山寺まで六丁の道も半分は階段と少きにくい石ころ道で30分もかかる。

中山寺（中山寺二丁目）

寺伝によると中山寺の地は仲哀天皇妃の大中姫とその子忍熊王を葬った地で、その後2人の追善供養のため聖徳太子が寺を建立し、西は武庫山から東は猪名川に至る広大な地域に薙藩したという。

平安後期に摂津守となった源満仲は当寺を祈願所として尽力した。花山・後白河法王も深く帰依し、比叡・高野に並んだ。源平の争乱で焼失するが、源頼朝が源氏の祈願所ゆえ再興し、応永三十年（1423）の火災焼失では天文年間の領主塩川国満が再興する。戦国末期の荒木村重の兵乱で荒廃した当寺を、豊臣秀頼が桑山重政を奉行として諸堂を再興した。

現在は真言宗中山寺派大本山で紫雲山と号し、重文の十一面観音を本尊とする。10万平方㍍の広大な敷地に慶長八年に豊臣秀頼再興の本堂・護摩堂・薬師堂・大師堂・鐘楼・山門と、その後に再建した大師堂・十王堂・仁王門・鎮守社がある。

境内には古刹らしく古代寺跡・美女丸学問所跡・聖徳太子駒石跡や後期古墳の横穴式石室古墳に家型石棺が残る。

西国三十三ヶ所第二十四番札所と安産祈願のお寺として参詣者が多い。本堂裏手の梅林は白梅・紅梅・豊後など二千本の関西屈指の梅の名所である。

仁王門を出て商店街を行くと数分で阪急中山駅へ着く。

安全登山宣言！中高年の方々も無理なく楽しんでいただけるよう、ステップアップ企画です。
各回、基礎から雪山技術講習を行います。本格的雪山登山が始めての方、大歓迎です！
アミューズトラベル全営業所にある低酸素室１回使用無料付き！（一部コースを除く）

中央アルプス　木曽駒ヶ岳登頂
初めての本格的雪山へ～アイゼン・ピッケルの使い方～
12月11日(土)～12日(日)　¥58,000
ロープウェイで手軽に雪山を体験できる千畳敷より、中央アルプス最高峰の木曽駒ヶ岳を目指します。初日、千畳敷にて雪山講習会を行います。本格的に雪山を目指したいという初心者の方にお勧めのプランです。

富士山山麓　雪山講習
雪山歩行基礎編②～安全・確実な雪上歩行と滑落停止～
2月4日(金)～6日(日)　¥85,000
雪山技術講習の定番、富士山雪山講習です。登頂は目指しませんが、寒さ対策、アイゼンピッケルの使い方など雪山の基礎講習を行います。この季節の富士山は絶景の宝庫にも恵まれており、雪山を本格的に始める方にお勧めです。

南アルプス　鳳凰山登頂
年越し御来光企画①～大展望の南アルプスの名峰へ～
12月30日(木)～1月1日(土祝)　¥79,000
南アルプスを代表する高峰三山、今回は観賞価値の御来光を仰ぎ見、鳳凰三山縦断へ挑戦する内容プランです。山頂からは富士山、北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、南アルプスの峰々をはじめ、360度申し分のない第1級の大展望を楽しみます。

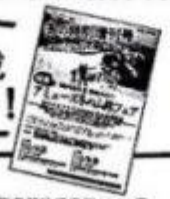
北八ヶ岳　天狗岳と黒百合ヒュッテ
本格的雪山に挑戦①～アクシデント対策～
2月11日(金祝)～12日(土)　¥58,000
穏やかな山容と豊かな山歩きが楽しめることから日本の北欧とも呼ばれる、北八ヶ岳。その中で最も人気の高い天狗岳縦断へ向け、天狗岳に登ります。荒々しい岩峰と苔峰からなり、登山道の展望は素晴らしく、日本アルプスをはじめ中部地方の名峰がすぐ近くに望まれます。

北アルプス　西穂高岳　独標
年越し御来光企画②～コンパスワーク　上級編～
12月31日(金)～1月1日(土祝)　¥65,000
雪の北アルプス最高峰の一角、西穂独標に挑戦します。これから本格的な雪山を始めるには絶好に思っておられる初心者の方といえるでしょう。風が吹き荒れる厳寒の雪山を歩き、冬期の登頂を目指すにはかなりの高山への経験が高いてくること間違いないでしょう。

八ヶ岳最高峰　赤岳登頂
本格的な雪山に挑戦②～バーン・雪庇・雪崩地形～
3月4日(金)～6日(日)　¥87,000
八ヶ岳は冬期の最も不安に陥いるその魅力です。最高峰の赤岳からは白銀の南北アルプスの展望が開きます。文三郎尾根を使いより実践的な雪と接触の仕方を習得します。厳しいバリエーション高峰に登りは絶対間違いなしです！・・・全13回まで続きます。

雪の伊吹山登頂と伊吹薬草風呂
雪山歩行基礎編①～安全・確実な雪上歩行～
1月22日(土)　¥17,000
東京高尾山で有名な伊吹山ですが、今回は雪の伊吹山に挑戦するプランです。注意ソフト初心者のらくらくプランです。山頂から約360度の大展望を楽しみます。また下山後は伊吹山麓の薬草風呂で汗を流します。2月のいっぱい冬の雪景色にご参加の方がぜひご参加下さい。

雪山
パンフレット完成
ご請求下さい！



お問い合わせは・・・ 山旅専門旅行会社
アミューズトラベル株式会社　国土交通大臣登録旅行業第1366号　日本旅行業協会正会員　ボンド保証会員
〒530－0001 大阪市北区梅田1－11－4 大阪駅前第4ビル7階
☎06－6456－3366　ホームページ http://www.amuse-travel.co.jp　E-mail:amtose@amuse-travel.co.jp　FAX 06-6456-3377

文学歴史探訪ハイク ㊽

極楽橋から高野山へ

松永惠一

高野七口

高野山へはケーブルカーか自動車道によるが、かつてはさまざまな道をたどって登った。「高野七口」と呼ばれる道がそれである。大門口、不動坂口、黒河口、大峰口、大滝口、粗の浦口、龍神口。

「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された「町石道＝大門口」は、お大師さまが開かれた「祈りの道」。お大師さまの御母堂を祀る九度山町の慈尊院から、胎蔵界百八十尊の町石をたどると、大門、壇上伽藍に着く。

鎌倉時代末期、後宇多法皇は百八十本の町石を一本一本礼拝念誦されながら登られた。途中雨に降られ、疲労困憊のため気絶されたりしたが、「今生に結界の霊地を歩まなければ、来世には悟りの境界には昇れない」と述べられている。壮絶な登山であった。

道中には天野の二ツ鳥居、お大師さまが母君の入山をとどめられたという押し上げ石、袈裟がけ石、ねじ石、涙川などがある。

時代が移り江戸初期から大正年間に至るまで、多くの参詣人が利用したのが不動坂口である。京・大坂方面と最短距離で結ばれた道は、茶屋や宿が数多く軒を連ね、大変賑わった。江戸時代の終わり頃には「この道より登詣するもの、十に八九なり」と記している。河根では、高野詣での帰途「精進あげ」の酒盛りが盛大に行われていたという。

お竹地蔵

童謡「七つの子」で知られる作詞家野口雨情は、当時の南海電鉄の終点高野下まで来て、神谷から不動坂を登った。その折の詩情「高野山」。

日暮れにゃ日暮れの　鐘が鳴る
高野のお山は　紀伊の国
紀州は蜜柑の　よいところ
お一つ数えりゃ　日が暮れる
お二つ数えりゃ　夜が明ける
夜明けに高野で　鐘が鳴る

女人堂

女人堂は、女人禁制の象徴として今も杉木立の中にひっそりたたずむ。修行の地は女人の禁じられた地。明治5年（1872）3月27日の太政官布告によって、女人禁制が解かれるまで、女性は足を踏み入れることは許されなかった。高野山内に居住が認められるには、さらに明治39年を待たねばならなかった。

高野七口と呼ばれる七つの入口には、遙拝する女性のための参籠所が設けられていた。お大師さまに笑い信仰を捧げた多くの女性は、口々に「南無大師遍照金剛」と唱え、奥の院御廟を目指して歩いた。不動坂口に唯一残る女人堂。大日如来像を安置する。参詣し、参華を手向け、読経の絶えなかった清楚なお堂には、篤い想いがこもっている。

かつて高野七口の女人堂を結ぶ女人道が、高野山の周縁部、蓮華の花びらを尾根伝いにぐるりとめぐっていた。細く険しい女人道を辿りながら、木の間に見え隠れする大塔や諸堂を遙拝した。奥の院御廟は背後から近づくことが許されていた。不動坂口に唯一残る女人堂。大日如来像を安置する。参詣し、参華を手向け、読経の絶えなかった清楚なお堂には、篤い想いがこもっている。

女人堂の向かいで大きなお竹地蔵が微笑んでいる。江戸時代は延享年間、江戸に住む横山たけは、両親の菩提を弔うためにはるばる高野山までやって来た。不動坂口からは一歩も足を踏み入れることが許されない。参詣するところとてなかった。女人堂建立の大願をたて、奉公しながら僅かなお金を積み立てて、大願を達成したと伝える。

小杉大明神の小祠に額ずく。「女人堂創祖小杉大明神」。語り伝えられる小杉の物語。文永年間、越後は本庄宿、紀伊国屋に生まれた器量良しの小杉。代官の目にとまり、跡継と結婚することになるが、ねたんだ継母に不貞の疑いをかけられる。厳格な父は、許しを請い合掌する娘の手首を切り落とし谷底に突き落とした。

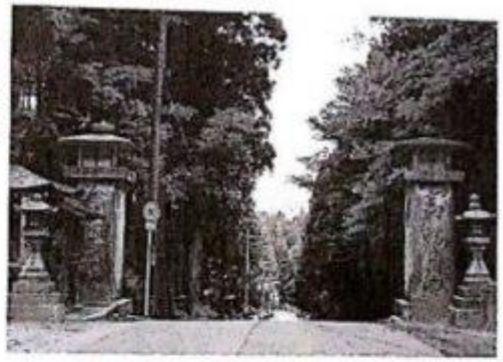
お大師さまのご加護により一命を取りとめた小杉は、代官の跡継と再会し杉松を授かる。またも継母の策略により、最愛の杉松を失う。絶望の淵に立たされた小杉は杉松の遺髪を納めに高野山に向かう。入山は許されず、小杉は参籠所を不動坂口に建てる。お大師さまを慕って来た女人をやさしく接待した。いつしか参籠所は女人堂と呼ばれるようになった。

石童丸

説経節『かるかや』や謡曲『苅萱』で知られる苅萱道心。妻桂子御前と千里御前に囲まれて筑紫で暮らしていた。ある夜、仲睦まじく見える二人の髪が蛇となって逆立ち絡みあって戦っているように見えた。わが身の罪の深さに驚き、家も地位も捨て京に上り、法然上人の弟子となる。後、高野山に登り、蓮華谷に庵をむすび、修業の生活に入った。

それから十数年後、父を探して高野山をさまよう一人の男の子がいた。「無明の橋」で弟を聞いた僧の顔色が一瞬変わった。家を出てまもなく千里は男の子を産む。父の幼名をとって石童丸と名付けられた。まだ見ぬ父に会いたい一心で、母千里と共に高野をめざして、千里は龍の学文路まで来ているという。

父と名乗ることは許されず、「その人は、すでにこの世の人ではありません」と偽り、石童丸を母の許へ帰した。学文路に戻った石童丸を待っていたのは、母千里が急病で亡くなったという悲しい知らせ。悲しみにうちひしがれた石童丸は、再び高野に戻り苅萱道心の弟子となるが、生涯父子の名乗りをすることはなかった。



不動坂口

コース概観

黙々と山道を歩く。けもの道のような急勾配の坂道を登っていく。心臓の鼓動が連打する。心の中には行く先の過酷さが渦巻く。数珠を鳴らしながら礼拝する。消極的な思いが消える。苦しさは達成感が消し去ってくれる。歩かせていただいている、お大師さまに一歩近づいたと思った。「いにしへ人」と同じ想いを共有したくて、極楽橋から不動坂を歩いてみた。

南海高野線は高野大師鉄道と大阪高野鉄道を前身としている。社名からもお大師さまのもとへ詣るための鉄道とうかがい知ることができる。高野線は橋本を出ると単線になる。JR和歌山線、国道24号線と交差して紀ノ川を渡る。紀伊滑水、学文路、九度山を出ると山間を行く。高野下から先は急曲急勾配の連続。急峻な高野の山を登る。下古沢、上古沢とどんどん山が深まっていく。紀伊細川、紀伊神谷。山を上がり切った所が高野線の終点の極楽橋駅。駅構内からは昭和5年に開通した高野山上へ向かうケーブルカーが発着している。

駅の側の不動谷川に真っ赤な極楽橋が架かる。現在の橋は昭和59年の弘法大師千百五十年御遠忌記念で架け替えられた。明治期には不動橋・板橋とも呼ばれていて、極楽茶屋と呼ばれる茶店があった。地蔵尊が祀られている。極楽橋を渡り不動坂を登る。四季折々の花が、清楚な笑みを投げかける。秋は美しい紅葉に彩られ、冬は雪景色の美しい道。

大正2年、不動坂は県道となり、大正4年の高野山開創千百年紀念に合わせ、大改修工事が施された。あまりにも険しかった不動坂は登りやすい道路へと生まれ変わった。大正15年10月、スウェーデン皇太子一行は極楽橋を渡り、高野山に登られている。不動坂には人力車が用意されていた。鉄道の開通していなかった高野下駅から極楽橋までは、高野山参詣自動車を利用された。

浄域の入口に架かる極楽橋を渡り、急な坂道をケーブルカーの高架下をくぐり進む。石畳の道を上っていく。『高野山名所図絵』は、旧道の面影を伝える。

「不動坂　橋を渡れば直ちにこの坂にかかる。一に『いろは坂』といへる崎嶇たる峻坂当山第一の険阻なり。外不動万丈、転しといふ断崖絶壁を左に見つつ進めば、鞭平坦なる地あり、右に外不動として大師の創建にして全彫作の不動尊を安置す、寛文年間備前金岡圧野崎三郎兵衛入道久家の再建にかかり、後明治十六年堂宇焼失せしを全二十年大坂伏見町の産裟上田みち女一己の浄財にて再建せしもの、其意気や感ずべし。是より岩不動、袈裟懸桜等を経て、稚児が滝として昔児童の身を投げしといふ滝あり、冬季は厳面一帯の堅氷となり玲瓏玻璃の如く、（中略）、花折坂　児が滝より直ちにこの坂にかかる、長さ二町計り、昔は詣者此坂にて花を折り大師廟前に捧げしとぞ…」

極楽橋からの四十八の屈曲坂は、いろは坂とも呼ばれる。この坂の途中に万丈転と呼ばれた場所があった。高野山で罪を犯した者は、奥之院の「蛇柳」付近の地中に生きたまま埋められた。やや罪の軽い者は、簀子巻きにされて谷へ投げ込まれる「万丈転の刑」が執行された。谷底に投げ込まれても、偶然命拾いした者は、そのまま無罪放免になったという。

左手の谷から滝の音が聞こえてくる。

不動坂女人堂
付近略図

稚児の滝。昔、子供がこの滝に身を投げたことから名付けられたという。また一説には、高野山のお寺で修行中の少年成田粂之助と、神谷の雑貨屋の娘、お梅が、この世で実らない恋をはかなんで、2人でこの滝に身を投げたからともいう。この悲恋は、近松門左衛門の「心中万年草」となった。この滝の近くに西行袈裟懸桜と呼ばれる桜の木があった。

さらに登るとお大師さまの草創といわれる「清不動（外の不動）」がある。極楽橋から女人堂までには、「外の不動」「岩不動」「内の不動」と不動明王がまつられていたが、現在は外の不動堂のみが存在している。本尊の不動明王座像は、霊宝館に収蔵されている。大正4年不動坂の整備拡張に伴い、不動堂は現在置に移転改築された。不動堂の前に建つ石標は伝える。旧道を利用する人がいなくなり、不動坂の頂上にあった不動堂は寂れてしまった。これを憂いた大阪の折谷清吉は、現在置へ移転することを発願したが、突然発病して亡くなってしまった。その後、子息の寅吉が、父の遺志を継いで、大正9年、現在置に移転改築したという。

不動坂は花折坂と名を変える。右の道は岳弁天、左は女人堂へとつながっていた。『深山の花』は、外の不動堂より五町登ると岩不動があり、さらに20歩で袈裟懸桜、岩不動より一町先に稚児の滝、稚児の滝より二町の区間が花折坂と記している。かって清不動は極楽橋から胸突き八丁を登った所にあった。

やがてバス道になり左に向かうと女人堂。女人禁制の名残を伝えている女人堂に参拝し、ひと休みする。大きなお竹地蔵が優しく微笑んでいる。

県道高野橋本線の南海極楽橋駅から女人堂間の不動坂道は、お大師さまと大自然を身近に感じることができる道として、昔日の風情漂う歩行者専用道として整備が進められている。

▲コースタイム▼

南海極楽橋駅（50分）女人堂（15分）金剛峯寺（バス）南海高野山駅

△地形図▽ 2万5千＝高野山

△費用▽ 難波駅～極楽橋駅　850円
難波駅～高野山駅　1230円

（問い合わせ先）

苅萱堂　0736（56）2202
女人堂　0736（56）3508

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑲

「平ヶ岳」

西尾　寿一

地名学者の多くは「平らな山は存在しない」と言うが、実物の山を知らない人はたとえ学者であっても想像力が及ばないものとみえて、観念的な解釈を固定化してしまう。いったんこうなると修正は容易でない。

例えば真っ平な砂漠のような所から一定の区切られた部分が均等に盛り上がったとしたら、もっと平易にいえば、収納式の堀炬燵を床に引き出した場合のような形状を思い描いてほしい。

外国ではテーブルランドといっているが、頂上部は平坦ながら40㍍ばかり床より高い状態を拡大したような山は全国に少なくない。この場合平と崖と両方が存在する。

地球の表面が隆起と沈下を繰り返す限り、先の堀炬燵のような隆起や、特定の方向に沿った非対称の隆起と浸食が至る所でみられる。

巨大な例ではヒマラヤ山脈がそうだし、近くでは鈴鹿・比良など数えれば切りがない。

ヒマラヤはインド大陸からの押し上げパワーによって巨大な隆起を引き起こしているが、その奥に広大なチベット高原という平原をもち、両者は同一の原資によって構成されている。

つまり、高い山は隆起活動によって平原を押し上げた結果なのであって、その山の形状は大部分非対称であり、外観は平らな部分と急崖の部分で構成されている。

そうした山は正しく「平らな山」なのであり、また崖のある山であるから、円山や飯盛山のようなどこから見ても円形に見える山とは異なる対応をしなくてはならない。

結論を先に言えば、平らな山には必ずどこかで急崖をつくらなければ成立しないのだから、その山の特定の部分のみを捉えて表現する山名には疑問符が付くのである。

全国に「平」の漢字を当てた山名は多い。ざっとみても本稿の平ヶ岳をはじめ、八幡平・平山・平庭岳・大平山などのほかに、比良・平石・平岩・平尾・平倉・平尻・平塚・平原・平根などかぎりない。これらの山名を特定の一方程式で解けるとみるか否かが大事な分岐点であるが、現実は前者である。「コンサイス日本山名辞典」(三省堂)は平を「アイヌ語で〝崖〟の意で、崖のくずれたような地形に名付けられる。新潟地方でも岩壁の名に用いられる。〝傾斜地〟の意に用いられることもある」とあり、ヒラは崖または傾斜地であると確定的である。多くの地名学者の間でも、この説は固定化された感がある。その原因はアイヌ語が崖を意味するヒラと一致するからで、この場合も、山の状態の一部分のみを借用して、山の平らな部分を切り捨ててしまっている。

さらに、この説の信頼度を高めるために使われるのが『古事記』および『日本書紀』の記述である。これが「黄泉比良坂」でイザナギノミコトが黄泉国から逃げるとき、この坂で桃の実を三個投げて黄泉軍を退けたという。このときの坂は水平な坂では変なので、「比良坂」は日本語のヒラ(平)にあらず傾斜地の坂であり、この場合の「ヒラ」は当て字であろう、とする解釈がなされたのである。

つまり「比良坂」のヒラはアイヌ語の採用であり、日本語の平のもつ語意を否定したのである。「記紀」の時代、アイヌ語が日本語として成立していたことになるが、次の疑問が生じる。

① アイヌ語のヒラがなぜ「記紀」に採用されたか

② 比良(アイヌ語)と坂(日本語)の同義語の二重使用はなぜか

③ 比良と平との明確な区別がされたか

④ 記紀の比良は別の意味の可能性

以上いずれも不思議なことばかりだ。特にヒラが傾斜地と平地と両方に分布し混在しているのに、これを全て前者であるかのような取り扱いがなされているのは不可解である。『分類山村語彙』(柳田国男・倉田一郎編)には、ヒラの項で「獣をとる装置」とあり、熊の通路などに檜をめぐらし、この装置の場所へ誘導して捕える。これを「熊ヒラ」という。この説は傾聴に値する。

黄泉比良坂はひょっとすると、先の装置が国の境界付近に一般的に使用されていた時代のあったことを伝えている可能性もある。その装置こそ異分子の侵入や逃亡を防ぐ的確な方法であったかも知れない。イザナギノミコトは逃亡の際、この付近で桃を投げて逃げ切ったとする解釈も、あながち荒唐無稽ではないと思われる。

ヒラを傾斜地であると解するのは全国的に広がっていて、元はアイヌ語かも知れないが、語意は立派な日本語となりつつある。しかし、日本語のヒラも別の意味で存在する。この事実が全国の山名に引き継がれているので、ヒラも実は二流派存在するわけで、各々の山名も現地を調査しないととんでもない誤解の元となる。

近江の比良山はアイヌ語説が定着した感があるが、北越の平ヶ岳や北海道のものほかに低山の大平山(全国に多数)などはこの説では解けない。

アイヌ語の本場である北海道の山名に大平山(島牧村)平山(白滝・上川境)など1000㍍を超す有力な山々がある。これを北海道はアイヌの国だから急崖のほうのヒラだろうと考える人が多いが、実際は違っている。大平山と平山は共に山頂部が広く、一見すると和名の意味の平と解釈してもよさそうだが、両者は全く異なる姿である。前者は東西に刃物で切りとったような急崖のピラ(アイヌ語)があり、後者は平頂である。

特に前者は本来のピラ地形を忠実に示していて納得できるが、山頂部は広い草原で、アイヌ語も和名も共存した感じである。

大平山の読み方についても一考察を要する。大平山を「日本コンサイス山名辞典」はオオビラ、国土地理院の「標準地名集」も同じ、「山名総覧」(白水社)はオオヒラ、「北海道の地名」(山田秀三)はオオビラ、とあるが現地では「オビラヤマ」であった。アイヌ語の崖の意はピラでピラと濁るのは和人の解釈でアイヌ語名を踏襲したかにみえて中途半端に終わっている。オビラの源意は、オビラウシベツで「川尻に崖をもつ川」の意である。山名はそれを借用したのである。石灰岩で構成する高山植物の宝庫のこの山を、道外の人は見逃しているが価値の高い山である。

それでは同じ北海道の平山のほうはど

うか。地元の一部で「平ヶ岳」と呼ぶ人もいるが資料類は平山で、同山の遠望には、比麻良山や比麻奈山などがあって、これを「ヒマラヤ」と称して喜ぶ向きもあるが、明らかに「平らな山頂」を意識した名である。ニセイカウシュッペの東に対照的な平頂で繋がるこの山の姿も特徴的でおもしろいが、まさしく平らな山でアイヌ語のピラでは解けない山だ。北海道にあって、なぜアイヌ語が使われなかったのか怪しむが、これにも理由がある。つまり山名が誕生した時代差である。大平山は曲がりなりにもアイヌ語を尊重したかにみえるのに対し、地名の空白部であった可能性もある。小生は、アイヌにとっては生活上必要度の薄かった奥山で、名を付すことなく空白だった所に、和人が山の形状を見て付した山名ではないか、と考えている。

ヌタックカムイウシュッペから強引に大雪山と和名化され、次々と有力な山名が変えられるなかでトムラウシが生き残り、ニペソツやウペペサンケ等と共に沢名が残ったのは当時の和人の関心を引かなかったか、安易な名称変更に一定の抵抗があり、制止めがかかったとみられる。

それでは平ヶ岳の場合、いかにして名付けられたのかを明かす。

アイヌ人が和人と異なる点は、地名を細かく識別する必要が無かったことである。

ポロシリ・カムイ・ピリカが至る所に存在し、それで事足りたのである。どこの何番地まで明らかにする必要などない社会に、和人は地名を強要し、空白部を埋める作業を続けた。新たな名称をまるで地図の空白部を埋める探検家のような気分で付していったのである。それが和人の感性による命名だったことは明白な事実であった。

北海道の地名・山名の整合性のない混乱はこうした結果によるものであろう。

平らな山は平の字が無くても存在することは苗場山と大台ヶ原の例をあげるだけで十分である。

秋田の大平山を現在ではタイヘイザンと呼ぶのが一般的だが、菅江真澄は『久保田の落穂』で大平村から出た名と記している。なお久保田は秋田の旧名で、「久保田」という名酒に引きつがれていることを酒好きの人なら知っている。

以上のように、平（タイラ・ヒラ）の名称を頂く山であっても実際には様々な形態があり、時代的な変化も追ってみなければ理解できないのである。

さて最後になったが表記の北越の平ヶ岳のことである。この山をアイヌ語で解くのは無理があることは誰がみても明らかである。第一に奥山であるからアイヌ時代には知られていなかったはずで、一部に崖や急傾斜はあるものの全体として平らな苗場山と同様、広大なテーブルランドに池塘が点在している。その平らな形状こそが、この山の特徴であって一部分の崖地を山名とするような奇妙な話はないのである。

以上のように、ヒラは二種類の解釈がわが国で一般化しており、どちらか一方ではないので、やはり各々の山を調べなくては地名解題は困難といわざるを得ない。

さて筆者は、「ヒラ」の問題を二種類に分類することで終わりにしようと考えたのだが、どう考えても現実の実態はそれを許さないのである。全国の山をめぐり歩いていて「ヒラ」の地名は至る所に存在し、しかも崩出の二例のみで片付くものは少数派にすぎないのであった。解に落ちないまま時を過ごしていると、思いがけない所から謎が解けそうになってきた。それは山畑を耕作している農夫の用いる語意であった。

それは、「ヒラ」は耕作地のある傾斜地にも使われ「〇〇のヒラ」などという。

四国の焼畑耕作地のような一定の傾斜地のことを「ヒラ」と表現することがあり、その意は「面」に相当する。面は平でも急崖でもない一定の面積を有する均一な土地であり、そのような土地は農耕に適していたのである。

崖と平の中間的な土地をも「ヒラ」と称するのであれば、最初から論じてきた論拠が崩れてしまうが、ヒラは元々そうした矛盾をもっていた。

四国の吉野川右岸に半田町がある。剣山へのアプローチ、貞光町の西隣の小さな山村の集合した町である。町の中央に半田川が北流し、樹枝状に支流を派生するが、すべての山の傾斜地に集落が点在している。この町の中心部に「平良石」がある。ここはどうみても崖や平地でなく、緩斜面が広がり、集落や様々な傾斜角度をもつ耕作地が点在しているのである。これをどう解釈するかである。今までの通説なら、何が何でも崖地を選用するか、平地を主張しなくてはならないが、ここではそれを許さないのである。

このような土地はほかにもあるが、やはり面として捉えるしか方法がないのである。

半田町にはほかにもおもしろい地名がある。京都があり、尾根の北面の集落には蕗・蕗名・蕗元などが連なっている。馬越・馬ヶ谷・鳴谷などがあり、村落間を結んで流通のあったことがしのばれる。

また三重県の地名で、「ヒラ」は側でカタヒラ・モロヒラなどと言うことが『近畿民俗』（倉田正邦氏）の調査で明らかにされているが、これも必ずしも急崖とは限らず面に近い側面と解釈されるべき存在である。

一定の面積をもつ均一な土地で、そのような場所は焼畑や休場・土場などに利用できる価値の高い場所であったと考えられる。

なお先の資料で、「ヒラチ」は山中の平地とあり、コバは山中の小さい平地・荷造り場・一服場、一名ドバともあり、複雑なのである。

一見容易にみえる「ヒラ」がこんなに難しい解釈があることには驚くが、これが地名の実態で、単純な地名こそ奥の深い意味が隠されていることに気づくべきだ。

地名は実におもしろい。定説となった解釈にも時として覆される場合もある。それは定説が先にあるのではなく、古い地名のほうが優先権をもっているからである。

ヒラが山岳地名としてアイヌ語説が有力であることは事実ではあるが、それが定説化することの問題点は案外大きいのである。やはり現地をよく調査することと、人に聴くことを根気よく続けること以外にないのである。

〈山のレポート〉
十二支の山

酉年の山

生駒 聳峰

今年のえとは酉である。酉は十二支の十番目で、昔の時刻でいえば現在の17時から19時までを指す。方位としては西を示す。

酉は鳥になるが、辞書では鶏としている。鳥の付く山はたくさんあり、また鳥類とすると、嵩や鶴と際限なく広がってゆくので、十二支の山としては、鶏の付く山に限定している。

酉の付く山は一山だけで、鶏（にわとり）と発音する山は三山。音読で（ケイ）と発音するものが大半である。

山名の言われはその山容が鶏の頭（トサカ）に似ているというのが多く、その他鳴声が聞こえるとか、山崩れのある意味ももつらしい。

酉・鶏の付く山を標高順に並べてみると次のようになる。

名称	標高（m）	20万図	2万5千図
(1)鶏冠山	2248	静岡	池口山
(2)鶏冠山	2115	甲府	金峰山
(3)鶏頂山	1765	日光	高原山
(4)酉谷山	1718	東京	武蔵日原
(5)鶏冠山	1716	甲府	柳沢峠
(6)鶏頭山	1445	盛岡	早池峰山
(7)鶏峰山	1328	日光	田島
(8)鶏頭山	970	日光	今市
(9)鶏峰	860	福島	岩代中野
(10)金鶏山	856	長野	松井田
(11)鶏岳	668	日光	玉生
(12)鶏足山	585	高梁	森茨
(13)鶏冠山	498	名古屋	三雲
(14)鶏足山	430	水戸	中飯
(15)鶏頭山	321	野辺地	恐山
(16)鶏槌山	218	姫路	龍野
(17)金鶏山	72	一関	若柳

鳥の付く山はたくさんあるので除外したが、有名な山が多い。数山を次に記してみると、

◎鳥海山	2237	秋田
◎鳥甲山	2038	長野
◎鳥兜山	1387	山形
◎鳥屋ノ森山	457	和歌山

などが見られる。

「日本山名辞典」を調べてみると、鳥井・鳥居・鳥打・鳥形・鳥越・鳥坂の文字を冠する山や峠が多く見られる。

山と鳥とは切り離せない存在だから、その名も多く使用されているようだ。

振り返ってみると、私は右記に挙げた山々はほとんど登っていない。もともと十二支の山に関心をもっていなかったこともあるが、関西からの日帰り圏にはあまり無いからでもある。

わずかに湖南の鶏冠山と、1等三角点の高原山に登った折に鶏頂山を通過したのみである。

鳥の山には鳥海山・鳥屋ノ森山くらいのようである。

いずれにしても、その年のえとの山に一つくらい登ってみてはいかがでしょうか。

新ハイキング選書

第4巻 一等三角点のすべて　多摩雪雄 編
改訂2刊／上製本／B6判352頁／定価1890円　高度順一等三角点100など、一等三角点の知識をこの一冊に収録。地形図による一等三角点の決定版。

第9巻 一等三角点の名山100　安藤正義/市川静子/多摩雪雄/冨田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中／B6判336頁／定価1631円　北海道から沖縄まで、マニヤのモサが選んだ全国100座の一等三角点峰紀行・案内文集。

第14巻 百歳までの山登り　冨田弘平 著
2刷発売中／上製本／B6判360頁／定価1835円　北から南から海外まで、百歳までの山登りをめざす中高年の星。話題豊富な著者の紀行と随想集。

第18巻 一等三角点の名山と秘境　安藤正義/多摩雪雄/冨田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判340頁／定価1837円　一等三角点の山100座の登山コースを紹介全国一等三角点配置図と全国一等三角点の県別の所在地を最新の資料で掲載。

第19巻 山との出会い　冨田弘平 編
B6判328頁／定価1680円　山とのであい、花鳥とのであい、人とのであい、さまざまな出会いを書き下ろした山の随筆55名の話題のであい。

第20巻 一等三角点の山々　山口ゆき子/横山隆/高橋生雄/川越はじめ/岡村英邦 共著
A5判313頁／定価1680円　第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介一等三角点の山シリーズ3部作目。この三冊で一等点の山はほぼ網羅されます。

第24巻 山岳巡礼　佐藤光雄 著
B6判352頁／定価1680円　山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集。ひとり拓く剱岳北方稜線は本格的に山へ取り組む人への道案内書である。

深田久弥の研究　深田クラブ 編
A5判389頁／定価1680円　深田クラブの飯島 斎・高沢光雄・高辻謙輔の三氏が山行に著作に交友に久弥のすべてを丹念に研究した成果を記録。

田舎ごっこ　中山権四郎 著
B6判234頁／定価1680円　信州の山の家を中心とした折々の出来事を、豊かな感覚でつづった「田舎ごっこ」。蝶との触れ合いをほのかにまとめた「蝶々雑記」が好読物。蝶のカラー写真も出色である。

花と山　100人の100山　エーデルワイスクラブ 編
A5判217頁／定価1680円　坂倉登喜子女史が名誉会長をされているエーデルワイスクラブの会員が、心に残った山を選んでその想いをつづった100山集。

発行所 新ハイキング社　〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話／Fax03-3915-8110
●価格は消費税込み●振替でのご注文は送料当社負担　振替00130-9-146915

特選コースガイド 1

湖東

（里山シリーズ25　米原）

低山から琵琶湖展望
鎌刃城跡とその周辺

一般コース（★　）

長宗　清司

JR米原駅東口から歩いて10分、青岸寺の前庭にはめずらしいニワヒバが植えてあり、形のよいサルスベリが枝を広げている。

昭和9年、旧文部省が名勝に指定した枯山水の庭園は、岩石を豊富に用いているので、見ごたえがある。普通水の流れは白砂や礫を敷きつめて表現されるが、ここでは緑鮮やかなスギゴケで埋め尽くされていて、岩石が多い割には、柔和な雰囲気を漂わせている。雨上がりのときや梅雨の季節は特に美しい。山際を利用した正方形に近い地割に空池を掘り、中央に亀島を浮かべ、正面右奥の築山の上部には三尊石を配し、下方に洞滝がのぞく。品のよい反り橋を築山の入口に架けて隔路を回遊させる。左右に広がる護岸には二重三重の集団石組を配し、庭全体が石だらけ。移動せずに一ヶ所に坐っていても見ごたえのあるユニークな庭園である。本尊の聖観世音菩薩のふっくらしたお顔や、小ぶりの十一面観世音菩薩にも拝することができる。

「花の小径」と名付けられた路地を通って、中山道と北国街道の石標が立つ分岐点に出て、山際を中山道「番場の宿」へと向かう。蟻曲「鳴の母」の主人公番場の忠太郎で有名になった「蓮華寺」は、後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒の兵を挙げたとき京都守護の幕府方北条仲時が敗退、この地で京極道誉に行く手を阻まれ、この寺の境内で手勢432人と共に自刃した。寺僧は墓をつくり、手厚く葬った。寺伝によれば、聖徳太子の建立とされ、元は法隆寺と称したが、鎌倉時代に一向上人が土地の豪族土肥元頼の帰依により再興し、蓮華寺と改称した。

番場の集落の中はどから道標に導かれて東南方向へ、名神高速道路の下をくぐり「鎌刃城跡」に登る。はじめは竹やぶのなかの道で、途中もう一つの登山道も加わって尾根に向かう。

鎌刃城跡山頂への道をたどる

鎌刃城跡は、標高384㍍の山頂に位置する典型的な山城である。湖南と湖北の国境にあるため、530年程前の応仁の乱頃にはすでに築城されていたようだが、年代は不明である。

文明四年（1472）、応仁の乱のとき東軍に攻められて城主城次郎左衛門が討たれた。以後100年の間何度か城主が

替わり、天正二年（1574）、織田信長の直轄の城になったらしく、城内備蓄の米穀が徳川家康に与えられ、その後間もなく廃城となった。

尾根に入っていくらも歩かないうち、城跡最大の堀切に出た。ここからは雛段状に上部へ登るにつれて城の風情が残っていて、櫓跡・桝形虎口（大手門跡）と続く。北側斜面には高さ4㍍、長さ30㍍におよぶこの地方最大の大石垣が残っている。

この広場の南の外れからは琵琶湖の大パノラマが展望できる。快晴の日には対岸の比良連峰から、その背後の山並まで確認できるすばらしい景観である。

しばらくで主郭に着く。意外と近くに長浜市街地が望めた。副郭からは尾根をはずれて左の谷側を巻く。主・副郭の延長尾根の先端は切り通しになっていて、今度は反対側の谷を見ながら栗柄川上流に向かう。

セメント舗装の車道に出て滝の上部に出る。断崖下の谷を目をこらしてみると、草むらのなかに古くから使われた小径が見つかる。

一筋、高さ7㍍ほどの「青龍滝」が落ちていた。

帰路は滝谷林道をくだる。急で長い林道である。再び、中山道に降り立ち「磨針峠」に向かう。名神高速道路沿いの道を南下、石の道標に従って西へ少し登り峠で一服しよう。

中山道でいちばん琵琶湖の眺望が美しい展望台。旧道に建つ田中某宅は、昔、明治天皇もご休息された「望湖亭」という峠茶屋だった。国道8号線に出て、JRの米原駅か彦根駅のどちらかに向かって歩くか。それともすぐ近くを走る近江鉄道の鳥居本駅からいずれかの駅に出るとよい。

（平成16年6月13日歩く）

Aコースタイム

JR米原駅（10分）青岸寺（10分）中山道・北国街道分岐（10分）東番場（20分）鎌刃城跡への分岐道（20分）大堀切（30分）桝形虎口（10分）主郭（10分）切り通し（15分）林道（15分）青龍滝（25分）中山道（20分）磨針峠（10分）国道8号線（15分）近江鉄道鳥居本駅（電車5分）米原駅または彦根駅

△地形図▽2万5千＝彦根東部

（問い合わせ先）

米原町教育委員会社会教育課　☎0749（52）1551

蓮華寺　☎0749（54）0980

青岸山　☎0749（52）0463

米原町観光協会　☎0749（52）1551

特選コースガイド12　京都北山

2等三角点のある山
魚谷山から貴船山

初級コース（★　）

山形　歳之

魚谷山（3等　点名柳谷）
貴船山（2等　点名二ノ瀬）

京都北山はあまり高い山もなく、丹波にかけての広い範囲におだやかな山が点在する。ハイキング道も多くあり、年中大勢のハイカーが訪れる。山慣れた人には少し物足りないし、今さらコースガイドでもないが、簡単なハイキング道も、積雪時には変化ある登山が楽しめる。雪山としては積雪も少なく、京都北山は簡単に雪山を経験するのにちょうどよいエリアである。

2月中旬、グループの人達と魚谷山から貴船に抜けるコースをたどってみることにした。無雪期には子供連れでもたどれるハイキング道だが、冬は雪に埋もれているはずである。

大阪から京阪電車で終点の出町柳駅で下車する。ここで岩屋橋行きの京都バスに乗り換えるのだが、休日はいつも超満員で、通勤電車並みに詰め込まれる。小1時間の立ち放しは登山より疲れた。出合橋で下車すると、チラチラと粉雪が舞っている。見上げる周囲の山々にも雪が望まれ、雪山に来た気分が盛り上がる。魚谷峠に向かう林道には積雪がなく、直谷への分岐を見送って左に登ると、やがて雪が現れ、魚谷峠はすっかり雪に埋まっていた。

林道は峠で二分し、狼峠と魚谷方向に向かう。スパッツを付け、魚谷山へは右手の尾根道を登る。雪は15～20㎝くらい。登山道には足跡もなく、今日は我々が一番乗りである。トップを受け踏り、昨夜降ったらしい新雪を踏み分けて行く。いつもながら気分爽快このうえない。

魚谷山（816・2㍍）山頂は雪も少なく、3等三角点標石は露出していたが、空は雪雲に覆われて眺望は得られなかった。柳谷峠の下り道は雪に覆われ不明瞭で、木々に付けられたテープも雪をかぶり、道をはずれると雪溜まりに足をとられた。最後は峠らしい所を目がけて一直線にくだった。雪まみれの楽しいひとときである。柳谷峠には雪に埋もれた小さな神様がまつられてあった。

直谷の今西錦司博士の胸像

ここからは沢沿いをくだる。雪も少なくなり沢水も流れ道も明瞭だが、周囲は一面真っ白で、雪山の気分が十分に味わえた。

この谷のどこかに今西錦司博士の胸像があるはずだと、周りを見渡しながらくだるも見つからず、直谷の分岐点近くまでくだってしまった。折から1人の登山者が登って来た。単独行の人ならこの周辺にくわしいだろうと尋ねると、5分ばかり上ですよとの話。その人について引き返すと、沢の対岸のあまり大きくもない岩の重なりのなかに、博士のモニュメントが見つかった。恐っすっと雪をかぶっていて、これではここが初めての者では見過ごしてしまう。胸像の雪を払うと博士の意地悪そうな顔が出てきた。私は残念ながら一度も博士に会ったことはないが、何か頑固な人らしい表情が顔に現れている。生前のいろいろなエピソードが思い出された。

ここから少しくだった所の木陰で昼食をとる。思ったほど寒くはなかった。直谷の林道起点から左の斜面を滝谷峠に登る。雪をかぶり登山道が隠れているので、分岐を見逃して下の林道に引き込まれてしまいそうだった。

滝谷峠には立派な道標があり、二の瀬ユリ道と貴船を示していた。柳谷峠や魚谷峠には、誤人が付けたような簡単な表示しかないが、ここは公式の物が立っている。

稜線伝いに二の瀬ユリ道に入ると、雪もまばらになり、遭難した時に現在位置を知らせるのに役立つという、番号の記載された標柱が次々と立っている。こんなハイキング道で必要なのかと少し不思議だ。

貴船山（699・8㍍）の最高点には三角点は無く、小さなケルンが積まれているだけ。2等三角点はその先の縦走路から西にはずれた所にあり、分岐点の樹木の赤テープには、貴船山と矢印が記入されている。少しくだって林のなかの踏み跡を登ると、開けた所に新石の標石が入っていた。

二の瀬ユリ道はやがて軽トラックも通れるくらいの広さになり、砕石が散らばっていて歩きづらい。東側が開けて薬師山が望まれる。この二の瀬ユリ道は二の瀬駅に通じ、歩きやすいのだが長いのでうんざりする。42の所在確認の柱の所にくだる道が分岐し、下から車や電車の音が聞こえる。以前はなかった道だが貴船口駅に近いはずなので、その急斜面をくだって行くと、簡単に駅の前に出た。車道口には案内板もあり、立派なハイキング道になっていた。私の地図には記載されていない道である。

帰路は電車で出町柳駅に戻る。手近な山で簡単に雪山が味わえた一日であった。

（平成16年2月15日歩く）

▲コースタイム▼

京阪・叡電出町柳駅（バス55分）出合橋（1時間40分）魚谷峠（15分）魚谷山（1時間30分）滝谷峠（1時間）貴船山三角点（1時間）叡電貴船口駅（電車30分）出町柳駅

△地図▽

昭文社＝「京都北山」
2万5千＝大原

（問い合わせ先）

京都バス　☎075（871）7521

特選コースガイド 3

比叡

坂本から 悲田谷を経て大比叡

一般コース（★　）

松尾　一郎

比叡山への登山路は、近江坂本からの本坂ルートと京都市左京区修学院からの雲母坂ルートが東西のメインコースであるが、今回は坂本から回峰行者の通る道である悲田谷道を経て、比叡の中心東塔から最高峰大比叡に登り、雲母坂・梅谷道を経由し、洛北の名刹赤山禅院に下山する。

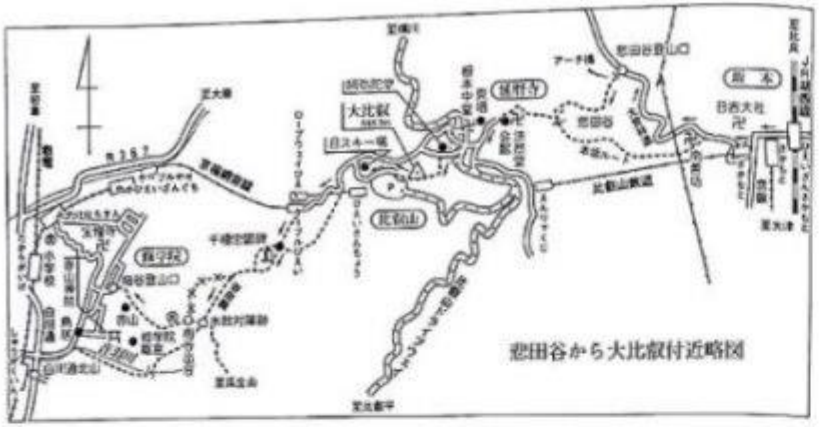
JR湖西線比叡山坂本駅から、西へ国道161号線バイパス（上は湖西道路の高架）の信号を渡り、比叡の山並を望みながら日吉大社への舗装道路を西進する。京阪電車坂本駅を左にやり過ごし、大きな鳥居が現れると道幅が広くなり、すぐ日吉大社前に着く。

ここから道路は左にゆるくカーブを描きながら直角方向に左折（南行）するが、本坂ルートの登り口はその曲がり角にある。左右に立派な常夜灯の立つ、比叡山高校沿いの広い石段道が本坂登山路である。石段道を左の高校のフェンス沿いに登って行き、階段の終わった所でケーブル坂本駅からの大宮林道と交差する。本坂コースは大宮林道を横切って西に登って行くが、悲田谷へは大宮林道（地道）をとり、道幅一杯に塞ぐ鉄製ゲート（車止）右脇から林道に入る。大宮川沿いの水平に近い林道を行くと、すぐ左手上部に南善坊が仰がれ、しばらくして高圧線の鉄塔を右に見過ごし、ほどなく悲田谷道の登山口が現れる。登り口には古い用水路のアーチ橋が架かっており、これを目印にするとよい。

このコースには元々道標はなかった。数年前に設置されたのはよいが「悲田谷」とあるべきところを「肥前谷」（注1）と表示しており、延暦寺に確認したら「悲田」が正しいとのことで、回峰行者も気づかなかったらしい。「ひでん（悲田）」と「ひぜん（肥前）」は母音が同じなので、聞き違えたのではなかろうか。

日吉大社前の本坂の登り口

アーチを潜り、沢沿いに木の桟道を登ると流れはすぐに消え、山道になる。杉や檜の巨木とした薄暗い植林の谷道を行く。行者道らしく小さな地蔵や卒塔婆が道沿いに断続的に幾つも並んでいる。木の根っ子に足をとられながらゆっくりと登ると、前方が明るく開けたジグザグ道となり、右からのゆるい登り道（注2）に出る。左へ少し登ると、藪で分かれた



本坂道に合流する。ここにも道標が設置されている。

今までより広い本坂道を登って行くと、叡山ゆかりの遺跡が現れ、東屋の建つ亀塔で右折（北）し、登り坂もきつくなって舗装路に変わった道を左に弧を描くように行くと、左に法然堂を見送る。急坂の舗装路は登りづらいものだが、建て替え工事中の延暦寺会館（注3）が現れ、ほどなく坂もゆるみ、東塔の〝一隅を照らす会館〟前の広場に出る。

会館は清潔な無料休憩所で、地下には蕎麦処もあり、トイレは会館外の南側にある。

大比叡へは会館前の左（西）へゆるい登りの舗装路を進み、幅の広い階段（52段）を登り切ると、朱塗りの阿弥陀堂前に出る。阿弥陀堂左側の朱塗りの回廊を潜り、左側に見える階段を登ると数基の鎮魂碑前に出る。そこを通り抜け石の階段を登って、「山頂」道標に導かれ、ジグザグの地道を登り切ると坂はゆるくなり、左からケーブル延暦寺駅から登ってきた道と合流し、NTT電波中継塔前に出る。ここで道は左右に分かれるが、右の山頂を捲く舗装路は工事用車の専用道路で、左へ登る地道が山頂へのルートだ。二つのテレビ中継塔をやり過ごし登り坂がゆるくなると、前方に巨大な四角い用水槽が立ちはだかる。その左右どちらに進んでも水槽の裏が、大比叡（848・3m）山頂（注4）である。1等三角点はコースの右側の小高い茂みの中にあり、展望はきかない。

大比叡山頂からススキ原のなかをくだって行くと先ほどの東道に合流し、比叡山頂バス停のある広い駐車場に至る。ここからの見晴らしはすばらしく、京都市北部の町並はもとより、比良山や琵琶湖の展望に優れ、晴れていれば伊吹山、果ては御嶽・白山も望見できる。

駐車場からの下山は、旧スキー場跡沿いの舗装された坂道をくだり、修学院への雲母坂道に合流して左へ進む。幅の広い地道をゆるやかにくだって行くと、ロープウェイの下を潜って京福ケーブル比叡駅前広場に着く。ここからは洛北の展望がよい。ベンチ・トイレもあり、春は桜、秋は紅葉と楽しめ、夏は木陰となり風も通り結構涼しい。休憩するにはよい所だ。

修学院方面（雲母坂）へは、ベンチ前

大比叡山頂

大比叡の1等三角点

の階段道を降りると、すぐ地道となる。ケーブルとも離れしばらく雑木の道を行く。やがて植林のなかの薄暗い四差路に出る。左は比叡山頂への別ルート、右は作業道、雲母坂は道標に従いまっすぐくだる。なお、右斜め前方の荒れ小屋の向こうに、南朝の廷臣「千種忠顕卿の碑」(注5)(建立は大正十年五月)が建っているので、ついでに立ち寄ってもよかろう。降り道は碑の下で階段となり雲母坂と合流する。

雑木や植林の混在する道をだらだらくだって行くと、小広い水飲場対陣跡(水場はない)の四差路に出る。先ほどの千種忠顕が北朝方足利軍との戦いで陣を敷いた所で、「水飲場対陣跡碑」(建立は大正十年夏)が建っている。

水飲場対陣跡の四差路は、まっすぐ尾根を行くと雲母坂本道で修学院への下山路。左に行く道は音羽川源流を渡り、北白川・瓜生山方面への東山トレイルルート。右「赤山禅院」への道標に従いくだって行くのが、今回の梅谷への下山路である。しばらくはゆるい下りの捲き道だが、梅谷出合で木の橋を渡ると、ルートは梅谷右岸の道となる。沢沿いなので夏でも涼しい。つい最近まで、このコースは台風などで若干荒れていたが、木橋も新しく架け替えられ、抉られていた道も補修された。

梅谷右岸をどんどんくだって行くと、右の小沢から流れ落ちる水場に出合う。ひと息入れたい所だ。道は水場の下流付近から広くなり、梅谷を橋で三回渡り返して道は左岸に移り、左から修学院特有の赤山の山腹が近づき、人家が見え出すと舗装路になり、「梅谷登り口」の看板

がある梅谷登山口に降り立つ。以前はこの看板がなかったので、入山のとき登り口がわかりづらかった。

さて、ここからは円仁ゆかりの赤山禅院(注6)に立ち寄るもよし、直接叡電三宅八幡駅に下山するもよし。

まず赤山禅院へは登り口からすぐの四辻を左に入り、そのまま南下。右から車道が合流し、そのまま進むと大きな鳥居の建つ五差路に出る。左の鳥居の参道奥が赤山禅院である。叡電修学院駅への順路は、鳥居の建つ五差路まで戻り、斜め左(南西)方向の車道を行くと修学院離宮道に出る。そこを右に入り音羽川沿いの道をくだり、車の行き交う白川通を左(南)に進み、白川通北山の交差点を右折(西)すれば修学院駅は近い。

赤山禅院内の一宇

一方、三宅八幡駅へは梅谷登山口からまっすぐ山際の三差路まで進み、右折し山沿いに進み宝幢寺の前を通り過ぎ、右折し振興住宅の中の急坂をクランク状にくだる。なおも舗装路を西進し、上高野小学校に突き当たる三差路で右に折れ、次の三差路を左に曲がり叡山電車の踏切手前で、右の線路沿いの小道に入りまっすぐ進むと、三宅八幡駅のホームに行き着く(梅谷登り口から15分)。

(平成16年10月11日歩く)

▲コースタイム▼

JR比叡山坂本駅(10分)京阪坂本駅(8分)日吉大社・本坂登山口(4分)大宮林道交差点(25分)悲田谷登山口(30分)本坂合流(20分)東塔(5分)阿弥陀堂(30分)大比叡(5分)駐車場(10分)旧スキー場下(10分)京福ケーブル比叡駅(8分)四差路・千種記念碑(30分)水飲場対陣跡(5分)梅谷出合(10分)水場(15分)梅谷登り口(10分)赤山禅院(20分)叡電修学院駅

▲地形図▼ 2万5千＝京都東北部

(注1)延暦寺宗務所・坂本森林組合に問い合わせたが悲田谷が正しく、道標設置者は不詳とのこと。滋賀県・大津市の林務主管課でも関知していないとのこと。

(注2)下山のときにここで谷道に降りるが、まっすぐに行きやすく、僧侶の墓石群で行き止まりである。間違いやすく要注意。今は下山用の道標が足元にある。

(注3)旧館は二階建だったが、手狭になったので建て替え中。新住職寺会館は五所建の宿泊所で、平成17年秋に完成予定である。

(注4)2万5千地形図「京都東北部」では、大比叡の北山腹を横切る車道は掲載してあるが、三角点南側を通過する小径(登山道)は図示されていない。

(注5)千種忠顕は南朝後醍醐天皇の重臣。延元元年(北朝建武三年/1336)6月、足利軍に京を追われた南朝軍は比叡山に立て籠もる。南朝軍率いる公家武将千種忠顕は雲母坂で北朝方足利尊氏軍との激烈な戦いで戦死した。忠顕が陣を敷いた所が水飲場対陣跡である。

(注6)赤山禅院は比叡山延暦寺の別院で境内は広く、第三世天台座主慈覚大師円仁の遺詔により創建され、七福神の中の福禄寿神を祭っている。また、ここは別名紅葉寺と称されるくらい紅葉の名所であるが、いまどき珍しく拝観料はとらない。

特選コースガイド④

奥美濃

登りやすくなったやぶ山
左門岳

上級者向き（★★★）

金谷　昭

かつて奥美濃には登山道のないやぶ山が多く、たいていは頂上近くに突き上げる谷をつめ、最後はやぶを漕いで登頂するのが常であった。左門岳も同様で河内谷林道からの斧内谷が使われていた。しかし、南麓の上大須ダム完成によるアプローチ道路の整備と植林作業道の開設により、根尾東谷から登りやすくなった。

左門岳の山名は下流の松田の集落から見て根尾東谷の左手に当たり、形が門に似ていることからきていると言われている。

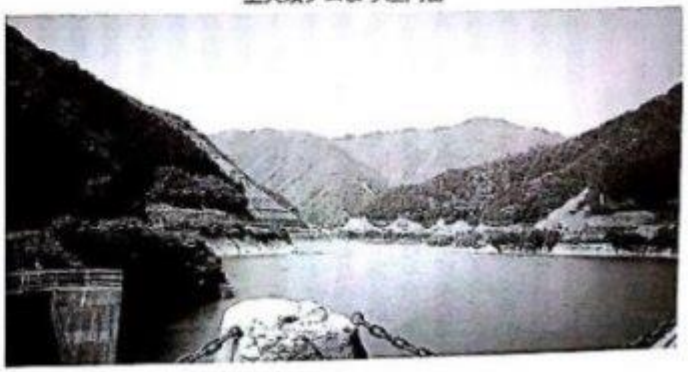
公共交通機関は無く車に頼らざるをえない。根尾村樽見から国道418号線に入り、東板屋で板屋トンネルを抜けると上大須ダムに至る。ダムの完成により快適なドライブが楽しめる。ダム周回道路の最奥の西河内谷に架かる茶褐色のアーチ形の鉄橋の右岸を奥に入ると、すぐに舗装道は林道に変わり広場が出てくる。さらに奥へと林道はのびているが少し荒れているのでここに車を置く（10台駐車可）。

広場のすぐ奥の左山腹にモノレールがのびているのをやり過ごし、鉄板の橋を左岸に渡りしばらく行くと、再び右岸へ鉄板の橋を渡り返す。少し行くと林道終点の広場となる。ここまで一般車でも走行可能であるが、現在進行中の林業関係の車がよく置かれているので登山者の乗り入れは遠慮すべきである。

歩道はすぐの丸太橋を渡った左岸に設けられたモノレールに沿って上流へとのびているが、谷は少し荒れ気味で歩きにくい。モノレールの両側の踏み跡をたどって行くとやがて谷は二股となる。

モノレールは直行する支流の右俣を渡って中間の急勾配の支尾根に設けられている。ここで谷をよく見ると左俣のほうが水量がある。左俣が本流であることが地図上からでもわかる。ここが登山ルートの注意を要する第一の地点で、出合には赤テープが付けられていて、ここではモノレールと別れ、左俣を遡行するのが正解である。そのままモノレールに沿って

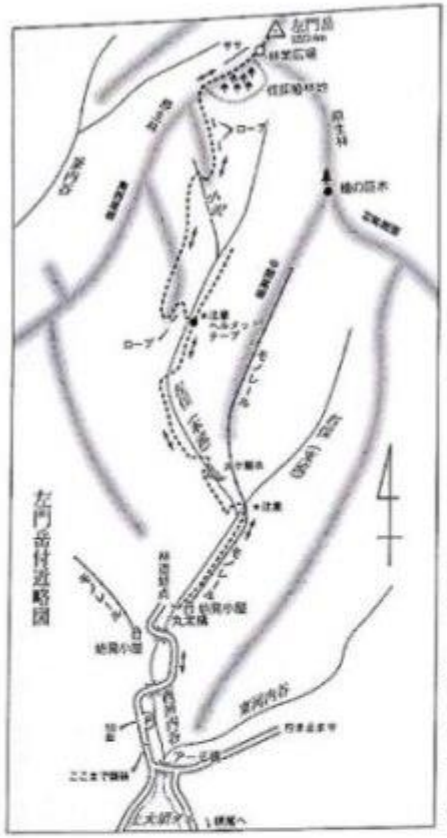
上大須ダムより左門岳



登る者が多いが、モノレールは中間支尾根のかなり上部まで設けられ、さらに上部の村界尾根（南尾根）、西側植林と東側原生林の境界をたどれば登頂はできるものの、藪いやぶ漕ぎを強いられる。

二股で右岸に渡り、本流（左俣）のほぼ右岸に付けられた踏み跡をたどって行く。急峻な谷だけに荒れており、踏み跡が消えていたり一部崖崩れで危険な所をトラバースすることもあるが、ともかく上流へと登って行く。そのうちに左岸の踏み跡を行くようになり、対岸への徒渉地点に達する。ここには木にぶら下げられたヘルメットと赤テープがあるので見逃さないことだ。ヘルメットには「左門岳・小道あり」と書かれている。いつまであるかわからないが、ここが第二の注意地点である。

なおも奥にのびている本流左岸の踏み跡を右に見て対岸に渡り、山腹の自然林の登山道に取り付くと、俄然道は良くなる。要所要所に黒いプラスチック製の滑り止めやロープが設けられ、植林作業道であることがわかる。最初は左に下り気



山の本紹介

文・写真　草川啓三
発行　青山舎

近江花の山案内
『山で花と出会う』

A5判（カラー）　104頁
定価本体　1600円

近江の山で可憐に咲く花たちの魅力を美しいカラー写真で紹介する。また、季節ごとによく歩かれている近江の山で花に会い、その花を山域ごとに案内する。単なる図鑑ではなく文章も読め、味わいのある本です。

花が大好きで、その美しさを求めて山を歩かれている人にはぜひおすすめの一冊です。

書店で見当たらない場合は、著者宛に現金同封のうえ申し込んでください。（本代＋税＋送料200円）の合計1880円で直接送本します。

〒525－0066
草津市矢橋町1475　草川啓三まで

伐採地より上大須ダムと大白木山・高屋山

味に行くが、尾根末端で折り返して右山腹を登って行く。途中一ヶ所小沢を横切り、頂上からの西南尾根の根尾東谷側の山腹をたどるトラバース道は、やがて同尾根の約1000㍍付近に飛び出す。稜線北側は深い原生林となっており、期待した屏風山の雄姿は落葉期でなければ望めない。

主稜線の明確な登山道をたどって行くと右側の根尾東谷側に広大な伐採地が出現する。すでに杉（樹齢7～8年）が植林されており、登山道はこの作業のためであることがわかる。かつての原生林が失われたのは残念であるが、植林の背の低いうちのここ数年は展望が楽しめるだろう。手前の上大須ダムを前にして能郷白山・大白木山をはじめ、西・南方の奥美濃の山々が全開で、遠く伊吹山の円頂、*香*麦*粒山の鋭峰まで望める。

かなり広い伐採地を過ぎるとササが被ってくるが、しっかりとした踏み跡をたどると広場に出る。植林作業のためらしいブルーシートなどが置かれている。広場を過ぎて30㍍も行くと、3等三角点を中心にした小広場の左門岳（1223・6㍍）の山頂である。

一枚の山名板が、背後の木の高い所に取り付けられ、積雪の深さを物語っている。

屏風山の山頂のみが望めるだけで周囲は樹林に囲まれ、特に北・西側は深い原生林となっている。ただ、頂上から少し北斜面をくだると、原生林の間から白山と平家岳が垣間見える。

下山は往路を忠実にたどればよいが、特に荒れた転石の多い谷歩きは、足を痛めないよう慎重にゆっくり降りよう。

なお、この山域には「熊出没注意」の看板が所どころに置かれている。カモシカをはじめとする野生動物が多く、自然が今なお色濃く残っているのがうなずける。

(注) 斧内谷は二段の立派な魚止の滝を除けば比較的悪場は少ない。2万5千の地形図にある堰堤記号の位置にこの滝があり、堰堤らしきものは無い。国土地理院の誤りである。（平成16年6月5日歩く）

△コースタイム▽

林道始点（20分）モノレール（20分）二股（45分）山腹取付・ヘルメット（40分）西南尾根（45分）左門岳（1時間）山腹取付・ヘルメット（40分）二股（50分）林道始点

△地形図▽2万5千＝平家岳・上大須

＊道標なし、テープは少ないがある

（問い合わせ先）

根尾村役場　☎058（38）2511

（宿泊）

下大須にNEOキャンピングパーク　☎058（38）9022

特選コースガイド⑤　鈴鹿

—続・近江側から登る鈴鹿の山々㉑

臼杵ヶ岳から鬼ヶ牙

中級コース（★★）

礒部　純

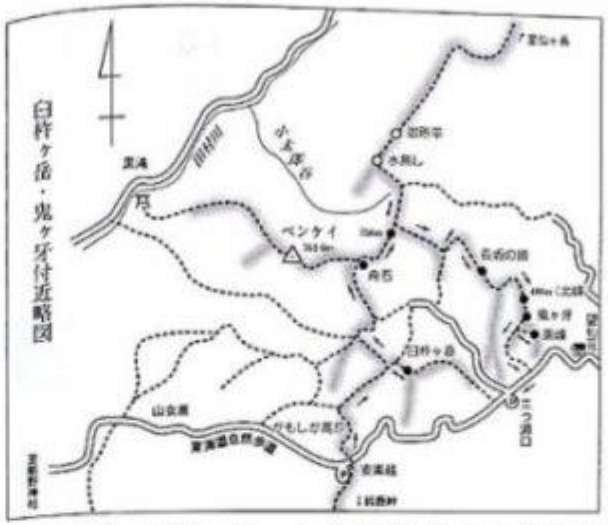
これまでの岩野さんの例会「鈴鹿を歩く」で、臼杵ヶ岳を通ったことは何回かあったが、鬼ヶ牙まで足をのばすのは初めてだった。臼杵ヶ岳・鬼ヶ牙両ピークへ登るには、舟石林道から登るルートが知られているが、今回の例会では安楽越から臼杵ヶ岳へ登り、舟石から長坂尾根をくだり、鬼ヶ牙四峰を踏んで三つ瀬口へくだった。三つ瀬口から安楽越まで距離があるので、三つ瀬口に置き車したほうがよい。

出発点は安楽越。峠は道幅が広く、5～6台の駐車スペースはある。ここに車を停め、峠から北へ急勾配の道を登る。この峠からかもしか高原までは東海自然歩道になっているので、階段までつくられてよく整備されている。小さな二つのピークを越えて行くと、平坦な広い尾根へ出た。ここがかもしか高原で、カモシカが棲息していたことからそう呼ばれるようになったという。ここで西の山女原へくだって行く東海自然歩道と分かれて、県境尾根を登る。尾根を登り切った所で尾根を直進してしまいそうになるが、右手に気をつけて歩くと踏み跡があるので、檜林のなかを右の尾根へ乗り換えなくてはならない。その尾根は左檜右雑木で展望は全くない。細尾根をひたすら登り、尾根が左に曲がる地点に来ると、前方は崖、目の前には大展望が広がっている。目の下には第二名神の道路が走り、亀山平野のかなたに海が光っていた。そこからひと登りすると、臼杵ヶ岳だった。この名称は東の尾根に臼と杵の形をした岩があることから、名付けられたといわれている。

山頂から90度方向を変えて北西へくだると、木々の間から右手すぐ近くに仙ヶ岳の双耳峰が、その右手には野登山が横たわっていた。二つの山を木の間に見ながら登って行くと、やがてベンケイへ向かう縦走路へ出る。そのすぐ右手にあるピークが舟石。以前はやぶに覆われてわかりにくかったが、やぶが刈られ、しっかりと舟の形をした岩が姿を見せていた。この岩は弥座信仰と結びついているともいわれている。岩の上に立って見る景観はすばらしく、仙ヶ岳の南の尾根が見渡せ、東南に広がる平野を眼下に一望できた。

臼杵ヶ岳山頂

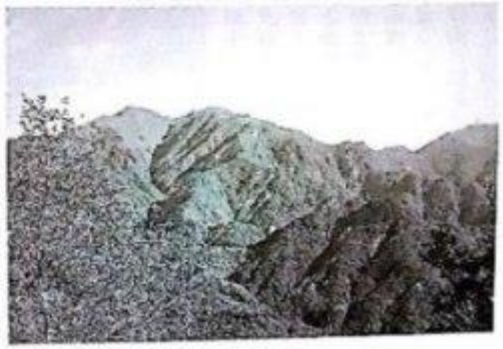
この後すぐに長坂尾根をくだってもよいが、時間が許せば小太郎谷の源頭まで足をのばそう。小太郎谷の源頭は、藤まであるササ原が広がり、鹿の楽園そのもの。獣道は以前に比べて少なくなっているようにも思えるが、心休まる場所だ。ここで昼食をとるのは最高だろう。



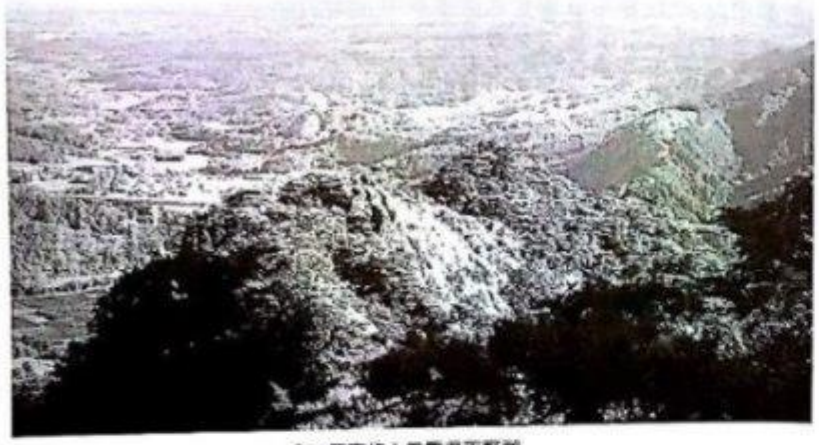
臼杵ヶ岳・鬼ヶ牙付近略図

標高点756㍍まで戻り、岩を捲くようにして東の尾根に乗る。雑木の急な斜面の踏み跡をくだり、小さなピークを越えた先の踏み跡分岐を左へとくだる。時折、途切れる林の間から、間近に見える仙ヶ岳の頂が次第に高くなってくる。急斜面を何度かくだって、目の前にそびえるピークに登り振り返ると、今くだってきた尾根や御所平の尾根がすぐ近くに見えている。登る前方は大岩が立ち塞がり、その岩を左手から捲いて右へ登り切ると、そこが長坂の頭。今くだってきた尾根を長坂と呼んでいることから、この一番高いピークを長坂の頭と呼ぶようになったと聞く。

長坂の頭から尾根を東へくだり、次のピークから方向を東南へとる。尾根の先には急斜面が待っていてくだるのに苦労する。ここには捲き道があるので無理して直進することはない。右手の谷状の急斜面の捲き道へと逃げる。のった尾根の先で、ゆるく登ったピークから右手へくだると、尾根の左手奥に鬼ヶ牙が見えていた。ピークの側面には大きな岩が立っていて、あたかも人の顔に見えなくもない。人面岩と呼ばれている岩だとか。


臼杵ヶ岳尾根より仙ヶ岳を望む

もう一つの小ピークを越えた先が鬼ヶ牙北峰、標高点488㍍のピークである。山頂にはお椀を伏せたような岩があり、その上に小さなチョボ岩が付いている。新ハイのメンバーの誰かが顔いを込めて「オッパイ岩」と名付けた岩だと聞いている。


鬼ヶ牙東峰と三重県平野部

北峰から東南へいったんくだり、登り切ったピークが鬼ヶ牙だ。山頂には木が茂っていて、展望も特に良いというほどでもなく、なぜに鬼ヶ牙と呼ばれているのかわからないような山頂だった。それが、すぐ南の鬼ヶ牙南峰へ移動して向かいの鬼ヶ牙を見ると、東面は切り立つような一枚岩。ここで初めて鬼ヶ牙と呼ばれる理由が理解できた。知っていたら、あんなにも山頂の崖間際には立っていられなかったに違いない。この時になって寒けがした。鬼ヶ牙南峰からすぐ東に、岩が山頂になっている東峰が手の届きそうな所に見えている。

南峰から西南の尾根をくだる。松の混じった林のある岩尾根である。急な斜面をくだり、いくぶん傾斜がゆるくなり、前方に檜の木立が見える所から、東の林のなかにある踏み跡をたどる。あるルート案内書には「東峰へは西方からは行けそうにもない」と書いているが、この踏み跡をたどり、尾根を離れて斜面を5分も歩けば、簡単に南峰と東峰の鞍部へのることができる。鞍部からはほんの少し斜面を登れば、鬼ヶ牙東峰の岩の上だった。

鞍部から南峰西南尾根へ戻り、その尾根をくだる。檜の林に入ると、下はコシダが一面に敷きつめられた斜面。その尾根をくだって行くと、やがて谷に降りる。すぐに谷を渡り、左の尾根を捲くように進むと、その先は尾根をくだるジグザグ道。固定ロープで小さな崖をくだり、Uターンして谷上の道を谷に沿って行くと、やがて、石水渓・三つ瀬口の登山口に降り立った。

（平成15年11月23日歩く）

〈コースタイム〉

安楽越（1時間）臼杵ヶ岳（1時間）舟石（25分）小太郎谷源頭（10分）標高点756㍍（1時間）長坂の頭（40分）鬼ヶ牙北峰（20分）鬼ヶ牙（20分）東峰（1時間）三つ瀬登山口

〈地形図〉

2万5千＝鈴鹿峠・土山・伊船・亀山

せせらぎ

題字・小林波瑛三

8月26日、木曽駒ヶ岳千畳敷を散策した。花の最盛期と紅葉との追間で、バスもロープウェイも待たずに乗れた。

今年は当たり年だったという小梅悪草は既に実っていたが、山母子・梅鉢草・海山竜胆などの花と、裏白七竈・樅見車などの実が目を楽しませてくれた。

下山後、龍の光前寺を訪ね、光苔を見た。石垣のすき間を覗いていくと、神秘的な緑の光が次々に現れた。

早（はや）太郎温泉に一泊し、翌日は、伊那市のかんてんパパガーデンで山野草を鑑賞した。蓮華升麻・黄蓮華升麻・秋海棠・松本仙翁・千手岩菲・女郎花などが咲いていて、期待以上に良かった。

・這松の香る圏谷見上げれば
岩稜が空を切り裂いていた
・黒百子、白玉の木に百桃の実

園谷（カール）の宝石光宿せり

（松阪市　森木伸人）

78号に北海道の糸魚岳（いといだけ）の記事が出ていた。1等三角点マニアしか知らない山だが、その山に私は二度登っているので特別に思い出した。

1995年の夏、手塩の山小屋にいると、坂井久光氏が登頂に失敗したと帰ってきた。そこで翌年登っている私が案内し、再度登ることになった。

北海道だけでも200を超す1等三角点があるので、滅多に同じ山に二度も登ることはないのだが、彼も数を稼ぐのに必死なので、協力した。

数を追いかけているので、とても山名の由来など考えている暇はないし、特に興味ももってはいないが、「日本山岳ルーツ大辞典」では、糸魚とは、細い魚（シシャモ）などを指す和名と記載されている。

それにしても、山名だけで、あれだけ調査されるとは、とても私にはできそうもない。

（一等三角点研究会　山形蔵之）

10月初め、東北を歩いてきました。

白神岳では、行けども行けどもブナ林。誰もいないブナを1人占め、これぞ私が長年求めてきた夢の世界ではないか。

ブナ大木の狂乱。ブナ根っこの羅勒感、自分がまるでブナと一体となっている。運命・ビートルズ・陽水、もう何でもよい、片っ端からハーモニー。手足はまるで天女の世界。ブナ林のトンネルのなかを数10分。ようやく人影あり、白馬の王子様がやって来た（昔通の登山者）。私を見るなり、この人少しおかしいのではと、声もかけずに早足に去る。ようやく狂った我は麻酔から目覚め、平常心。

その後岩手山・梁川山を歩き、温泉に入って念願の東北歩きを終えました。

中旬に熊野古道の、小雲取り・大雲取り越えを京都のO氏に同行し、私の関西での最後の山行となりました。

長年の新ハイキング山行参加ありがとうございました。村田リーダーを始め皆様に文面をもってお礼の言葉とさせていただきます。

なお、私儀介護を必要とする親元、九州に11月中旬転居することになりました。

山行きと同じく静かにゆっくりと介護の道を歩きます。

（大山崎町　南　寛子）

◎山情報　御池岳の一般登山道のコグルミ谷道が崩壊しました。9月5日に行った例会では問題なかったのですが、9月末の台風21号の豪雨で土石流が起こりました。

谷は、藤原岳への坂本谷と同様に二部岩が剥き出しのゴルジュと化し、台風23号の雨でさらに荒れました。長命水の上流・下流の谷沿いの登山道はほとんど流されましたが、カタクリ峠より上部はまだ大丈夫です。コグルミ谷右岸の尾根を斗詰するルートを歩いたほうが安全です。

10月31日にはコグルミ谷の下りは危ないので、また国道を入口から歩いたので、冷川岳へ回って寒山経由で冷川谷入口へとくだりました。

（海津市　山田明男）

10月早々、京滋府県境にある千頭岳の東峰と西峰へ登った。

京阪四宮駅から歩き始め、音羽川沿いに聴呪の滝・夫婦の滝を眺めながら牛尾キャンプ場へ。そして牛尾観音に参詣してから山道に入った。

それまでの車道と違って急登となり厳しい。たちまち息切れや動悸が激しくなり、頻繁に立休みをとらねばならなくなったが、とにかく登り続けると、音羽山からの東海自然歩道へ出た。それを進んでパノラマ台に到着し、瀬田川や琵琶湖方面の展望を楽しんだ。後は長い登り下りが続く。途中、二重丸太止め路段があり、それを利用したり脇を進んだりする。自然歩道の関係だろう、千頭岳への分岐を示す標識はほとんど見られない。

ようやく「↑ダイゴ寺」と刻まれた小さいアルミ板が現れたので、そこから自然歩道を離れて右折すべきであると判断する。さらに探し回ると、ごく小さい板に手書きで「←西千頭岳」と書かれているのを見つけた。また、その先に「千頭岳」の標識もあったので、ここが東千頭岳（662㍍）と判断した。

西千頭岳を目指したが、それが実にややこしいのである。いつも頼りにする標識は全くないし、持参の資料にはどれもコースから外れた所に点印が記入されているのみ。また、週日の関係だろうか、他の登山者に全く会うことがなく難儀した。

くだっては戻り上っては戻りと試行錯誤を繰り返した後、ついに赤色送電鉄塔を見つけてホッとする。柵を回ってついに2等三角点と西千頭岳（602㍍）の表示を見つけた。結局、東峰

○新ハイ関西サービスチェーン

名称・二軒登山・小白森―甲子・鈴鹿への縦走基地　1名でも最寄り駅送迎可（要予約）　貸大屋根付と内湯
福島・二岐温泉　日観連　大和館
〒961-0621
福島県白河郡西郷村二軒温泉
電　0248-84-2021
F　0248-84-2705

富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ群落）
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-0502
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-8515

大谷観光ホテル　敷地から絶景眺望分岐点
周辺・自然豊富
1泊6食税込1人5千円
バス20分　駅・市タクシー10分
山小屋　福ちゃん荘
〒484-0022
山梨県都留市上谷原
電（自宅）0553-33-4639
（山小屋）0380-14-7321-3

尾瀬、平ヶ岳登山と釣りの山小屋
越後三山見晴台
清四郎小屋
ほんものの手打そばと温泉は
樹海
〒946-0000　新潟県中魚沼郡湯之谷村蓬の里（奥鈴山）
電　0257-58-1002
（11月～4月）は
0257-79-2225-5026

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-2100　新潟県中魚沼郡湯之谷村池の平温泉
電　0255-86-2261

休憩時食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250-0631　神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電　0460-4-9041

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを
水芭蕉の湯
ヴィラ風花（KAZAHANA）
〒378-0411
群馬県利根郡片品村戸倉445
電　0278-58-7051

四季織りなす北関東の四季のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき通りと味の宿・日観連
温泉浴館　けやき山荘
〒390-1500
長野県松本市安曇村梓湖高原
電　0263-93-2555

…西峰のコースタイムわずか15分を45分も費したのだった。

腰痛三室続に出て帰阪したのであるが、ルートファインディング力が貧弱なことを痛感させられた山歩きだった。

（枚方市　東谷　宏）

10月の中旬、岐阜県の白川郷とともに世界遺産に登録された富山県五箇山の猿ヶ山を歩きました。猿ヶ山は、白山国立公園の北端部にあたるブナオ峠に登山口をもっていますが、そのブナオ峠へと車を走らせていたとき、道を横切る子熊を見ました。

母熊を追っていたのでしょうか。いたずらっ子のようにコロコロとした体つきの子熊は、私たちの車に驚いたのでしょう、まさしく必死な有様で駆け、猿ヶ山の森へ逃げ込んだのでした。地元の人の話では、猿ヶ山は熊の棲む山だそうであり、その夜ブナオ峠でテント泊した登山者は、闇に光る四つの眼を見たそうです。

今年は、里に降りてきた熊が人間に危害を加える事件が相次いでいます。特に北陸地方に多く、射殺された熊は170頭を超えるようです。熊がこんなに里に降りてくるというのは、山中の食料が減っているためと考えられていますが、食料不足の原因にはブナの実の凶作も関係しているようです。

近年、太平洋側のブナと日本海側のブナと、実の豊凶作の周期が必ずしも一致していない状況がありますが、少なくとも今秋、日本海側のブナ林は不作と言えます。けれど、ブナ林がもっと広大であればこのような事態にはならないでしょうから、熊の危害事件は、自然破壊に対する一つの警鐘とも言えるのではないでしょうか。

新聞紙上で熊の捕殺が報道されるたび、目の前を必死で駆け抜けた猿ヶ山の子熊を思い出します。

（各務原市　鷲見守慶）

富山県南部の岐阜県境に近い利賀村の金剛堂山に登った。利賀村は秘境といわれた白川村から、南北に連なる険しい山脈を二つ東へ越えた山間にある村で、なぜか合掌造り村。山の中に大きなイベント用やその他の建物が点在し、立派な温泉もあり宿泊もできる。その前の砂利道を南へ10分ほど走ると登山口があり、避難小屋もある。

川を渡り沢沿いに少し行き、沢を渡ってから急登となる。30分登って稜線に出た。登山口から「1㎞」地点の杭がある。

その先稜線歩きは視界はなく、さらに30分登ると「2㎞」の杭があり、水平道に出て視界が開けた。

隣の山を見るとスキーゲレンデが山頂まであり、その山頂がここより高いので、なんだこのやろうという気分になる。さらに登りひと山を越えくだった所に「3㎞」の杭があり水平道だ。

視界が開け、頂部の大きな山体が姿を現した。このあたりから道の両側に赤い実を付けたコケモモの紅葉が続き、リンドウが咲きウスユキソウが咲いてイワウチワの葉が地を埋め尽くす。

頂上には御影石の立派な社があり巨石は1等。頂部は広大な草原で鯨の背のようにうねり、先端の盛り上がりが奥金剛堂山。視界は360度、立山連峰が親不知の海から乗鞍まで見え、御嶽山が大きい。北は富山湾に突き出た能登半島が見える、近くには白木峰の頂部風衝地帯を歩いた地形が手に取るように見てとれる。二週間前白木峰からこの山を見てあれが金剛堂山かとしばらく見ていたが、ついて来てしまったのだ。

西は石川県境の山が壁のように並び手前に人形山が大きくそびえ、スキーゲレンデの山は下の方に見えてざまぁみろだ。

人形山に登った。平村にある重文村上家前の橋を渡り、流刑小屋の上を通り標識に従い林道に入る。途中分岐は左へ行き、つめ上がると中根山荘がありそこに駐車する。今日は20人乗りのバスが上がってきている。そこから先工事中の立派な林道を20分歩くと尾根上にあづまやがあり、その前が登山口。

林道はどこも奥の方が立派でここも手前はダートだった。広い尾根上をまっすぐに登る道で、30分登ると標高1000㍍、山頂まで5㌔と書いた割れたプラスチック板が地面に置いてある。尾根をつめ上がった所が宮屋敷で背丈ほどの鳥居があり、360度の展望。対岸に大きくそびえる三ヶ辻山と人形山につながる大きな壁が見え、反対側に白木峰と金剛堂山が重なるように並んで見える。ここまで約2時間。登った尾根は別の尾根にTの字にぶつかり、その尾根を右へ行くが、人形山の壁にぶつかる波型下のようになっていて、絶えず大きな壁を前面に見ながら進む。壁を登り切ると両山の鞍部の稜線に出て左が三ヶ辻山だが道はやぶ。三ヶ辻山からの展望は良い、右が人形山。

山頂は広いササ原で場所を移しても360度の展望。この地域の山はどの山に登っても白山・御嶽山、北アルプス乗鞍岳が三点セットで見える。手前下にはオゾウゾ山とソウゾウ山・マルツンボリ山と変な名の山が見える。白木峰から金剛堂山を見てその山を登り、金剛堂山からこの人形山を見て今ここに立っている。今日は天候が良いので笈ヶ岳と猿ヶ馬場山がよく見える。えらいことになった、この二つの山はやぶ山なのだ。

（大里町　山形　明）

山行短歌

9月2日　上州武尊山
雨にけむり美しのほたか神武尊
嶺海さすらえば樹霊囁きぬ

9月3日　上越谷川岳
大空へ翼羽鳴え来しトマとオキ
愉悦は尖るピークのはてに

9月9日　美作毛無山
山の帰りは気分も清々しくて
山賊の歌をハミングしてたよ

9月16日　丹波弥仙山
雀か吹くハーモニカの音ひびき
ふりむけば見返り草の花の径

9月20日　伊勢台猪山
君に見せたいもの石垣の里の
かぞえきれない花の踊り子ら

9月26日　播但夜叉山
君が僕を忘れてしまうとも僕は
忘れはしない青きリンドウを

10月1日　丹波鬼ヶ城
鬼たいじの小人を連ぶ花の舟
お伽ばなしのフリフネソウよ

10月3日　芦生杉尾峠
由良川の源流にきて水果てれば
ブナがひろがる峠の眼れり

10月11日　伊勢朝熊ヶ岳

さわやか信州
露天風呂　山吹の湯
湯田中温泉（建渡）
日野屋旅館
〒381-0400　長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉郷板
電　0269-33-3578

櫻高2000m峠上の温泉
湯の丸高原峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電　0267-25-2000

ハイキングに！　スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯線志賀下車
電　0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新北第2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03-3341-0211

塩の道　千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261-72-4452

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館暖房
木の香りの新鮮室誕生水洗室
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391-0213
茅野市豊平27220　小平勇大

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
蓼科高原
プチホテル　カナール
〒391-0301
茅野市北山蓼科高原蓼科平555
13の1
電　0266-67-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電　026-254-2081

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡大川村洞川
電　07476-4-0309

わが胸のいたみに嵐吹き荒れろ
吹き飛ばせ光る海諸ともに
10月14日　祖母傾峰高原
寂しみは銀河にとどき星が降る
星のなみだ草原で拾ったよ
（吹田市　木村太郎）

鈴鹿山系のブナ林を見ると、全体に主稜線から西に派生する尾根や斜面に多く見られる。霊仙山では今畑の神社の上。御池岳では伊勢尾根・土倉尾根とT字尾根の三ヶ所のブナ林がすばらしい。サンヤリとその北尾根には大木がかなり残っている。天狗堂と宮坂峠の北尾根にも古木が並んでいる。日本コバの西斜面と白鹿背山に向かう尾根上に大木がかなりある。

主稜線では赤坂谷の源頭、釈迦ヶ岳周辺、鎌尾根から水沢岳の間、仙ノ谷の源頭部と御所平に少々。

雨乞岳では七人山と国境尾根、西尾根、南尾根、佐目峠、イブネ。

鈴子周辺と北に向う尾根のP1022は純粋なブナ林ですばらしい森だ。

丹くば、鈴子ヶ口の中峰とこの尾根の西、ダイジョ、カクレグラと続く山系にはブナ林はない。

雨乞岳からイハイガ岳と続く尾根、特に鎌岡山は信仰に守られた山で東斜面には苔むしたブナの原生林の古木の森林が残っている。山腹のブナの太平や行者コバのブナ林も見事だ。南にのびる尾根の薬草山の東斜面にもブナの森がある。そして近年国見岳の西、上水晶谷のブナ清水が注目を集めている。

なお、霊仙山の見晴台の北斜面、保月の北尾根、倉骨山の南斜面にはケヤキだけの純粋な森林が広がっていて見事だ。

（近江八幡市　岩野　明）

以前から気にかかっていたこと、それは所構わずアンテナが頭を持ち上げてきたことである。携帯電話各社が美観とか景観など無視した建設による乱立。市街はもちろん、山地でもその姿勢は変わっていない。電波の不到達箇所解消に努めている結果がそうさせていると会社は言うであろうが、所構わず建ててもよいとは思わない。山中の建設は共同で建設し、一箇所にまとめる。市街や近郊は、景観に配慮した建設方法を考え、行政も指導するべきである。

皆さんもこんな経験があるはずです。景色の良い所で記念写真を撮ろうとした時、バックに鉄塔やアンテナが邪魔になり撮るのを断念した。風景写真でもしかりである。

今後も、山中にアンテナ、送電用鉄塔はもちろん、それ以外の建設も計画されていると聞いている。山中であっても周囲に配慮した建設が求められる時期がきたと思うのだがいかがなものだろうか。

（姫路市　須磨岡　維）

新編『ベスト・ハイク』（鈴木元編集、かもがわ出版）が近刊で書店に並んでいる。「歴史と文化」をうたい文句にしているが、調査・認識不足が目立つ。目を通す時は次の点を留意する必要がある。

①まず「八滝の滝」コースでは、上流へ向かう説明で左岸を「右岸」とし編者らの基本的な地理認識が疑われる。広谷の幻の滝の位置をウマノセ谷沿いだとしている。大猪鉢の大岩の峯刻は「八徳が正解のよう」と自信がないが、高島町役場で聞けば「八徳（八功徳水）」と答えてくれる。「新緑谷」はじめ誤植が多い。問合せ先の高島町役

御在所登山に
愛知川渓谷沢歩きに
山好き仲間の集う宿
朝明渓谷
山小屋　朝明茶屋
〒510−1251
三重県三重郡菰野町千草
電話　0593−93−1789

那岐山山麓の町。近くに見る山の大山
二百名山の氷ノ山・上齋原山などがある。
三百名山　那岐山のふもと
岡山県　那岐山荘
〒708−1307
岡山県勝田郡奈義町高円
電話　08668−36−4154

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島宮之浦登山口
屋久島グリーンホテル
〒891−4311
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電話　09974−6−3021

場の電話番号が変わっているが旧版のまま。部署名も同様。

②「湖南アルプス」で「太神山（たいしんざん）は通称たなかみやま」とある。太神山は従来、「たなかみやま」と呼ばれてきたが、音読みになっている。『万葉集』や『日書本紀』などに「谷上（タニカミ・タナカミ）」「田上」と載り、こちらのほうが古く通称ではない。もともと太神山は「タナカミ（田の神の転訛とも）」の当て字である。この漢字が用いられたのは円珍が太神山（たいじんさん）不動寺を建立した以降とされ、「たいじんさん」という呼びかたは山号を指す。山号の成立は平安以降であり、時代錯誤で山名と山号を混同している。

田上山がはげ山だったのは、『万葉集』がこれまでよく引用され、造都用材説が定説だったが、旧版の頃と違って、昨今の景観史研究分野では、近世の新炭林用材などで、"根こそぎ"掘ったことが原因だとわかった。全国の近世のはげ山に共通するものである。

③「金勝アルプス」で、案内板にあるデレーケ堰の通説も旧版の頃と違い今日否定されている。日本人技師が、オランダ人デレーケの設計の不備を指摘し自ら建設した。そもそも砂防技術は低水位地帯のオランダで発達せず、山岳地帯の日本の近世の技術のほうが高いレベルだった。このことは『山城町史』などに出ている。

④「唐櫃越」の名称は、室町幕府から丹波武士の軍道として史実に登場とあるが、文献の初見は南北朝時代で、『太平記』などをまともに調べていない。

⑤「小塩山」では、「老の坂断層」とあるが、専門書では光明寺断層とか亀岡断層などが正しい。

⑥「ボンボン山」は俗称で、正式名称が「加茂勢山」だと記し、山頂の案内板（京都府）通り鵜呑みだが、正式名称は「ボンボン山」が正しい。

明治の地租改正で土地の私有が認められ、近世乙訓郡の入会山だった鴨脊山を各村が分割所有し、山頂部分だけ共有山として「ボンボン山」とはじめて命名した。従ってゴルフ場計画のあった大原野森林公園はボンボン山でなく、旧鴨脊山である。

ボンボンという「カタカナは昔から親しまれている表れ」とは意味不明で個人の感傷に過ぎない。カタカナはもともと平安時代、漢字訓点（訓読のための符号）として僧や貴族の間で用いられ院政時代に現行に近くなる。古くは限られた人達しか使用しなかった。パ行の半濁音はもっと後で近世初期中国から入り定着しその使用は古くない。

半濁音は古く比叡山根本（コンボン）中堂があるではないかと思うが、室町期の辞書や『日葡辞書』では「コンボン」で半濁音は定着していない。

バス停は最近冬季（12〜2月）を除いて善峰寺駐車場まで運行されているが、小塩止まりの旧版のままで調査不足。

⑦「金毘羅山」で山頂の石柱文字をハングル文字としているが、ハングルに似た神代（じんだい）文字でも同様に「アメノミナカヌシッヲカミ（天御中主大神）」と読める。建立者が所在不明の今、どちらとも断定できない。

まだまだあるが、安直な編集内容である。

（向日市　嶋本逸雄）

11月の初旬、西国三十三ヶ所巡りの残り二寺、28番成相寺と29番松尾寺に参拝し、若狭富士の青葉山にも登頂した。

天の橋立、笠松公園から成相寺までのバス路線が台風23号による崖崩れで不通。片道40分を頑張って歩いた。天の橋立の松並木も倒木が多くあった。

東舞鶴で宿泊し、翌日JR松尾寺駅から50分で松尾寺へ。参拝後の青葉山への登りは、急坂・岩場・鎖場のスリルの連続だった。山頂岩窟から内浦湾が展望でき、海の見えるこの山最大の魅力を堪能した。

下山後、舞鶴の観光施設を巡り、西国巡礼満願の充実の旅を終えた。

次の目標は西国八十八ヶ所歩き遍路をする予定である。

（大和高田市　森　訓祥）

山行計画
（1・2月）
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名義代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

創会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（株式会社損害保険ジャパンと契約）

死亡・後遺障害保険金額　1000万円
入院保険金　日額　5000円
通院保険金　日額　2500円

保険の対象は集合時から解散時までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故　⑤別死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。

② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。

④ グレードは、次のように決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）
（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）
（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）
（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）
（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（18時以降）の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください（リーダーから連絡はしません）。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

1月山行計画表

期日	行先	定員	リーダー	サブ
4(火)	西播・天下台山		須磨岡	
4(火)	飛騨・下呂御前山		筒井	
4(火)	鈴鹿・鎌掛山～花の木～羽黒山	20	山田	
6(木)	京都北山・桟敷ヶ岳		木村	
8(土)～10(日)	群馬・鹿俣山と玉原高原	25	鷲見	
9(日)	鈴鹿・阿弥陀ヶ峰	*	岩野	
9(日)	北播丹波・西光寺山	22	古賀	
9(日)	湖東・鈴鹿山～天狗岩		村田	
16(日)	鈴鹿・鄙須ヶ原山～油日岳	20	中西	○
16(日)	鈴鹿・松尾寺山～八葉山	20	山田	
19(水)	伊勢・朝熊ヶ岳	20	木村	
22(土)	美濃・貝月山	20	鷲見	
22(土)	南勢・局ヶ頂	*	尾崎	
23(日)	鈴鹿・綿向山	*	岩野	
25(火)	京都北山・三頭山～愛宕山		仲谷	
26(水)	京都東山・伏見稲荷～八坂神社		呉山	
29(土)	敦賀・妙伏山		高島	

＊＝マイカー山行

2月山行計画表

期日	行先	定員	リーダー	サブ
1(火)	比叡・無動寺道～雲母坂		寺井	
3(木)	西播・的場山	20	木村	○
5(土)	鈴鹿・静ヶ岳～竜ヶ岳	*	筒井	
5(土)	京都西山・天王山～普峰寺		狩野	
5(土)	奥美濃・湧谷山	20	鷲見	
6(日)	湖東・長命寺～奥島山		村田	
6(日)	三河・猿投山	14	山田	
6(日)	鈴鹿・梨登ヶ峰	*	岩野	
10(水)	奈良・日張山～烏帽子岳		西上	
12(土)	美濃・池田山	20	鷲見	
15(火)	京都北山・大杉谷左岸～八丁尾根		仲谷	
16(水)	台高・三峰山	20	木村	○
19(土)～20(日)	紀州・熊野古道（伊勢路～鷹ヶ巣峠越）	26	村田	
20(日)	比良・蛇谷ヶ峰		秦	
20(日)	鈴鹿・釜仙山西南尾根	*	岩野	
23(水)	京都北山・左大文字山～御室山		呉山	
25(金)～27(日)	北アルプス・西穂丸山と蒲平高原	25	鷲見	
26(土)	湖北・小谷山	*	高島	
27(日)	湖西・寒風山～赤坂山	20	森脇	○
27(日)	鈴鹿・釜仙山	20	山田	
27(日)	奈良・鳥見山～貝ヶ平山		村田	

＊＝マイカー山行

初歩き
西播・天下台山（一般向き）
期　日　1月4日(火)　日帰り
集　合　JR相生駅南出口9時30分
コース　相生駅（バス）西登山口—北コース分岐—天下台山—広場コース分岐—岩屋谷公園（小学校・バス）相生駅（解散）
費　用　交通費各自、5000円（学校公費）
地　図　2万5千＝鶴干・相生
係　◎須磨岡　稔
申込み　〒671—1252　姫路市余部区上余部50の2の11　須磨岡　稔まで
新年の挨拶、今年の抱負を語り合って楽しくやりましょう（飲物各自持参）。雨天中止

鈴鹿遊山4
飛騨・下呂御前山（健脚向き）
期　日　1月4日(火)　日帰り
集　合　JR岐阜駅6時57分発高山行きに乗車
コース　岐阜駅（電車）下呂駅（タクシー）大洞—下呂御前山—大洞—下呂駅（電車）岐阜駅（解散19時40分）
費　用　参加費200円（交通費・入浴代各自）
地　図　2万5千＝宮地・湯屋
係　◎荒井克治
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
新年会を兼ねます。ゴチ宜しく。冬山装備で防寒を。路線変更で上品駅から仏ヶ尾山に転戦します。
＊名古屋「山想の集ひ」と合同登山。雨天決行（悪天中止）

鈴鹿百山65
筆捨山・花の木・羽黒山（中級向き）
期　日　1月4日(火)　日帰り
集　合　JR関駅8時50分
コース　関駅—観音山遊歩道—筆捨山—花の木—羽黒山—関宿—関駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　奥村さんの絵地図を用意します
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503—0535　海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員20名

時間）
費　用　約4000円（バス代等）
地　図　2万5千＝谷川
係　◎古賀隆一　○西田　昇
申込み　〒675—0112　加古川市平岡町山之上684の33・17A403　古賀隆一まで
＊定員22名
ウバメガシの自生地、内陸部ではめずらしい所です。雨天中止

湖東・金勝アルプス
鶏冠山から天狗岩（一般向き）
期　日　1月9日(日)　日帰り
集　合　JR草津駅9時15分
コース　草津駅（バス）上桐生—鶏冠山—落ヶ滝分岐—天狗岩—オランダ堰堤—上桐生（バス）草津駅（解散17時00分頃）
費　用　約2500円（草津駅から）
地　図　2万5千＝三雲・瀬田
係　◎村田賀俊
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　村田賀俊まで
干支の山に登り、今年の無事を祈ります。天狗岩周辺はおもしろい岩がいっぱいです。雨天中止

鈴鹿・那須ヶ原山から油日岳（一般向き）
期　日　1月16日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース　京都駅（バス）大原貯水池（バス）参拝橋—坂下峠—唐木キレット—唐木山—那須ヶ原山—三国山—油日岳—油日神社—JR油日駅（電車）京都駅（解散）
費　用　約5000円（京都から）
地　図　昭文社＝「別冊・宝塔・伊吹」
係　◎中西信行　○鈴野重治
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員20名
雪の鈴鹿南部の山々を歩きます。アイゼン必携。雨天中止

鈴鹿百山66
松尾寺山・八葉山（中級向き）
期　日　1月16日(日)　日帰り
集　合　JR醒ヶ井駅8時20分

前夜発1泊2日（8日）JR岐阜駅23時00分
コース　（8日）岐阜駅（バス）（9日）（バス）玉原高原民宿（朝食）—玉原スキーパーク—鹿俣山—玉原スキーパーク—玉原高原民宿（泊）
（10日）民宿—玉原スキーパーク—ブナ平—玉原スキーパーク（バス）岐阜駅（解散）
＊帰路に浴食します。
費　用　約30000円（岐阜駅からバス・宿泊・資料代等）
地　図　2万5千＝藤原湖
係　◎警見守康
申込み　〒504—0828　各務原市蘇原村前町1の19の5　警見守康まで
＊定員25名
＊12月20日まで
9日は鹿俣山目指してトレッキング。10日はブナの大木に熊棚を探して周遊します。＊スノーシューはレンタル（料金1日1500円加算）希望か持参か明記ください。雨（雪）天決行（コース変更あり）

鈴鹿を歩く207
阿弥陀ヶ峰（健脚向き）
期　日　1月9日(日)　日帰り
集　合　上青生いぼとり地蔵広場8時30分
コース　広場（車）浄水場—P654—阿弥陀ヶ峰—谷山谷源流—谷山谷—広場（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「別冊・宝塔・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田英三　○後藤康幸
申込み　〒610—0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
201回で予定していた阿弥陀ヶ峰が時間切れになりましたので再度アタックします。鈴鹿の巨木No.1と思われるケヤキが見事です（35ページ参照）。雨天中止

北摂丹波・西光寺山（一般向き）
期　日　1月9日(日)　日帰り
集　合　JR明石駅8時45分
コース　明石駅（バス）中畑—こぐり岩—西光寺山—本荘（バス）明石駅（解散17

いぼとり地蔵（車）醒ヶ井駅（解散）
費　用　交通費各自、車代500円
地　図　奥村さんの絵地図を用意します
係　◎山田明男　○高原芳彦
申込み　〒503—0535　海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員20名
＊マイカーの方はその旨を記載ください
鈴鹿で最も北の山々を歩きます。雨天中止

ファミリーハイク51
伊勢・朝熊ヶ岳（一般向き）
期　日　1月19日(火)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1番乗場内7時00分
コース　新大阪駅（バス）朝熊登山口—朝熊峠—朝熊ヶ岳—金剛証寺—山上大鳥居—翠台—登山口（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）

地　図　2万5千＝鳥羽・伊勢
係　◎木村太郎
申込み　〒565－0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）
絶景の鳥羽湾を眺め、神宮を守護してきた霊山に登る。雨天中止

自然観察山行165
スノーハイキング
美濃・目月山（中級向き）
期　日　1月22日(土)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）揖斐高原スキー場－ふれあいの森公園－目月山－ふれあいの森公園－揖斐高原スキー場（バス）大垣駅（解散）
＊帰路に入浴します。
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝横山・美束
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
スノーハイクの定番となった目月山に今年も登ります。スノーシューまたはカンジキ持参。雨天決行（荒天中止）

三重の山75
南勢・鳥ヶ頂（やや健脚向き）
期　日　1月22日(土)　日帰り
集　合　伊勢名目指里道玉城インター前のコンビニ駐車場8時00分
コース　玉城インター（サニーロード・車）五ヶ所浦（車）相賀浦トンネル（車）道行－鳥ヶ頂－（浜へ下りる）－道行（解散16時頃）
費　用　1500円
地　図　2万5千＝相賀浦・鵜殿
係　◎尾崎英五　○稲垣逸夫
申込み　〒519－1031
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
＊マイカー山行
展望良。眼下の浜経由で帰ります。65回山行の時の逆の尾根を登ります。雨天決行

鈴鹿を歩く208
樹氷の綿向山（健脚向き）
期　日　1月23日(日)　日帰り
集　合　西蓮寺水木林道入口広場8時30分
コース　広場－奥の平－行者コバ－綿向山－北峰－雪原－竜王尾根分岐－竜王山－西明寺（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎岩野　明　○山田晃三　○後藤康幸
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨（雪）決行

火曜ハイク2
愛宕山シリーズ2
三頭山・地蔵山から愛宕山へ（中級向き）
期　日　1月25日(火)　日帰り
集　合　JR八木駅8時30分
コース　八木駅（タクシー）星峠－三頭山－芦見峠－地蔵山－愛宕社務所－表参道－清滝バス停（解散16時30分頃）
費　用　交通費各自（タクシー代約1000円）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎伊久孔周　○田中青雄
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
愛宕山系南北の縦走で長距離コースです。雪深い地蔵山を楽しみます。雨天中止

北山ちょっと歩き63
京都東山・稲荷山から八坂神社（初級向き）
期　日　1月26日(水)　日帰り
集　合　JR奈良線稲荷駅9時00分
コース　稲荷駅－伏見稲荷大社－稲荷山三角点－清水寺－将軍塚－知恩院－八坂神社（解散14時30分）
費　用　約500円（京都駅から）
地　図　2万5千＝京都東南部・京都東北部
係　◎浜山繁三
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
お正月の京都里山歩きは稲荷大社から清水山・八坂神社へと、有名な神々様にお祓を願って歩きます。小雨決行

敦賀の山
鉢伏山（一般向き）
期　日　1月29日(日)　日帰り
集　合　敦賀駅9時40分
コース　敦賀駅（タクシー）新保－南尾根－鉢伏山－新保（タクシー）敦賀駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝板取
係　◎宮島伸浩
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
南尾根を往復します。山頂からは日本海が眼下に。雪山山行、カンジキ必携。雨天決行

平日ふれあいハイク49
比叡山
無動寺道から雲母坂（一般向き）
期　日　2月1日(水)　日帰り
集　合　JR比叡山坂本駅8時35分
コース　比叡山坂本駅－無動寺道－紀貫之の墓－坂本ケーブル山上駅－大比叡－寺三角点－山道駐車場－雲母坂－祭神修学院駅（解散15時30分頃）
費　用　約1000円（京都駅から）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　◎寺井恒夫　○川上友堅
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
坂本から不動坂（無動寺道）を登り、大比叡1等三角点を訪ねます。雨天中止

ファミリーハイク52
西播・的場山（初級向き）
期　日　2月3日(木)　日帰り
集　合　JR新大阪駅1階正面口
構内8時00分
コース　新大阪駅（バス）龍野公園－宝蔵の小径－白鷺山－的場山－鶏籠山－龍野公園（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地　図　2万5千＝龍野
係　◎木村太郎
申込み　〒565－0854
吹田市桃山台1の2のB12の209　木村太郎まで
＊定員20名（会員に限る）
小京都を眺める的場山、百年に本丸跡の鶏籠山へ登る。雨天中止

鈴鹿澄山5
鈴鹿・静ヶ岳・竜ヶ岳（健脚向き）
期　日　2月5日(土)　日帰り
集　合　宇賀渓発亮合橋8時00分
コース　亮合橋－竜金山尾根－クラー静ヶ岳－湯足尾根－茶木良橋（解散）
費　用　参加費200円
地　図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎角井克治
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
冬山は総合戦力で、カンジキ必携。雨天決行（荒天中止）

湖東ハイク66
京都西山・天王山から善峰寺（一般向き）
期　日　2月5日(日)　日帰り
集　合　JR山崎駅9時00分
コース　山崎駅－天王山－浄土谷－柳谷－善峰寺－光明寺－阪急西京極駅・JR長岡京駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「北摂・京都西山」
係　◎鷲見守康　○瓜阪利明
申込み　〒610－0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
冬の陽だまりハイクです。柳谷から善峰寺へは猪が遊ぶ古い里山道を歩きます。雨天中止

自然観察山行166
スノーハイキング
美濃広瀬・湧谷山（中級向き）
期　日　2月5日(日)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）湯ちんど坂内スキー場－丁字山－湧谷山－丁字山－スキー場（バス）大垣駅（解散）
＊帰路に入浴します。
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝美濃広瀬
係　◎鷲見守康
申込み　〒504－0828
各務原市蘇原村南町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名
もともとは残雪期の山。登りはスキー場のリフトを利用します。スノーシューまたはカンジキ持参。雨天決行（荒天中止）

湖東・長命寺から金剛山（初級向き）

期　日　2月6日(日)　日帰り
集　合　JR近江八幡駅10時20分
コース　近江八幡駅（バス）長命寺―長命寺山―津田山―国民休暇村（バス）近江八幡駅（解散16時00分頃）
費　用　約2000円（京都駅から）
地　図　2万5千＝近江八幡・沖島
係　◎村田智俊　○呉比裕美
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで

冬の琵琶湖を眼下に、雪舟の比良山を望みながら、雑木の尾根道をゆっくりたどります。小雨決行

1等三角点の山！三河・猿投山（一般向き）

期　日　2月6日(日)　日帰り
集　合　愛知環状鉄道山口駅9時00分
コース　山口駅（車）海上の森入口―大正池―物見山―猿投山―物見山―尾根経由―海上の森入口（車）山口駅（解散）
費　用　交通費各自（車代500円）
地　図　奥村さんの絵地図を用意します
係　◎山田明男
申込み　〒503―0535　海津郡南濃町松山624の19　山田明男まで
＊定員（車なし）14名
＊マイカーの方はその旨を記載ください

万博跡地前に海上の森から猿投山（1等三角点）を往復します。雨天中止

鈴鹿を歩く209　能登ヶ峰（中級向き）

期　日　2月6日(日)　日帰り
集　合　大河原「かもしか荘」広場8時30分
コース　広場（車）鮎河―能登ヶ峰林道―能登ヶ峰―鹿の楽園―P696―P758―鍋川林道―鮎河（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎浜野　明　○山田登三　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

真冬の能登ヶ峰の雪原をのんびり楽しみます。小雨（雪）決行

奈良　日張山から烏帽子岳（中級向き）

期　日　2月10日(休)　日帰り
集　合　近鉄橿原駅南出口バス停9時00分
コース　橿原駅（バス）宇賀志―ひばり山荘―吉祥寺―日張山―一谷峠―烏帽子岳―岩橋―松井大神社前（バス）橿原駅（解散17時頃）
費　用　2530円（橿原駅から）
地　図　昭文社＝「赤目・倶留尊高原」（旧地図）
2万5千＝高見山・古市場
係　◎西上利和　○井上由紀晴
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

日張山から烏帽子岳までは烏帽子岳まで縦走します。一谷峠からは歩き応えがあるコースです。雨天中止

自然観察山行167　スノーハイキング　美濃・池田山（一般向き）

期　日　2月12日(日)　日帰り
集　合　JR大垣駅9時00分
コース　大垣駅（バス）藤閑ヶ渓―池田の森―池田山―（往路）―藤閑ヶ渓（バス）大垣駅（解散）
＊帰路に入浴します。
費　用　約3500円（大垣駅からバス代等）
地　図　2万5千＝池野
係　◎鷲見守康
申込み　〒504―0828　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員20名

池田の森からは南に広がる美濃平野の見晴らしが見事です。アニマルトラッキングもおもしろい。スノーシューまたはカンジキ持参。雨天決行（荒天中止）

火曜ハイク3　愛宕山シリーズ3　大杉谷左岸道から八丁尾根（一般向き）

期　日　2月15日(火)　日帰り
集　合　清滝バス停9時00分
コース　清滝―空也の滝―大杉谷左岸道―愛宕山三角点―竜の小滝―八丁尾根―梨の木林道―清滝バス停（解散15時30分頃）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝京都西北部
係　◎仲谷孔司　○田中義雄
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

あまり歩かない道を楽しみたいと思います。一部悪路があります。雨天中止

ファミリーハイク53　台高・三峰山（一般向き）

期　日　2月16日(休)　日帰り
集　合　JR新大阪駅―南出口構内7時00分
コース　新大阪駅（バス）登山口―登り尾根―三峰山―八丁平―不動谷出―登山口（バス）香酔渓温泉（バス）新大阪駅（解散）
費　用　約3500円（新大阪駅からバス代）
地　図　2万5千＝菅野

雨天中止

鈴鹿を歩く210　雲仙山西南尾根（中級向き）

期　日　2月20日(日)　日帰り
集　合　河内線甲斐倉入口広場8時30分
コース　広場（車）今畑―茶合―汗ふき峠―雲仙山―最高峰―西南尾根―鞍峠―今畑（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎浜野　明　○山田基三　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾根の山行です。セブンソウ・フ

鈴鹿を歩く208　比奥を歩く28　蛇谷ヶ峰（やや健脚向き）

期　日　2月20日(日)　日帰り
集　合　JR近江高島駅バスのりば8時55分
コース　近江高島駅（バス）畑―林道出合―ボボフダ峠―滝谷ノ頭―蛇谷ヶ峰―標高点817―造林公社管林想看板―宮敷尾根―玉津島神社―宮敷口（バス）近江高島駅（解散17時頃）
装　備　雪山装備・輪カン・アイゼン・ストックまたはピッケル・ヘッドランプ必携
費　用　約2800円（京都から）
地　図　2万5千＝北小松

昭文社＝「比良山系」
係　◎秦　康夫
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

毎年恒例の雪山歩き。積雪状態によっては、交替でラッセルが必要です。状況次第でコース変更あり（木読沈没参照）。雨天中止

鈴鹿を歩く210　雲仙山西南尾根（中級向き）

期　日　2月20日(日)　日帰り
集　合　河内線甲斐倉入口広場8時30分
コース　広場（車）今畑―茶合―汗ふき峠―雲仙山―最高峰―西南尾根―鞍峠―今畑（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「御在所・雲仙・伊吹」
係　◎浜野　明　○山田基三　○後藤康幸
申込み　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾根の山行です。セブンソウ・フ

クジュソウは咲いているでしょうか（21ページ参照）。
小雨（雪）決行

北山ちょっと歩き64
左大文字山・衣笠山・御室山
（一般向き）

期　日　2月23日(水)　日帰り
集　合　JR京都駅市バスのりば
　　C3番9時00分
コース　京都駅（バス）金閣寺前
　　—左大文字山—衣笠山—
　　各大名墓群—御室八十八
　　ヶ所—仁和寺—五知不動
　　尊前（解散14時30分）
費　用　約500円（京都駅から）
地　図　昭文社＝「京都北山」
係　　◎宮山繁三
申込み　〒610—0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
京都市街を展望する里山コース。
9月雨天中止の再挑戦です。
雨天中止

自然観察山行168
スノーハイキング
北アルプス・西穂丸山と鍋平高原
（中級向き）

期　日　2月25日(金)夜～27日(日)
　　前夜発1泊2日
　　（25日）JR岐阜駅23時00分
集　合　（25日）岐阜駅（バス）
　　（26日）（バス）新穂高ペンション（朝食・バス）
コース　新穂高駅（ロープウェイ）西穂高口駅—西穂山荘—丸山—西穂山荘—西穂高口駅（ロープウェイ）新穂高駅（バス）ペンション（泊）
　　（27日）ペンション（バス）新穂高駅（ロープウェイ）鍋平駅—周遊—鍋平駅（ロープウェイ）新穂高駅（バス）岐阜駅（解散）
費　用　約36000円（岐阜駅からバス代等）
地　図　昭文社＝「上高地・槍・穂高」
係　　◎森見守康
申込み　〒504—0828
　　各務原市蘇原杉南町1の19の5　森見守康まで
　　＊定員25名
　　＊12月20日まで
　　ロープウェイを利用し、1日目は西穂高口駅から西穂山荘・丸山の往復トレッキング。2日目は鍋平高原でのスノーシューイングです。＊スノーシューはレンタル（1回2500円加算）希望か持参か明記ください。
雨（雪）天決行（コース変更あり）

湖北・小谷山（一般向き）

期　日　2月26日(土)　日帰り
集　合　小谷山登山口駐車場（バス停小谷城跡）9時00分
コース　小谷山登山口—小谷城本丸—小谷山—尾崎神社—登山口
費　用　交通費各自
地　図　◎高島伸治
係　　〒610—0121
申込み　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊マイカー山行
雪山山行。カンジキ必携。
雨天決行

✓
湖西
寒風山から赤坂山（中級向き）

期　日　2月27日(日)　日帰り
集　合　京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース　京都駅（バス）マキノ高原—寒風山—P820—赤坂山—ブナの木谷—マキノ高原（バス）京都駅（解散18時頃）
費　用　約3000円（京都駅から）
地　図　2万5千＝海津・駄口
係　　◎森脇良義　○中西信行
　　○磯野重治
申込み　〒610—0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　新ハイキング関西まで
　　＊定員20名
　　厳冬の寒風山から赤坂山の白一色の被覆を歩きます。スノーシューか輪カンジキ必携。小雨決行

鈴鹿百山67
釜仙山（鈴鹿向き）

期　日　2月27日(日)　日帰り
集　合　JR醒ヶ井駅8時20分
コース　醒ヶ井駅（車）樽ヶ畑—汗ふき峠—経塚山—釜仙山—（往路）—樽ヶ畑（車）醒ヶ井駅（解散）
費　用　交通費各自、車代500円
地　図　奥村さんの絵地図を用意します
係　　◎山田明男　○高原芳彦

申込み　〒503—0535
　　海津郡南濃町松山624の19
　　山田明男まで
　　＊定員20名
　　＊マイカーの方はその旨を記載ください
　　どこまで行けるかわかりませんが、雪の釜仙を歩きます。
小雪決行

奈良・鳥見山から貝ヶ平山
（一般向き）

期　日　2月27日(日)　日帰り
集　合　近鉄橿原駅9時10分
コース　橿原駅—鳥見山公園—鳥見山—貝ヶ平山—貝ヶ平山—貝電寺分岐—貝電寺—天満台（バス）橿原駅（解散）
費　用　約2500円（大阪から）
地　図　2万5千＝初瀬
係　　◎村田智俊　○安倉比路夫
　　○宮武裕美
申込み　〒610—0121
　　城陽市寺田大畔10の10
　　村田智俊まで
　　千支の酉にちなんで登ります。日溜り低山ハイクですが、一部急坂の下りがあります。雨天中止

海外特別山行
中国・四姑娘山トレッキング
（一般向き）

期　日　6月28日(火)～7月4日(日)
　　6泊7日
集　合　関西国際空港午前（予定）
行　程　関空＝成都（泊）＝都江ダム・パンダ公園＝臥龍（泊）＝日隆—巴郎峠—日隆（泊）—西の谷ハイキング—日隆（泊）—無名峠（4615m）登頂—日隆（泊）＝成都（泊）＝関空
費　用　18万8千円（予定）
問い合せ・申込み
〒536—0008
大阪市城東区関目4の14の9の901
塚元一彦まで
☎06（6933）4125
締切り　3月31日
　　幻の高山植物「青いケシ」が咲く四姑娘山麓を歩きます。経験した6千mの山並を眺めながら4千mの峠や無名のピークに登る山旅です。新ハイキング関西支部合同企画
＊旅行取扱い　アルパイン・ツアーサービス㈱　乾あゆみ
☎06（6444）3033

山行報告
（9・10月号）
新ハイキングクラブ関西

木曽・御岳山
（自然観察山行155）

9月3日(土)夜～4日(日)
前夜発日帰り
（3日）（集合）JR岐阜駅22・50（バス）
（4日）くもりのち雨（バス）開田村そば屋2・45（就眠・朝食）6・00（バス）胡桃島登山口7・00～06—のぞき岩—難小屋8・55～9・05—五ノ沢小屋10・35（昼食）11・35—飛騨頂上11・40—駒子岳12・05～15—原生林—岩場13・35—ゴンドラ山頂駅14・10（ゴンドラ）山麓駅14・25（バス）御岳明神温泉15・25（入浴）15・55（バス）岐阜駅19・35（解散）
　　ガスで見晴らしはきかなかったが、山中で雨に遭わなかったのは運がよかった。難子岳からの日和田道は御嶽でもっとも険しい道だろうと思う。開田村のそば処「蕎しな」は大変親切で朝食も美味だった。
（参加者）内田康夫　荻野美紀恵　金森節子　須藤志子　落合ひろ子　栗栖忠吉　栗栖君子　加納由紀子　秋谷礼司　砂原東美子　平田輝美　光川悌史　光川一美子　村川春忠　山縣勝美　武藤由美子　安田文美江　○三井猛一　◎宮武守康　（計20名）

御池岳（鈴鹿百山80）

9月5日(日)　くもり
（集合）JR関ヶ原駅8・35／三岐鉄道西野尻駅9・05（車）コグルミ谷入口9・55—長命水10・28—カタクリ峠10・56—幻池11・15—逆池11・45—真の池12・05（昼食）12・40—池巡り—鈴北岳13・55—藤池—タテ谷下降—まどろみの民宿15・00—コグルミ谷入口15・20～45（解散）
　　昨年より夏が暑かったせいで、カリガネソウ以外の3種（シロヨメナ・アケボノソウ・トリカブト）は背丈が小さかったが十分見られた。天気予報が悪く参加者は16名となったが、カッパも着ずに一巡りでき、車で帰る時にようやく雨が降った。
（参加者）川崎敏雄　山野忠保江

西村之男　山田粉子　伊藤忠美子
馬場桂子　春日重美　中谷栄美子
藤文国男　吉村　昭　南　智恵子
前坂初子　西井粉子　岡平くみ子
○高原芳彦　◎山田明男（計16名）

若狭・青葉山
（近畿百名山に登る73回）
9月5日(日)　◎村田智彦
・雨天のため中止しました。

紀泉・護子城山から横尾山
9月9日(水)　晴れ
（集合）南海和泉中央駅9・00～06（バス）公園口9・35―施福寺10・00―ボテ峠11・00―猫子城山11・50（昼食）12・50―十五丁石地蔵13・20―検身ヶ岳―横尾山最高峰14・30―観音公園口15・30～16・05（バス・解散）
ボテ峠から山頂までの登りは厳しかったが、山頂からは穏やかな尾根道になった。深緑の西国巡礼道は石仏や石碑がまつられ、隠れた史跡探訪ができた。
（参加者）木村　豊　市野博文
中村英雄　山縣勝美　山中あさみ
鷹尾健治　上西信子　水本加津栄
竹田勝英　井上恵美　石倉真佐子
東中次夫　若林文夫　勝元英次郎
渡部和美　盛　敏子　高木忠夫
竹田善英　山根弘美　鵜　照子
○井上由紀晴　◎西上利和（計22名）

鎧美・冠山
（自然観察山行156）
9月11日(土)　晴れ
（集合）JR大垣駅9・00（バス）冠山峠11・25～35―寂平12・55―冠山13・10～15―寂平13・25（昼食）14・10―冠山峠15・00～15（バス）池田温泉17・00（入浴）17・45（バス）大垣駅18・30（解散）
冠山林道の福井県側ルートが通行止めのため訪れるハイカーは極端に少なく、山頂を久しぶりに独占し、静かな冠山の秋を楽しんだ。
（参加者）岩田智鑑　市井ユリエ
東野民夏　金森節子　萩野美紀恵
木村光江　繁田広美　笛藤晋子
田中　茂　夏山春子　村田はる江
橋本　寿　平田輝美　森　美香子
宮本真幸　宮本悦子　村川恭忠
若林文夫　○仲谷礼司
◎鷲見守康（計20名）

大阪南部・岩湯山
（花巡り山行9）
9月12日(日)　晴れ
（集合）南海河内長野駅8・30（タクシー）四季彩館9・35―展望台11・25―ダイトレ分岐12・05―豊道12・20（昼食）13・00―岩湯山13・25―東峰13・50―四季彩館14・35～50―神納16・05～30（バス）河内長野駅16・55（解散）
ショウカイドウがあたり一面をピンク色に染めて大歓迎してくれ、メンバーみんなから感動してもらえた。秋の七草も楽しめた。
（参加者）木村　豊　上山正二
前田初雄　中川節子　猪狩美枝子
西　悦子　和田稔子　道平きわみ
○西原辰夫　○若林健司
◎田中　明（計11名）

黒谷山・花平
（鈴鹿を歩く199）
9月12日(日)　晴れ
（集合）マーガレットステーション8・20（車）筒井峠（展望）―見返り松9・15―P688.8（計9・40―尾根分岐10・00―黒谷山10・15―下刈尾根10・30（昼食）11・20―筒井峠12・20（車）能褒観音12・35―花平13・05―惟喬親王陵13・20（解散）
鈴鹿峠は爽やかな風。P688.8から尾根分岐に着くと北に雄大な天狗堂からサンヤリと続く鈴鹿。黒谷山は植林のなかで展望なし。下刈りの尾根で昼食。惟喬親王陵に車を置いて花平を往復した。ゲンノショウコ・ヤマジノホトトギス・ツリフネソウ等の花々を楽しんだ。
（参加者）岩本彩子　花房高恵子
池田繁美　栗本敏夫　吉村　昭
大西猪郎　白木良弘　白木やす子
神野孝允　永戸鉄治　奥野太一郎
宮脇哲郎　宮野稔子　高瀬井　豊
川田洋子　金谷　昭　南　智恵子
高原芳彦　樫田勝利　藤谷ひろ子
磯部　純　一芝義嚴　一芝美知子
谷　久雄　谷　守　眠木美恵子
村田紀生　多知節子　小林　修
加藤国計　福隅　章　的場たか子
武村千鶴　小林　実　○山田昌三
○後藤康幸　◎岩野　明（計27名）

丹波・森仙山
（ファミリーハイク42）
9月16日(水)　晴れ
（集合）JR新大阪駅7・30（バス）於与岐登山口10・05～15―水分神社10・20―於岐神社10・55～11・05―森仙山11・35（昼食）12・25―576.1m峰12・50―日置谷分岐13・15～20―林道出合13・40―登山口14・00～10（バス）あやべ温泉14・50（入浴）16・10（バス）新大阪駅19・00（解散）
水分神社からとりどりの秋の草花咲く山道を登る。3等三角点の森仙山西峰は初愛し、金峰神社の森仙山で昼食をゆっくりとる。下山の落葉樹林の美しい尾根道は、倒木で歩きにくかった。
（参加者）青木一雄　成川みさお
櫻川笑雄　兼田幸子　鎌田久子
古川正子　柏木幸子　田所真里子
渡部和美　盛　敏子　山中あさみ
吉藤孝次　林尾一正　市野博文
川上友堅　岩本彩子　須藤浩子
長沢佑美　上田久子　保田　正
高木忠夫　加藤浩一　小河美喜子
○秋葉正人　◎木村太郎（計27名）

北アルプス
奥穂高岳から前穂高岳
（週末ハイク62）
9月17日(金)夜～19日(日)
前夜発1泊2日
（17日）（集合）JR京都駅（バス）
（18日　晴れのちくもり）（バス）平湯バスセンター3・00（仮眠）5・30（朝食）6・20（バス）上高地6・45～7・00―明神7・40～8・00―徳沢8・45～9・05―横尾9・55～10・05―本谷吊橋11・05（昼食）11・40―涸沢小屋13・40（泊）
（19日　雨のちくもり）涸沢小屋5・55―本谷吊橋7・25～45―横尾8・40～9・00―徳沢9・50～10・05―明神10・50―上高地11・50～12・00（バス）平湯温泉12・35（昼食・入浴）14・30（バス）京都駅19・50（解散）
涸沢へのガレ場の登山道はナナカマドが紅葉してきれいだったが、奥穂高岳や前穂高岳北尾根は雲のなか。涸沢小屋が近づくと雨が落ち始め、小屋へ入ると小雨となった。夜は風雨強し。夜が明けても風雨が収まらず、天候の回復も期待できないため撤退を決意。徳沢まで下ると晴れてきたが、岳沢ピュッテの前泊をキャンセルし、1日繰り上げて帰路についた。昨年の台風、今年の悪天候撤退と続き、来年への宿題が残った。
（参加者）森　晴代　中尾美智子
高松雅子　内田瑛夫　安田文美江
桜庭　栄　児島愛子　宮脇ちへ子
岩田育士　山本京子　安倉正勝
小松志信　石田哲君一　山縣勝美
南　利夏　鈴木吉和　石倉真佐子
夏岡克子　長尾節子　船越みよ子
○瓜坂義明　◎齊藤東彦（計22名）

若狭の山・三内山
（教育者）
9月18日(土)　くもり
（集合）JR敦賀駅9・40（車）杏見登山口10・10―旗護山11・00～30―4等三角点12・00（昼食）13・00―三内山14・30～45―登山口16・30（解散）
敦賀市街の西に横たわる尾根道。途中、つるが山来会が切り開いた道からやや急勾配が続き、帰路はやや緩やかな道を回避し谷道へくだったが、これまた強行軍であった。
（参加者）木下朝子　光川二美子
若林文夫　谷　守　宮戸菅久江
鯖方由子　木戸雪江　白石初男
中山　勇　平林辰治　平林きみえ
上出和昭　田中永子　田辺美洋子
竹越弘行　上出祥正　佐々江良幸
◎高島伸治（計18名）

鈴鹿・カモシカ高原から御所平
9月19日(日)　◎中西信行
・雨天のため中止しました。

湯北・伊吹吉備と伊吹山
（鈴鹿遠山2）
9月19日(日)　◎筒井克治
・雨天のため中止しました。

お金明神（鈴鹿百山61）
9月19日(日)　くもり一時雨
（集合）近鉄湯の山温泉駅8・25（車）朝明駐車場8・45～55―猪谷入口9・25―羽鳥峠峠10・05―広沢10・50―お金明神11・45―お金峠12・02―上谷尻谷12・20（昼食）13・00―ワサビ峠13・40―ワサビ峠分岐14・05―オゾ谷分岐14・30―タケ谷分岐14・45―根の平峠15・15―朝明駐車場16・25～45（解散）
今回も天気予報が悪くて多くの方が来られなかったが、予定通り一周りした。花はほとんど無くトリカブトの葉のみ印象に残り、雨は午後に30分ほど降ったが、問題なかった。
（参加者）馬場桂子　伊藤恵美子
丹下由子　成瀬忠市　広瀬みち子
林　正義　島脇信春　栗本敏夫
大西信郎　宮村信夫　井上　光
原　光一　原　知永　清田繁美
笹岡正威　山田稔子　◎山田明男（計17名）

鶴川左股から滝山

（比良を歩く34）

9月19日(日) ◎泰 康夫

＊雨天のため中止しました。

播州・千ヶ峰

（近畿百名山に登る74回）

9月20日(日) くもり一時雨

（集合）JR新大阪駅7・40～50

（バス）三谷登山口10・00～10―岩座神道出合11・00～10―千ヶ峰11・45（昼食）12・45―市原峠三本杉14・00～10―市原登山口15・00～20（バス）大阪駅18・15（解散）

渓谷から分かれて急登を二回クリアして山頂に出た。登り空だったが四囲の山がよく展望できた。市原峠への後縁では先の台風で多くの松の木が根元から倒れていて無残であった。市原峠下の三本杉あたりまで植林林道がのびていて、ここから下山の登山道はすでに廃道化している。

（参加者）須藤恵子 桂 久美子 使谷礼司 岩村春子 武藤美美子 宮野哲郎 宮野祐子 片山芳代子 片山克博 松本勝子 佐野信江 渡部和美 盛 敏子 川戸せつ 馬鹿田剪 河野 弘 松原鳳子 田中義雄 長浜佑美 森本幹雄 岩鶴健司 小谷和子 山中あさみ 角田一江 鮫尾一正 久保田玲子 朝谷松雄 澤田高治 嶋 徳保 高木忠夫 加藤浩一 山崎多恵子 太田裕幸 山崎絢子 野木あや子 高橋舜治 藤本桂吉 伊東ナナ子 朝倉利己 ○安倉正勝 ◎村田智俊

（計41名）

谷山・幾里山・ソノド

（鈴鹿を歩く200回特別山行）

9月23日(日) 晴れ

（集合）河内長野全国障害者センター8・00（車）白谷林道終点8・35―花園9・25―谷山9・50―幾里山10・10―ソノド11・40（昼食）12・35―谷山14・20―白谷林道15・20（解散）

白谷林道は秋の草花が続き、杉林にはミカエリソウの群落。谷にはヒナノウスツボ等、登りつめた草原はススキとトリカブトの花園と大展望。幾里山山系は見事に伐採され、植林が終わり大パノラマが展開。絶滅危惧種のヒナノキンチャクとワタムキアザミ、そして白のトリカブト等。めずらしい草花が多く見られ、200回特別山行を祝ってくれた。

（参加者）池田繁美 吉村 昭 岩本彩子 白木良弘 永戸鉄治 奥野太一郎 後藤康幸 奥野太一郎 森田勝利 梁木敏夫 太右將美 一之瀬知子 梁浅康夫 一之瀬雄 石田真由美 原 光一 原 幸子 友田美保子 磯部 純 友田 毅 武村千鶴 大西節郎 嘉藤井 豊 宮野哲郎 小林 修 嶋木美恵子 谷 久雄 杉山能久 加納由紀子 堀 寿江 花房真理子 ◎宮野 明

（計32名）

湖北・伊吹北尾根

（花巡り山行10）

9月23日(日) ◎田中 明

＊雨天のため中止しました。

京都東山・伏見稲荷から蹴上

（地図読み山行63）

9月23日(日) くもり

（集合）京阪伏見稲荷駅9・50―四ツ辻10・30～40―国道1号線地下道11・30―清水山12・35（昼食）13・00―将軍塚13・40～14・15―栗田口14・50―地下鉄蹴上駅15・10（解散）

地形図の読み方を勉強しながら京都一周トレイル全縦走の一回目。雨の予報のため参加者が減ったが、14人で楽しく道程―巻から29番までを歩いた

（参加者）萩野鶴子 宮居ちへ子 川保 巌 栗村由美 中園昌子 森澤元博 森澤淑子 野里マツ代 岡田芳真 山岸勝雄 高月ミツヨ 大森唐行 ○中村 登 ◎塚元一彦

（計14人）

上信越高原三山縦走バードウォッチング

（自然観察山行157）

9月24日(金)夜～26日(日)

前夜発―泊2日

（24日）（集合）JR岐阜駅23・00（バス）

（25日 くもり一時雨）（バス）戸隠村ペンション4・00（朝食）5・30（バス）戸隠キャンプ場5・45～50―不動7・55～8・15―五地蔵山9・20～10・00―高妻山11・30（昼食）12・20―五地蔵山14・25～35―不動15・10～15―戸隠キャンプ場17・00～15（バス）戸隠村ペンション17・30（泊）

（26日 くもり一時雨）戸隠村ペンション7・00（バス）戸隠森林植物園駐車場7・10―森林植物園散策―鏡池9・30～10・00（バス）

神告げ温泉10・30（入浴・昼食）12・10（バス）岐阜駅17・20（解散）

一不動まで、増水した沢の徒渉に苦労し、アップダウンが続く割には高度の変化のない長い尾根に群馬し、山頂直下の急登に喘いだ。雨にも打たれ、ガスで何も見えなかった。リーダーが足を痛めた以外は全員の足が揃い、17時、11時間に及ぶ夜行明けの山行を終えた。

（参加者）吉森孝次 萩野美紀恵 島居信吾 長尾一令 加納由紀子 森脇真義 平田輝美 林 えい子 佐々木三千代 武藤由美子 ○鈴野東彦 ◎鷲尾守東

（計12名）

六甲最高峰

9月26日(日) くもり

（集合）神鉄有馬温泉駅9・05～24―瑞宝寺公園9・40～50―太鼓滝9・55―山上道路11・27―六甲最高峰11・36～45―一軒茶屋11・50（昼食）12・20―土屋割峠12・55～13・20―東お多福山13・30―雨ヶ峠13・45―横滝14・20―風吹岩14・30～45―ビラーロック14・55―小使滝15・50―滝の茶屋16・20（解散）

昨夜の天気予報に反して、青空がのぞくまずまずの天気に気をよくする。しかし、山だしからチョットつまずき、一度あることは三度あるとはよく言ったもので、その通りになった。最高峰は大勢のグループが憩っていた。ビラーロックあたりから地獄谷登下山は青仲びし過ぎた感。全員無事に下山後、滝の茶屋で喉を潤す。今日は湿度が高くてビチョビチョ。有馬の湯が頭をかすめた。

（参加者）角田一江 前田喜久子 小谷和子 栗栖崇吉 栗栖君子 萩野鶴子 森 瑞代 岩脇信司 高山 雄 林 信男 川崎敏雄 フリッツ知恵子 原 文子 ○岡田 昇 ◎古賀慶二

（計15名）

美濃・9月の舟伏山

9月26日(日) くもり

（集合）JR西岐阜駅8・35（車）夏坂林道車止9・40～50―あいの森10・10―桜峠10・45―みのわ平11・30―舟伏山12・20（昼食）13・00―阿弥陀如来の峠14・00―あいの森14・40―夏坂林道車止15・10（車）西岐阜駅16・20（解散）

8月はフジグロセンノウ・キツネノカミソリのオレンジ色が印象的の山行でしたが、9月はアキチョウジ・トリカブトのパープル山行だと皆で話した。（記録・山田紗子）

（参加者）亀井悦子 市井ユリエ 吉村 昭 佐藤文枝 今井みよ子 今井武司 山田紗子 岡本美子子 水野寛子 多胡即子 伊藤恵美子 南 智恵子 猪飼美枝子 ◎山田明男

（計14名）

伊勢・白猪山

（ファミリーハイク43）

9月25日(水) ◎木村太郎

＊台風通過のため中止しました。

左大文字山・衣笠山・御室山

（北山ちょっと歩き59）

9月26日(水) ◎呉山繁三

＊台風通過のため中止しました。

湖西・大谷山

9月30日(水) 雨のちくもり

（集合）京都駅八条口7・15（バス）マキノ高原9・00～15―ブナの木平10・10～20―葉柄越11・15―ムギの峰12・15（昼食）12・55―大谷山13・25～35―ムギの峰14・10～20―マキノ高原15・45～16・00（バス）京都駅18・00（解散）

マキノ高原に向かう車中、虹が橋に出たり前に出たりと楽しませてくれた。台風は通り過ぎたのに小雨が残り、葉柄越から大谷山の後縁では体が揺らぐ強風があった。昼からは雨が上がり、大谷山からは琵琶湖が大きく光っていた。

（参加者）栗栖崇吉 栗栖君子 東中次夫 武田元可 武田和己 中村英雄 平田輝美 青木一雄 須藤恵子 沖 伸 氷見真砂子 鮫尾一正 長沢佑美 大谷雅子 吉怪孝次 榊 熙司 榊 美栄子 若林文夫 西 悦子 小河美奈子 加藤元彦 金森節子 砂原恵美子 岩本彩子 細野敏也 志水明美 堀木金三 和田武蔵 谷 守 ○川上久繁 ◎寺井恒夫

（計21名）

阿弥陀ケ峰・谷山の池・洞窟巡り

（鈴鹿を歩く201）

10月3日(日) くもり一時雨

（集合）いぼとり地蔵広場8・30（車）谷山谷広場8・45―一の谷出合9・45―ひょうたん池12・10―三蔵の池12・50（昼食・洞窟めぐり）13・45―谷山谷源流14・30―登山口広場16・10（解散）

山は深いガスと小雨。谷山谷から横道の登りは霧雨でほとんど道

が消えていた。井戸ヶ池も七釜の下、三蔵の池で昼食をとり、洞窟をめぐって今山谷へ下山した。時間がなく阿弥陀ヶ峰はカット。絶滅寸前種のマネキグサ・サクシナショウマ・ジンジソウ・レイジンソウ等の秋の草花を楽しむことができた。

（参加者）白木良弘　白木やす子　池田繁美　大石秀美　奥野太一郎　下村啓三　下村啓子　末下朝子　栗本敏夫　酒田公明　南　智恵子　大西信郎　岩本宏子　今井みよ子　磯部　純　永戸鉄治　細木美恵子　坂田明美　一芝義雄　谷　久雄　犀田勝利　笹岡平蔵　多胡節子　武村子鶴　小林　修　石田真由美　原　光一　原　幸子　杉山能久　伊丹利子　小林　実　○山田浩三　○後藤康幸　◎若野　明（計31名）

紀北・生石ケ峰

（近畿百名山に登る75回）

10月3日(日)　くもり

（集合）近鉄上本町駅8・30～40（バス）御幸橋東インター10・00（バス）小川の宮上林道駐車地10・40―不動辻登山口11・30―生石高原荒れ石ヶ休憩峰12・35（昼食）13・15―生石ヶ峰13・35～45―往路―不動辻登山口15・00―駐車地15・30～45（バス）難波駅17・50（解散）

大展望とススキの高原を期待して登ったが、山頂付近は一面ガスに包まれていた。バスの駐車地から山路までずっと利口な犬が道案内してくれ、帰りもバスまでいっしょに歩いてくれた。山はおもしろくなかったが、犬のおかげで微笑ましい山歩きだった。

（参加者）岩村孝子　武部美恵子　木村　豊　入江武史　岩田育士　青木一雄　宮野哲郎　宮野敏子　兼田幸子　須藤浩子　佐野信江　若林文夫　吉條孝次　渡部和美　松田　久　朝倉松雄　村田はる江　宮下淳一　宮西和子　高岡宮美子　大和　紘　中村英雄　井上恭子　中川節子　三井紘一　山高多恵子　加藤浩二　妹尾一正　中嶋日出男　小池一郎　桜庭　栄　桜庭和子　松尾一郎　多賀久子　林　信男　中川光郎　○吳比裕美　○安倉正勝　◎村田智俊（計39名）

越後・会津の山

浅草岳・守門岳・会津朝日岳

（週末ハイク63）

10月8日(土)夜～12日(水)

前夜発3泊4日

（8日）（集合）JR京都駅八条口21・00（バス）

（9日　雨）（バス）五味沢音松荘6・10（朝食後、台風による悪天候のため登山中止、沈殿、泊）

（10日　晴れ）音松荘6・50（バス）ネズモチ平駐車場7・10～15―登山口7・25―前岳鞍部9・00～10―浅草岳9・20～45―前岳10・00―ムジナ沢カッチ10・45～50―北岳11・20～25―鬼ヶ面山11・40（昼食）12・30―南岳13・00～10―マイクロ中継局13・50～14・10―六十里越登山口14・50～55（バス）田子倉ダム15・15～35（バス）音松荘16・25（泊）

（11日　くもりのち晴れ）音松荘6・20（バス）赤倉沢登山口7・40～50―三吉ミチギ8・55～9・05―人見ノ松10・05―叶ノ高手10・30～50―熊ノ平11・20―バイウチノ高手11・40―会津朝日岳12・05（昼食）12・50―バイウチノ高手13・20―熊ノ平13・35―叶ノ高手14・05～15―三吉ミチギ15・10～20―いわなの里16・20～30（バス）深沢温泉16・50（泊）

（12日　晴れ）深沢温泉8・30（バス）京都駅18・50（解散）

9日は台風別府の予報通路に入っていたため登山中止。予定していた三山のうち、浅草岳と会津朝日岳を登ることに決定。10日、曇りの予報が外れて晴天。草モミジや紅葉が美しい浅草岳から先は登山を断念した。守門岳や越後・会津・上州方面の山々を望めた。鬼ヶ面山への縦走路は東面が田子倉湖へ落ち込んだ崖の道を歩く感じでちょっとスリルがあるルートで、崖に張り付いた木々の紅葉もすばらしかった。下山後、縦走路を見上げるため田子倉ダムに寄り道した。11日、人見ノ松までの急登のブナ林の黄葉は今一つだったが、会津朝日岳から見下ろす岩山の紅葉は見事だった。

（参加者）鈴谷利治　安田文美江　山本京子　山縣勝美　桂　久美子　南　利憲　船越利明　船越みよ子　加藤元彦　吉越　清　川上喜代子　小松志信　石倉晃佐子　宮路ちへ子　○馬家和明　◎若野英彦（計16名）

白山・三ノ峰と平家岳

10月9日(土)夜～11日(日)

前夜発1泊2日

（9日）（集合）JR京都駅23・30（バス）

（10日　晴れ）（バス）上小池駐車場4・00（仮眠・朝食）6・10―林道登山口6・25―山道跡6・50～7・00―六本檜8・30―剣ヶ岩9・30―避難小屋10・10（昼食）11・00―三ノ峰11・10～15―六本檜13・00～10―山道跡13・50～14・00―林道登山口14・20―刈込池15・00～20―上小池駐車地15・50～16・00（バス）鳩ヶ湯温泉16・20（泊）

（11日　くもりのち晴れ）鳩ヶ湯温泉6・30（バス）両谷川林道駐車地8・30―林道終点9・10―登山口広場9・20～30―後緑伊勢川橋コース出合10・30―井岸山12・00―小平家12・30―平家岳12・45（昼食）13・15―伊勢川橋コース出合15・00―登山口広場15・45～50―バス駐車地16・30～17・00（バス）京都駅21・10（解散）

台風の通過で1日延期し、白山本峰には登らずに上小池から三ノ峰を往復した。夜行の疲れもあって鳩ヶ湯新道の剣ヶ岩からの登りはきつかった。三ノ峰山頂付近はガスがかかって展望はなし。下山する頃に晴れてきて紅葉が美しかった。下山後、ブナ林の中の刈込池を周遊した。鳩ヶ湯温泉で疲れをとった翌日は、これまた凄くて高い、360度大展望の平家岳を往復した。秋の気配を満喫し、よく歩いた二山であった。

（参加者）吉條孝次　武部美恵子　若松　寛　角田一江　前田喜久子　小谷和子　平田輝美　伊東ナナ子　上田平三　上田正子　市井ユリエ　宮野哲郎　宮野敏子　山岸勝雄　多賀久子　朝倉松雄　首藤育子　井上恭子　沖　伸　久保田玲子　○安倉正勝　○吳比裕美　◎村田智俊（計23名）

上信越・戸隠山と奥裾花自然園

（自然観察山行158）

10月9日(土)夜～11日(日)

◎鷲見浩康

＊台風22号による京大予想のため中止しました。

京都東山・峰上から大文字山

（地図読み山行64）

10月10日(日)　晴れ

（集合）地下鉄蹴上駅9・00―日向神社9・25～30―忠実堂9・50～55―四ツ辻11・00―大文字山三角点11・05（昼食）12・20―法然院13・30～35―銀閣寺前13・45（解散）

台風22号が通過後の秋晴れの一日、地形図とコンパスの勉強をしながら、京都一周トレイルの二回目を実施。大文字山を登ってください、比叡山は次回に回して銀閣寺で解散した。

（参加者）宮下淳一　岡田芳員　本間　隆　本間智子　中嶋日出男　森澤元博　森澤淑子　前田栄三　大槻一夫　山岸勝雄　岩本いすゞ　川上大堅　柴木秀雄　◎中村　登（計14名）

紀北・高野山町石道

10月14日(水)　晴れ

（集合）南海九度山駅8・31―真田庵―慈尊院9・15―六本杉跡11・20―二ツ鳥居―小安地蔵12・00（昼食）12・30―矢立14・00―大門15・55（解散）

慈尊院で道中の安全を祈り町石道に挑んだ。10月にしては少し暑く感じたが、秋晴れの古道を落伍者もなく完走できた。

（参加者）熊尾健治　岡田芳員　木村　豊　井上聡美　水本加津栄　東山裕夫　木下朝子　桜田　隆子　山根弘美　○井上田紀晴（計11名）

播但・砥峰高原

（ファミリーハイク44）

10月14日(水)　晴れ一時雨

（集合）JR新大阪駅7・30（バス）砥峰高原駐車場10・20～30―高原展望台川・10～15―林道出合11・30―夜叉山登山口11・50～55―登山口13・20―自然交流館14・00―駐車場14・10～20（バス）モンテローザの湯14・50（入浴）16・00（バス）新大阪駅18・30（解散）

砥峰高原口から温室観察木道をたどり、秋風にススキがゆれる絵画のような風景に親しんだ。夜叉山へ廻り晩晴山や段ヶ峰の山々を眺め、快晴の下くつろぐ下山途中にわか雨に遭遇した。

（参加者）尾崎光子　成川みさお　阪田久子　兼田幸子　田所真理子　青木一雄　川上久堅　西條真彦　吉條孝次　盛　敏子　山中あさみ　渡部和美　中江波剛　本田久美子　市野博文　松井明忠　田中三郎子　妹尾一正　本間昭憲　中澤ちずず子　村上喜孝子　○秋葉正人　◎木村太郎（計23名）

鈴鹿・天生峠から羽鶴山

（自然観察山行159）

10月15日(金夜)～16日(土)
前夜発日帰り
(15日)(集合) JR岐阜駅23・00(バス)
(16日 晴れ)(バス) 白川村道の駅2・00(仮眠・朝食) 5・30(バス) 天生峠駐車場6・15～30—天生渓谷かつらの大木分岐点7・10—木平湿原分岐点8・00—初雪山8・55～9・33—木平湿原分岐点10・10—木平湿原—ダケカンバの大木10・45(昼食) 11・25—天生渓谷かつらの大木分岐点11・55—天生峠駐車場12・25～45(バス) 白川郷ロッジ13・45(入浴) 14・30(バス) 岐阜駅16・35(解散)

山は久々にさわやかに晴れ上がった。天生渓谷の見事なブナ原生林のなかを歩き、秀麗な山頂から一直線に並んだ初冠雪の北アルプスを展望した。

(参加者)岡田直規 大須賀 實 伊藤 直 伊藤和代 荻野美紀恵 沖 伸 金森節子 小崎由利子 栗栖君子 橋本 寿 砂原恵美子 原 幸子 平田輝美 武藤由美子 宮西和子 村川泰忠 村田はる江 山高多恵子 渡辺かつこ ○栗栖栄吉 ◎賀貫寿康(計21名)

伊吹五合目から弥高山
(花巡り山行11)

10月16日(土) 晴れ
(集合)伊吹登山口9・00—五合目12・00(昼食) 12・30—弥高山14・00—ジョイ伊吹16・00(バス) 近江長岡駅16・30(解散)

ヤマラッキョウ・リンドウ・センブリ・リュウノウギク等で今年の花巡り山行はフィナーレとなりました。

(参加者)西原辰夫 木村 豊 上山正一 前田初雄 松田和恵 竹田勝英 堀江静雄 ○岩鶴健司 ◎出中 明(計9名)

若狭の山
駒ヶ岳(上中町)

10月16日(土) 晴れ
(集合)道の駅「熊川宿」9・00(車)白石神社登山口9・25—若狭森林公園10・10—尾根11・20—駒ヶ岳11・40(昼食) 12・40—無名池13・20—尾根分岐13・40—明神谷林道終点14・00—白石神社15・30～40(解散)

相次ぐ台風に見事なブナ林も姿がすっかり落ちて、今までにない明るい駒ヶ岳であった。快晴の頂上からは大いなる若狭湾、伊吹山・霊仙山、福井県側遠の山々まで大パノラマ。カエデの林では死んで間もない鹿の死骸、林道ではうり坊に遭遇した。

(参加者)吉篠孝次 磯部 純 木下朝子 石原君子 長沼 仁 谷 守 荒川静史 荒川二美子 磯部絵子 白石初男 中山 勇 高島洋子 ◎高島伸浩(計13名)

湖北・河内山(鈴鹿遠山3)

10月16日(土) 晴れ
(集合)北国街道柳ヶ瀬トンネル東口8・00(車)池河内湿原8・30—県境9・30—県境鉄塔往復—河内山10・30(昼食) 12・00—池河内古道14・00—池河内15・00(解散)

ヒンヤリとした好いお天気、池河内湿原の木道は霜がひどい。河内山への登りは日本海の見晴らしの良い道。県境尾根は明るいブナの樹林。歴史を刻んだ深い古道を歩いた。

(参加者)赤戸鉄治 後藤康幸 ◎岡井克治(計3名)

イブネ・クラシ・高畠
(鈴鹿百山62)

10月17日(日) 晴れ
(集合)近鉄湯の山温泉駅8・25(車)朝明駐車場8・55—根の平峠9・50—タケ谷分岐10・15—クラシ谷経由尾根取付10・45—クラシ11・45—クラシ最高点12・00(昼食) 12・35—イブネ北端12・45—イブネ山頂往復13・00—高畠13・15—高畠鉱山跡14・00—コクイ谷分岐14・30—根の平峠15・20—朝明駐車場16・25(車)湯の山温泉駅17・00(解散)

初めて参加の方も多く、今日のルートは急登と急下降で驚かれたようですが、食事の場所の見晴らしは360度、鈴鹿の山並が70%は見られて大満足だった。

(参加者)林 正義 伊藤忠美子 丹下由子 成瀬宗市 吉川 昭 藤堂国男 島居信吾 宍戸喜久江 土井光正 西村文男 佐古田文子 池田繁美 細田勝義 篠原美佐子 栗本敏夫 谷 久雄 宮村信夫 大西信郎 山村長男 伊藤喜久男 木戸五郎 和泉元一 ○高橋芳彦 ◎山田明男(計24名)

坊村から堂満岳
(比良を歩く35)

10月17日(日) 晴れ
(集合)JR堅田駅8・40～45(バス)坊村9・35～50—牛コバ10・32～37—大橡広場11・55(昼食) 12・20—南比良峠12・52—堂満岳登り口13・15—堂満岳13・35～45—ノタノホリ上の分岐15・10—栗谷道出合15・23—志賀バイパス15・42—比良駅16・05(解散)

紅葉にはまだ早かったが、好天に恵まれて快適な山歩きの一日を過ごした。ややロングコースだったが、全員の足が揃っていたので、予定時間より早く、明るいうちに安全地帯まで下山できてよかった。

(参加者)馬籠忠男 中嶋日出男 山科邦彦 川田洋子 西原裕子 三上仲夫 蓮井洋子 児島愛子 前田初雄 東中次夫 大和 紘 和田純子 中川光郎 高岡宮澄子 宮野哲郎 宮野純子 川北道美子 佐野信江 武部 剛 武部美恵子 松村雅子 塩谷敏也 堅田美佐子 中川節子 ○宮下淳一 ○吉木一雄 ◎秦 康夫(計19名)

桃尚山・奥草山・政子
(鈴鹿を歩く202)

10月17日(日) 晴れ
(集合)かもしか荘広場7・50(車)水無尾根広場8・20—綿向山10・00—ブナの木平10・20—塩の道峠11・10—奥草山12・00(昼食) 13・10—政子13・20—野洲川ダム14・25—かもしか荘14・50(解散)

さわやかな秋晴れ、水無尾根にはキッコウハグマの可憐な花やワタムキアザミ・センブリ等。金明水の上のブナの巨木、綿尚山のブナの原生林、ブナの木平と秋のブナ林を堪能。そして大パノラマ。一気に下りて奥草山に登り着くとカヤ原は消え、地蔵の山頂に装わっていた。のんびりと昼食、楽しい山行となった。

(参加者)白木良弘 白木やす子 堅田勝利 木下朝子 奥野太一郎 武村千鶴 永戸鉄治 今井武司 池田陸一 岩本彩子 石田真由美 杉山能久 一芝義雄 一芝美知子 小林 修 市田政子 網木幸恵子 岸田明美 伊戸彩子 ○山田忠三 ○徳隆重幸 ◎岩野 明(計20名)

佐々里峠から芦生トロッコ道
(北山ちょっと歩き60)

10月20日(水) ◎良山忠三
＊雨天のため中止しました。

湖北・金糞岳
(平日ふれあいハイク49)

10月21日(水) くもりのち晴れ
(集合)JR京都駅八条口7・15(バス)長浜インター(バス)近江高山(バス)鳥越林道600㍍地点10・10—林道960㍍交差点11・00～10—小朝の頭11・45—金糞岳12・55(昼食) 13・35—往路—林道960㍍交差点15・10—林道600㍍地点16・00(バス)京都駅18・30(解散)

台風23号通過後の山行となった。昼頃より雨晴れとなったが、紅葉にはすこし早く、薄ガスがかかって展望もきかなかった。

(参加者)仲谷礼司 安良岡子 本間 隆 平田輝美 木村 豊 栗栖栄吉 山岸勝雄 石井恵美子 田中善雄 榊 魁司 榊 美恵子 松井明忠 大東 哲 永良宮静枝子 中村英雄 山根弘美 久保田玲子 西 悦子 吉篠孝次 ○川上久堅 ◎寺井恒夫(計21名)

四国・東赤石山
10月23日(土)～24日(日)
◎石貫慶二
＊現地災害のため中止しました。

代替山行
美作北部・滝山(那岐山縦走)

10月24日(日) 晴れ
(集合)JR加古川駅7・55(バス)声ヶ滝9・45～10・00—広戸仙11・35(昼食) 11・50—あがけ峠12・20—滝山13・10(昼食) 13・50—あずま屋14・25—那岐山14・35—那岐山最高点15・05—那岐山15・25—大神岩15・50—水場16・30—登山口17・15(バス)山の駅17・35(バス)加古川駅19・25(解散)

すばらしい好天に恵まれた。紅葉を期待したが、台風で楓木の葉はほとんど無く紅葉は薄い。広戸仙から滝山・那岐山がすばらしい山並を見せてくれた。あがけ峠から滝山への登りはいきなりの急登でこたえた。大自然のなかへ大きく包み込んでくれる那岐山は優しい。しかし、台風23号は、那岐山周辺地の檜や杉の人工林をことごとく凄まじい勢いでなぎ倒していた。倒木を跨ぎくぐり、時に大きく迂回し、枝を切り落としながら難渋した。倒木は延々と駐車場まで続いた。何とか全員、明るいうちに無事下山できたことに感謝。

（参加者）栗栖八吉　岡田恵美子
小谷和子　塩尻吉蔵　前田喜久子
森本　勝　森本淳子　桂　久美子
須藤芳子　森　瑞代　光川二美子
松村雅子　首藤育子　河本英子子
竜山　雄　馬瓶忠男　神　伸
上田直代　篠原誠一　石田賢二
岩城登子　松尾駿子　岩藤健司
○福岡　章　○岡田　昇
◎古賀隆一　（計26名）

養老の山・10月の伊吹山

10月24日㈰　晴れ
（集合）JR西岐阜駅8・35（車）あいの森駐車場9・40～50―桜峠10・45―みのわ平11・15―伊吹山12・00（昼食）12・40―阿弥陀如来の峠13・40―あいの森駐車場14・30（車）西岐阜駅16・15（解散）

花は少なくなったが実は多く見られ、ぼけ咲き？のスミレが四種も見られ、和気あいあいと一廻りした。（記録・山田妙子）

（参加者）亀井悦子　北村つねみ
藤本紀子　笹岡生蔵　伊藤恵美子
小林一世　春見重美　生越恵美子
丹下由子　佐藤文枝　今井みよ子
吉田峰子　山田妙子　長坂佐知子
◎山田明男　（計15名）

紀泉・岩湧山

（近畿百名山に登る76回）
10月24日㈰　晴れ
（集合）南海紀見峠駅9・20～40―越ヶ滝10・10～15―三合目10・50―根古峰三角点11・00―南葛城山分岐11・30―五ッ辻11・50―岩湧山12・20（昼食）13・30―原山14・00～10―カキザコ14・45～55―滝畑ダム登山口15・20～40―滝畑ダムバス停15・45～16・12（バス）南海河内長野駅16・55（解散）

ススキの山頂は美しく、快晴に恵まれて大勢の登山者で賑わっていた。原山から滝畑ダムにくだる健脚コースを見たが、予定通りダイトレをくだった。以前四景林だった所が大きく伐採されていた。

（参加者）宮下淳一　武部美美子
松田　久　佐野信江　野末あや子
澤田英治　志水明美　笹井百合子
林　信男　小山誠次　山島多恵子
中嶋日出男　名倉マサ子
○宮武裕美　○安倉正勝
◎村田智俊　（計16名）

湖西・乗鞍岳

10月24日㈰　晴れ
（集合）JR京都駅八条口7・20（バス）国境スキー場9・25―鉄塔弧34 10・00―稜線10・35―乗鞍岳11・15―パラボラアンテナ11・40（昼食）12・35―芦原岳13・40―鉄塔広場14・15―猿ヶ馬場三角点14・30―林道出合15・10―在原分岐15・35（バス）京都駅17・30（解散）

合歓が頻繁に通過したため、木の葉が散り紅葉が見られなかった。乗鞍岳からは穂高連峰北部のつづら尾、東山、竹生高が見えた。山頂は風が吹いて寒いのでパラボラアンテナで昼食にした。雲はやおだったが切り開きがあり、猿ヶ馬場へ来に行けた。切り開きをそのままくだって間違いに気づいたが、お陽で林道歩きが短縮できた。

（参加者）木村　豊　萩野暢子
竹田善美　宮松雅子　村田はる江
若林文夫　川上友堅　田中　明
宮西和子　松本勝子　蓮井洋子
多賀久子　山根弘美　布施清美
三井紘一　石田高教　佐古田文子
高橋舞治　福井清之　岩本彩子
○中西信行　○鵜野宗治
◎森脇真義　（計23名）

芦生・三国峠

10月27日㈯　くもり
（ファミリーハイク45）
（集合）JR新大阪駅7・00（バス）若狭路谷出合広場11・25―クチクボ峠11・55～12・00―三国峠12・25（昼食）13・00―野田畑峠14・25～40―上谷出合15・20―長治谷小熊15・45―地蔵峠16・10―若狭路谷出合17・10～20（バス）新大阪駅20・15（解散）

ブナやミズナラの芽吹に染められた芦生の森は、別世界のかがやきを放っていた。雨の後の谷道を幾度も徒渉、自然界との対話を楽しんだ一日だった。

（参加者）木村　豊　中尾美智子
川上友堅　吉様孝次　市野博文
栗栖忠吉　栗栖君子　光川二美子
上田久子　盛　敏子　山中あさみ
大谷草子　渡部和美　本田久美子
古川正子　柏木美子　田中三恵子
井上喜子　原　幸子　冨田雅子
林　正義　宮野琢子　金藤千恵子
村上喜子　妹尾一正　中澤ちず子
岩城登子　奈良邦子　高岡隆嘉子
前田初雄　三輪頂文　岩本彩子
田中孝子　朝倉利巳　塚本忠次
藤村勝彦　○秋葉正人
◎木村太郎　（計38名）

（9・10月の参加者　延785名）

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（毎月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で14年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。

リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い高代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

四季の自然に触れながら山を歩き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（バッジ代）
年会費　3000円（雑誌共）

入会の申し込み（随時）はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に一～二回程度の山行例会を計画・実施していただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方々、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

◎山行リーダー（平成17年1月現在）
岩野　明（鈴鹿を歩く）☎0748（33）7215
稲垣逸夫（三重の山）☎05593（71）0246
荒野東彦（週末ハイク）☎075（933）1458
木村太郎（ファミリーハイク）
大阪☎06（6834）5488
長山繁二（北山ちょっと歩き）
京都☎075（661）1309
古賀隆一（主に兵庫県の山）
兵庫☎0794（226）1890
須磨岡　穣（主に兵庫県の山）
兵庫☎0792（73）3307
鷲見守康（自然観察山行）
岐阜☎0583（83）3978
高島伸浩（敦賀市周辺の山）
福井☎0770（23）2443
田中　明（花巡り山行）
京都☎075（954）5758
塚元一彦（地図読み山行）
大阪☎06（6933）4125
筒井宏治（鈴鹿遊山）
三重☎0593（83）4058
寺井信夫（平日ふれあいハイク）
京都☎075（811）5231
中西信行（京都北山・鈴鹿他）
京都☎075（311）6023
仲谷吉司（火曜ハイク）
京都☎075（952）1577
西上利和（主に大阪・奈良県の山）
大阪☎0721（63）7196
奉　康夫（比良を歩く）
京都☎075（491）2373
村田智俊（近畿100名山に登る他）
京都☎0774（53）2754
森脇真義（滋賀西の山）
滋賀☎0740（22）5088
山田明男（鈴鹿岩山・三雲所瓜の山）
岐阜☎0584（56）1466

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号50118番から50333番まで

【岐阜】山田妙子
【滋賀】伊藤信男　篠原美佐子
【京都】井上裕輔　竹内正子
岩佐　修　北川郁彦
【奈良】増田美也子
【大阪】伊丹敏子　笹井百合子
松尾久之　木内昭文　佐藤恵子
村本俊弘　池田よし子
【兵庫】菅井宏巳　（16名）

訂正とお詫び

79号（晩秋）106ページ三段9行目「涼風」は「海風」が正しい。（編集部）